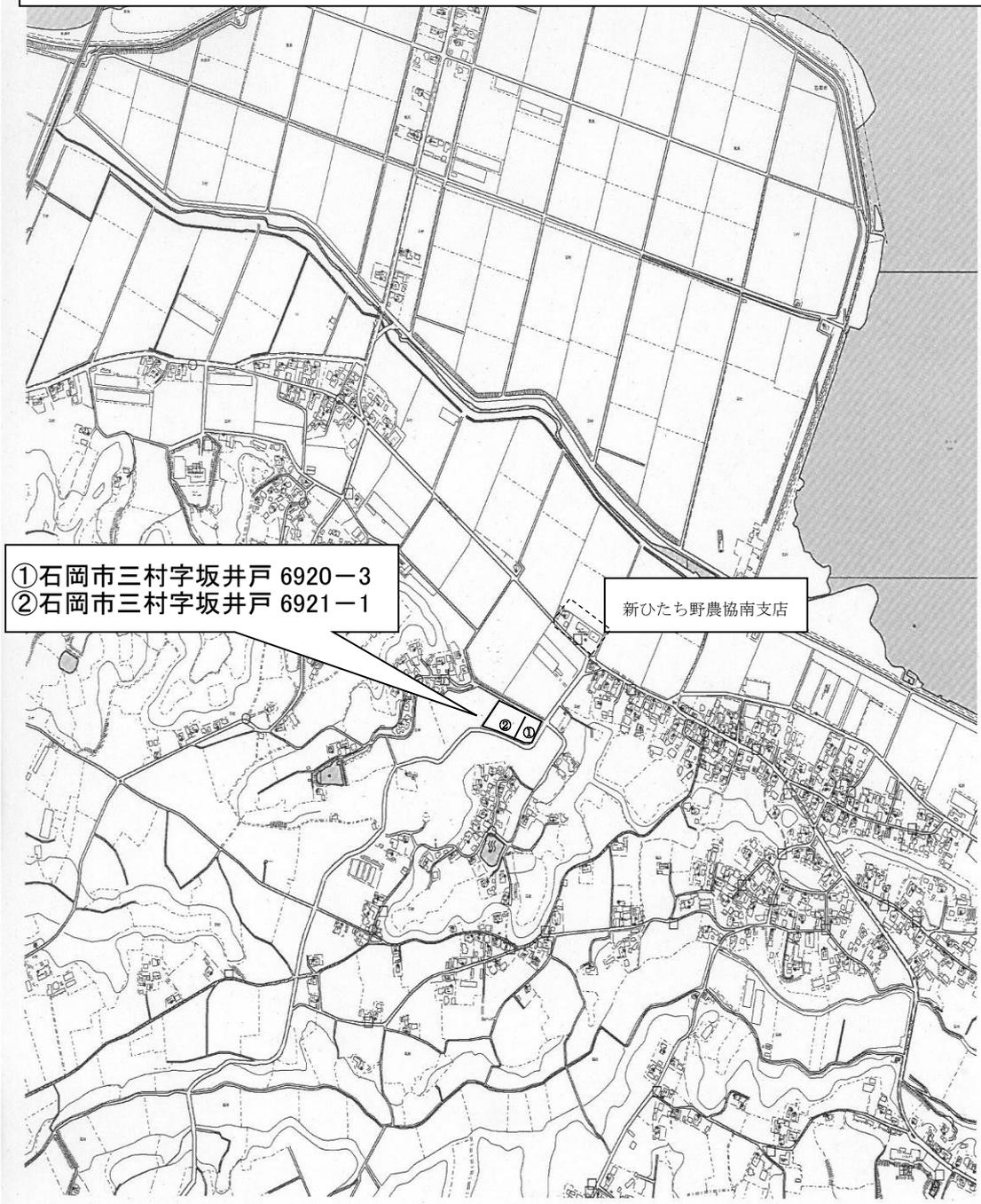


工事費執行(変更)概要書				消防長	次長	課長	課長補佐	課員	審査員	設計者	
執行年度	工事名	石岡消防署愛郷橋出張所新築工事									
R2 年度	工事場所	石岡市三村字坂井戸6920番3, 6921番1 地内									
設計(変更)概要				施工方法	請負・ <del>委託</del>						
【建築物】				原契約年月日	令和 年 月 日						
建物等名称	階数	階数	建築面積	延べ床面積	工期	令和 年 月 日から 令和 3年 2月 28日まで 日間					
石岡消防署愛郷橋出張所	鉄骨造	1階	570.61 m <sup>2</sup>	544.61 m <sup>2</sup>							
【建築毎の各階床面積 m <sup>2</sup> 】				請負人							
建物等名称	地下1階	1階	2階								
石岡消防署愛郷橋出張所	-	544.61	-	-	544.61						
I. 建築工事 一式				費目	起工	第 回変更	第 回変更	増減(△)			
II. 電気設備工事 一式				起工額	円	円	円	円			
III. 機械設備工事 一式				請負に付する額	円	円	円	円			
IV. 外構工事 一式				工事価格	円	円	円	円			
V. 造成工事 一式				消費税相当額	円	円	円	円			
				請負決定額	円	円	円	円			
変更理由				<p>変更工事価格算定基準: 変更工事価格 = 変更積算工事価格 × <math>\frac{\text{起工時の請負決定額}}{\text{起工時の委託に付する額}}</math> (少数第7位切り捨て6位止め)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             変更積算工事価格 円           </div> <span>×</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             請負比率           </div> <span>=</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             変更積算工事価格 円           </div> </div>							

石岡消防署愛郷橋出張所新築工事 位置図(拡大)





## 特記仕様書 (建築工事)

### I 工事概要

1. 工事名 石岡消防署愛郷橋出張所新築工事
2. 工事場所 茨城県石岡市三村字坂井戸 6920 番地 3、6921 番地 1 地内
3. 敷地面積 4,913.85 m<sup>2</sup>
4. 建設工事その他概要 (建物名称, 構造, 階数, 建築面積, 延べ面積, 各階床面積, 等)
  - (1) 工事範囲 ・「(2)建物概要」すべて ※「(2)建物概要」のうち一部
  - (2) 建物概要 消防署出張所 : 鉄骨造平屋建て  
(全体)

建物名称	愛郷橋出張所		
構造	S 造	造 一部 造	造 一部 造
階数	地上 1階	地上 階 地下 階	地上 階 地下 階
建築面積	570.55 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	544.38 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

(建物毎の各階床面積 m<sup>2</sup>)

建物名称	地下1階	1階	2階	3階	4階	5階	計
愛郷橋出張所		544.38					544.38

5. 別途工事

## II 建築工事仕様

- (1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、  
◎を付けたものを適用する。  
◎公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）（以下、「標準仕様書」という。）  
◎建築工事標準詳細図（平成31年版）（以下、「標準詳細図」という。）  
・建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。
- (3) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
  - 2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。  
◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
◎印と※印の付いた場合は、共に適用する。
  - 3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図及び当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	1 適用区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。</li> <li>・風圧力 風速 (V0= 34 m/s) 地表面粗度区分 ( ・ I ・ II ◎III ・ IV )</li> <li>・積雪荷重 平成 12 年 5 月 31 日建設省告示第 1455 号における区域 別表 ( )</li> <li>・</li> </ul>
	2 環境への配慮	<p style="text-align: right;">(1.4.1)</p> <p>(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <p>①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</p> <p>②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</p> <p>③接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含む難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。</p> <p>④①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。</p> <p>(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。</p> <p>①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料</p> <p>②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料</p> <p>④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p>
	3 材料の品質等	<p style="text-align: right;">(1.4.2)</p> <p>(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。</p> <p>(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。</p> <p>①品質及び性能に関する試験データを整備していること。</p> <p>②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</p> <p>③安定的な供給が可能であること。</p> <p>④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。</p> <p>⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</p> <p>⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。</p>

章	項目	特記事項																									
1 一般共通事項	3 材料の品質等	<p>(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 無収縮グラウト材, 乾式保護材, 既製調合モルタル, 既製調合目地材, 錠前類, クローザ類, 自動扉機構, 自閉式上吊り引戸機構, 防水剤, 現場発泡断熱材, フリーアクセスフロア, 移動間仕切, トイレブース, 煙突用成形ライニング材, 天井点検口, 床点検口, グレーチング, 屋上緑化システム, エポキシ樹脂, ポリマーセメントモルタル, 床型枠用鋼製デッキプレート, 鉄骨柱下無収縮モルタル, ルーフドレン, 吸水調整材, 重量シャッター, 軽量シャッター, オーバーヘッドドア, 可動間仕切, トップライト, 鋳鉄製ふた</p> <p>(6) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材については, 茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12年法律第100号)」に基づく, 「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成30年2月9日閣議決定)」(以下「グリーン購入法基本方針」)により, 県が定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。</p> <p>(7) 上記の条件を満たすものが市産品で確保できる場合には, その優先使用に努めるものとする。なお, 市産品とは, 「石岡市内で生産されたもの, 又は加工し製品化されたもの」とする。 ただし, 木材については, 県内の森林から合法的に産出された木材を使用することとし, 「いばらき優良木材証明制度」に基づく証明書など, 県産木材であることが確認できる資料を提出して監督員の承諾を受けることとする。</p>																									
	4 室内空気中の化学物質の濃度測定	<p style="text-align: right;">(1.5.9)</p> <p>室内空気中のホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン(学校施設については, パラジクロロベンゼンについても対象とする。)の濃度を測定し, 測定結果を監督員に報告すること。 採取方法及び測定方法は, 厚生労働省が示した室内空気中化学物質の標準的な方法とし, ホルムアルデヒドの測定方法は, ジニトロフェニルヒドラジン(DNPH)誘導体化固相吸着/溶媒抽出-高速液体クロマトグラフ法により, その他の揮発性有機化合物の測定方法は, 固相吸着/溶媒抽出法とガスクロマトグラフ/質量分析法の組み合わせにより行い, パッシブ型採取機器により行うこと。 測定対象室は, 平成15年4月1日通知「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ, 下表の数を標準とする。(指針値は, 付記事項の6を参照)</p> <table border="1" data-bbox="531 1285 1471 1359"> <tr> <td>室の床面積 A(m<sup>2</sup>)</td> <td>A ≤ 50</td> <td>50 &lt; A ≤ 200</td> <td>200 &lt; A ≤ 500</td> <td>500 &lt; A</td> </tr> <tr> <td>測定箇所数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>室内空気中の化学物質の濃度測定対象室箇所数表</p> <table border="1" data-bbox="531 1393 1329 1574"> <thead> <tr> <th>室名(測定対象室)</th> <th>床面積</th> <th>測定箇所数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>庁舎部分</td> <td></td> <td>2ヶ所</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	室の床面積 A(m <sup>2</sup> )	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A	測定箇所数	1	2	3	4	室名(測定対象室)	床面積	測定箇所数	庁舎部分		2ヶ所									
	室の床面積 A(m <sup>2</sup> )	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A																						
	測定箇所数	1	2	3	4																						
	室名(測定対象室)	床面積	測定箇所数																								
	庁舎部分		2ヶ所																								
5 リサイクルの優先順位	(1)発生抑制の徹底 (2)再使用の徹底 (3)再資源化の徹底 (4)適正処分の徹底 (再資源化に係る作成書類は, 付記事項の5を参照)																										
6 発生材の処理等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発注者に引渡しを要するもの ※なし ・あり 処理方法 ( )</li> <li>・特別管理産業廃棄物 ※なし ・あり 処理方法 ( )</li> <li>・現場での再利用を図るもの ※なし ・あり 品目 ( )</li> </ul>																										
7 下請負人通知書	建設工事請負契約書に基づく下請負人通知書を, 市と請負契約を締結した日から原則として30日以内, その後の下請契約に係るものは, 契約締結の日から10日以内通知するものとする。																										

章	項目	特記事項		
1 一般共通事項	8 技能士	(1.5.2)		
		工事項目	技能検定職種	技能検定作業
		仮設工事	とび	・とび作業
		鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立て作業
		コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業
			コンクリート圧送施工	・コンクリート圧送工事作業
		鉄骨工事	鉄工	・構造物鉄工作業
			とび	・とび作業
		コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形 パネル工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業
			ALCパネル施工	・ALCパネル工事作業
		防水工事	防水施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスファルト防水工事作業</li> <li>・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業</li> <li>・アクリルゴム系塗膜防水工事作業</li> <li>・合成ゴム系シート防水工事作業</li> <li>・塩化ビニル系シート防水工事作業</li> <li>・セメント系防水工事作業</li> <li>・シーリング防水工事作業</li> <li>・改質アスファルトシート工法防水工事作業</li> <li>・FRP防水工事作業</li> </ul>
		石工事	石材施工	・石張り作業
		タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業
		木工事	建築大工	・大工工事作業
		屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業
			かわらぶき	・かわらぶき作業
		金属工事	内装仕上施工	・鋼製下地工事作業
建築板金	・内外装板金作業			
左官工事	左官	・左官作業		
建具工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業		
	ガラス施工	・ガラス工事作業		
	自動ドア施工	・自動ドア施工作業		
カーテンウォール 工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業		
	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業		
	ガラス施工	・ガラス工事作業		
塗装工事	塗装	・建築塗装作業		
内装工事	内装仕上施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック系床仕上げ工事作業</li> <li>・カーペット系床仕上げ工事作業</li> <li>・木質系床仕上げ工事作業</li> <li>・ボード仕上げ工事作業</li> </ul>		
	表装	・壁装作業		
排水工事	配管	・建築配管作業		
舗装工事	路面標示施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶融ペイントハンドマーカ工事作業</li> <li>・加熱ペイントマシンマーカ工事作業</li> </ul>		
植栽工事	造園	・造園工事作業		
9	施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。		
10	設備工事との取扱い	設備機器の位置取り合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。		
11	他工事又は他工種との取扱い	工事区分表による。これにより難しい場合は監督員と協議する。		

章	項目	特記事項																			
1 一般共通事項	12 完成図等	(1.7.1~1.7.3) (表1.7.1) ◎完成図 ◎作成する ・作成しない 提出するもの ・原図 ◎製本 1部 ◎CADデータ (JWW形式) サイズ ◎A1 ・A2 ・A3 ◎CD-R 完成図 (JWW形式), 完成写真 (JPEG形式) を収録したもの ・維持保全に関する資料 (部数 ※1部)																			
	13 引渡物	※鍵は1カ所につき, 3個を1組とし, プラスティック札に室名を記入して提出する。 ※マスター鍵は, 1組3個とし, 木製及び金属製建具共通とする。 ※スチール製キーボックス																			
	14 提出書類	※写真 <table border="1" data-bbox="539 510 1461 689"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>内容</th> <th>枚数</th> <th>部数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>工事写</td> <td>適</td> <td>1</td> <td>電子納品</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>完成写真 (支払用: 内外観)</td> <td>各2枚以上</td> <td>1</td> <td>A4版</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>完成写真 (・データ共)</td> <td>適宜</td> <td>2</td> <td>カラー印画紙キヤベネ判 アルバム綴じ</td> </tr> </tbody> </table> アルバムは黒表紙金文字入りでサイズはH320 X W300程度とする 完成写真 (アルバム) の撮影業者 ※建築完成写真の撮影実績のある者で, 監督員が承諾する撮影業者 ◎規格品証明書 (原品証明書, 同等品試験証明書, 試験成績書等) ◎ガス圧接作業員技量資格証明書 (写し) ◎ガス圧接試験報告書 ◎コンクリート強度試験報告書 ◎杭打結果報告書 ◎溶接工技量証明書 (表・裏とも写し) ◎防水保証書 (9-1. 2. 3. 4は10年) ◎コンクリート配合計画書 ◎工事实績情報の登録内容確認書の写し ◎火災保険等に加入したことを証明できる書類 ・建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書の写し ◎施工体制台帳の写し ◎施工体系図の写し ◎産業廃棄物処理関係書類 (産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し, 産業廃棄物 処理委託契約書及び許可書の写し等) ◎産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の写し ◎内装材 (下地を含む) に VOC 材料を使用した場合は, 安全データシート (SDS) 及びホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン, 有機リン系の含有率のデータシート ※室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書 ※建設副産物実態調査に関する出力調査票 ※その他 監督員が必要と認め, 指示した書類及び部数	適用	内容	枚数	部数	備考	◎	工事写	適	1	電子納品	◎	完成写真 (支払用: 内外観)	各2枚以上	1	A4版	・	完成写真 (・データ共)	適宜	2
適用	内容	枚数	部数	備考																	
◎	工事写	適	1	電子納品																	
◎	完成写真 (支払用: 内外観)	各2枚以上	1	A4版																	
・	完成写真 (・データ共)	適宜	2	カラー印画紙キヤベネ判 アルバム綴じ																	
15 埋蔵文化財	※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内 ・掘削作業に際しては, 工事立会, 試掘確認調査等を要する。施工にあたっては, あらかじめ, 工事日程, 掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上, 監督員, 施設管理担当, 石岡市教育委員会文化振興課担当と協議を行うこと。 ・掘削作業に際しては, 慎重に施工のこと。施工にあたり, 文化財その他の埋蔵物を発見した場合は, 直ちにその状況を監督員に報告すること。																				

章	項目	特記事項
2 仮設工事	1 足場	(2.2.4) ・「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	2 監督員事務所	(2.3.1) 設ける 規模： m <sup>2</sup> 程度 仕上げの程度： 程度 備え付ける備品： ・机 脚 ・椅子 脚 ・ロッカー 台 ・書棚 台 ・ホワイトボード ・製図板 ・掛時計 ・ゴム長靴 ・雨合羽 ・保護帽 ・安全带 ・受託者加入電話の子機 ・消火器 ・湯沸器 ・掃除具 ・その他 ( ) ◎設けない
	3 工事用水	構内既存の施設 ・なし ※あり (・利用できる (有償) ・利用できない)
	4 工事用電力	構内既存の施設 ・なし ※あり (・利用できる (有償) ・利用できない)
	5 工事看板	(2.3.1) ◎設置する 設置の場所 ( ) 記載事項 (※工事番号 ※工事名称 ※発注者 ※設計者 ※監理者 ※工期 ※施工者) 大きさ (※H900mm×W1800mm 程度 ・ ) ・設置しない

章	項目	特記事項											
3 土工	1 埋戻し及び盛土 別途造成設計図	(3.2.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 適用場所 ( )</li> <li>・ B種 適用場所 ( 道路附帯構造物の埋戻し )</li> <li>・ C種 適用場所 ( 盛土造成部 ) 土質 (横断面参照) 受渡場所 (監督員と協議)</li> <li>・ D種 適用場所 ( )</li> </ul> 品質 細粒分(75 $\mu$ m以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする。 六価クロム溶出試験 ◎行う ・行わない .											
	2 建設発生土の処理	(3.2.5) ※構外搬出適切処理 ・構内指示の場所に堆積 ・構内指示の場所に敷き均し 構外搬出の場合は原則として50km範囲内の他の建設工事へ搬出するものとする。 ただし、茨城県建設副産物リサイクル推進協議会等で調整済みの場合は、上記に係わらずその調整結果を最優先する。 なお、他の工事との受け入れ時期及び土質等の調整が困難である場合は、別の処分場(ストックヤードを含む)に搬出することを妨げない。 ※建設発生土の再利用 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">処理方法</th> <th>搬出先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・現場内利用</td> <td>仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し</td> </tr> <tr> <td>・工事間流用</td> <td>相手工事番号及び名称 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・捨土 (公共用地)</td> <td>管理者名 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ストックヤード</td> <td>ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・未確定</td> <td>相手工事番号及び名称 ( ) (予定) 住所 ( )</td> </tr> </tbody> </table> 土質 ・ローム ・シルト ・砂質土 ・レキ質土 ・ 土量 m <sup>3</sup> (地山換算土量) 片道運搬距離 km 条件 (昼夜間の別, 大型車規制, 伝票の使用, 法律・条例等) . 現場内利用を行う場合、現場外に仮置き場を設けて時期調整を行い、周辺環境に配慮し必要な措置を講じること。 工事間流用を行う場合、相手工事の受注者と綿密に協議を行うこと。 工事間流用、捨土の場合、搬出手続き等は監督員の指示による。 スtockヤードに搬出する場合は、付記事項の3を参照。	処理方法	搬出先	・現場内利用	仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し	・工事間流用	相手工事番号及び名称 ( ) 住所 ( )	・捨土 (公共用地)	管理者名 ( ) 住所 ( )	・ストックヤード	ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )	・未確定
処理方法	搬出先												
・現場内利用	仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し												
・工事間流用	相手工事番号及び名称 ( ) 住所 ( )												
・捨土 (公共用地)	管理者名 ( ) 住所 ( )												
・ストックヤード	ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )												
・未確定	相手工事番号及び名称 ( ) (予定) 住所 ( )												

章	項目	特記事項						
3 土工	3 建設汚泥	<p>※工事現場から 40km 範囲内に再資源化施設があるときは、原則として再資源化施設に搬出するものとする。          なお、工事現場から 40km 以内に再資源化施設がない場合においては、焼却施設、脱水施設や乾燥施設に搬出し減量化を行うものとする。</p> <table border="1" data-bbox="529 268 1465 788"> <thead> <tr> <th data-bbox="529 268 746 302">処理方法</th> <th data-bbox="746 268 1465 302">搬出先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="529 302 746 376">・再資源化施設</td> <td data-bbox="746 302 1465 376">           施設名称 ( )            施設住所 ( )         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 376 746 788">・他工事に搬出 (個別指定制度)</td> <td data-bbox="746 376 1465 788">           利用方法( )            相手工事番号及び名称            番号, 名称 ( )            住所 ( )            相手工事受注者            名称 ( )            住所 ( )            TEL ( )            処理施設の設置箇所            ( )            処理施設の処理能力等            ( )         </td> </tr> </tbody> </table> <p>搬出量                      m<sup>3</sup> (地山換算数量)          片道運搬距離                      km          搬出条件 (昼夜間の別, 大型車規制, 伝票の使用, 法令・条例, 改良の度合等)</p> <p>他工事に搬出する場合, 処理施設の設置, 個別指定制度の指定を受ける手続きが必要となるため, 事前に監督員と十分に協議し, 環境部局等に関係法令の手続きを行うこと。</p>	処理方法	搬出先	・再資源化施設	施設名称 ( ) 施設住所 ( )	・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法( ) 相手工事番号及び名称 番号, 名称 ( ) 住所 ( ) 相手工事受注者 名称 ( ) 住所 ( ) TEL ( ) 処理施設の設置箇所 ( ) 処理施設の処理能力等 ( )
	処理方法	搬出先						
	・再資源化施設	施設名称 ( ) 施設住所 ( )						
・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法( ) 相手工事番号及び名称 番号, 名称 ( ) 住所 ( ) 相手工事受注者 名称 ( ) 住所 ( ) TEL ( ) 処理施設の設置箇所 ( ) 処理施設の処理能力等 ( )							
4 山留の存置	存置範囲 (※図示                      ) (3.3.3)							
5 整地	跡地はブルドーザー等による整地を行う							

章	項目	特記事項																																																																														
4	1 支持地盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杭基礎 (4.3.4) (4.3.5) (4.5.4) (4.5.5) 支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端の位置含む) ※図示による ( ) .</li> <li>・直接基礎 支持地盤の位置及び種類 (基礎底部の位置含む) ・図示による ( ) . 試験掘り (根切り底の状態の確認等) (3.2.1) ・行わない ・行う 位置等 ・図示による ( ) .</li> <li>・地盤の載荷試験 (4.2.4) 試験位置, 方法等 ・図示による ( ) .</li> </ul>																																																																														
	2 液状化対策	工法, 施工範囲, 仕様, 計測, 試験等 ・図示による ( ) .																																																																														
	3 既製コンクリート杭地業	種類 (4.3.2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC 杭)</li> <li>◎プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC 杭)</li> <li>・外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC 杭) SC 杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490 ・</li> </ul> 寸法, 継手, 性能等 (種別:種類, 性能及び曲げ強度区分) (4.2.2) (4.3.2) (4.3.3) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>種類</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>鋼管厚 (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>セツト数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td rowspan="3">PCR</td> <td rowspan="3">105</td> <td></td> <td>450</td> <td rowspan="3">11</td> <td></td> <td>5</td> <td>650</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td>400</td> <td></td> <td>6</td> <td>530</td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td>350</td> <td></td> <td>20</td> <td>420</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 杭先端部形状 (4.3.2) ◎開放形 ・半開放形 ・閉そく形 .			種類	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試杭	上杭										中杭										下杭										本杭	上杭	PCR	105		450	11		5	650		中杭		400		6	530		下杭		350		20	420												
		種類	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																						
試杭	上杭																																																																															
	中杭																																																																															
	下杭																																																																															
本杭	上杭	PCR	105		450	11		5	650																																																																							
	中杭				400			6	530																																																																							
	下杭				350			20	420																																																																							

4 地業工事	3 既製コンクリート杭地業	<p>施工方法 (4.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セメントミルク工法 (4.2.2) (4.3.4) <ul style="list-style-type: none"> <li>アースオーガーの支持地盤への掘削深さ <ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5m 程度</li> </ul> </li> <li>杭の支持地盤への根入れ深さ <ul style="list-style-type: none"> <li>・1.0m 以上</li> </ul> </li> <li>杭の精度 <ul style="list-style-type: none"> <li>水平方向への位置ずれ <ul style="list-style-type: none"> <li>・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</li> </ul> </li> <li>杭の傾斜 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/100 以内</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>試験杭 <ul style="list-style-type: none"> <li>試験杭の位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による ( )</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で <math>\alpha=250</math> を採用できる工法</li> <li>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式の内 <math>\alpha</math>, <math>\beta</math>, <math>\gamma</math> が下記の値を採用できる工法 <ul style="list-style-type: none"> <li><math>\alpha=( )</math>, <math>\beta=( )</math>, <math>\gamma=( )</math></li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎プレボーリング拡大根固め工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中掘り拡大根固め工法</li> </ul> </li> </ul> <p>杭周固定液</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎使用する</li> <li>・使用しない</li> </ul> <p>杭の精度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水平方向の位置ずれ <ul style="list-style-type: none"> <li>◎杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</li> </ul> </li> <li>杭の傾斜 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎1/100 以内 ※評定等の内容による</li> </ul> </li> </ul> <p>試験杭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験杭の位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎図示による ( )</li> </ul> </li> </ul> <p>杭継手工法 (4.3.2) (4.3.6) (7.2.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーク溶接継手 <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 4.3.6 による</li> </ul> </li> <li>溶接材料 (4.4.2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 7.2.5(a) (b) による</li> <li>・図示による ( )</li> </ul> </li> <li>・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</li> </ul> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等を受けた工法</li> </ul> <p>検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等により定められた項目</li> </ul> <p>施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等をされた施工管理基準による</li> </ul> <p>杭頭の処理 (4.3.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※処理しない</li> <li>・処理する <ul style="list-style-type: none"> <li>処理方法(切断ともなう補強方法含む)</li> <li>・図示による ( )</li> </ul> </li> </ul>
-----------	---------------	---

章	項目	特記事項																																																																											
4 地業 工事	3 既製コンクリート杭地業	杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの (4.3.7)																																																																											
	4 鋼杭地業 ※図示(工作物基礎)	<p>種類の記号 (4.4.2)</p> <p>・SKK400 ・SKK490 ・</p> <p>寸法, 継手等 (4.2.2) (4.4.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>セツ数</th> <th>長期設計支 持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験 杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本 杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>杭先端部形状 (4.4.2)</p> <p>・開放型 ・半開放形 ・閉そく形 ・</p> <p>先端部の補強</p> <p>・標準仕様書 図 4.4.1, 表 4.4.2 による ・</p> <p>先端部の補強(補強バンド等)及びその他付属品の材質</p> <p>・SS400 と同等又はそれ以上 ・</p> <p>施工方法 (4.4.1)</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.4.4)</p> <p>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で <math>\alpha=250</math> を採用できる工法</p> <p>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式の内 <math>\alpha, \beta, \gamma</math> が下記の値を採用できる工法</p> <p><math>\alpha=(\quad)</math>, <math>\beta=(\quad)</math>, <math>\gamma=(\quad)</math></p> <p>工法</p> <p>・中掘り拡大根固め工法</p> <p>・</p> <p>杭の精度</p> <p>水平方向の位置ずれ</p> <p>・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下 ・</p> <p>杭の傾斜</p> <p>・1/100 以内 ※評定等の内容による ・</p> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置</p> <p>・図示による ( ) ・</p>			種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツ数	長期設計支 持力(kN/本)	備考	試験 杭	上杭									中杭									下杭									本 杭	上杭									中杭									下杭																	
		種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツ数	長期設計支 持力(kN/本)	備考																																																																				
試験 杭	上杭																																																																												
	中杭																																																																												
	下杭																																																																												
本 杭	上杭																																																																												
	中杭																																																																												
	下杭																																																																												

章	項目	特記事項
4 地業 工事	4 鋼杭地業 ※図示	<p>杭の現場継手 (4.4.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接継手 形状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JIS A 5525 による</li> </ul> </li> <li>溶接材料 (4.4.2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準仕様書 7.2.5(a) (b) による</li> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> </li> <li>・ 無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等を受けた工法</li> </ul> </li> <li>検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等より定められた項目</li> </ul> </li> <li>施工 <ul style="list-style-type: none"> <li>※評定等をされた施工管理基準による</li> </ul> </li> </ul> <p>杭頭の処理 (4.3.7) (4.4.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理しない</li> <li>・ 処理する 処理方法 (切断ともなう補強方法含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> </li> </ul> <p>杭頭の中詰め材料 (4.3.7) (4.4.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※基礎のコンクリートと同調合のもの</li> </ul>

章	項目	特記事項																																													
4 地業 工事	5 場所打ち コンクリート杭地業	掘削工法 (4.5.1) (4.5.4) <ul style="list-style-type: none"> <li>・アースドリル工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> <li>・リバース工法</li> <li>・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない)</li> </ul>																																													
		併用する工法 (4.5.1) (4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> <li>・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管の種類 ・SKK400 ・SKK490</li> </ul>																																													
		寸法等 (4.2.2)																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>鋼管厚 (mm)</th> <th>鋼管径 (mm)</th> <th>軸径 (mm)</th> <th>拡底径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>セット数</th> <th>長期設計支 持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支 持力(kN/本)	備考	試験杭									本杭																										
			鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支 持力(kN/本)	備考																																					
		試験杭																																													
		本杭																																													
		鉄筋の種類 (4.5.3)																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	・SD295A			・SD345																																						
		種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																											
		・SD295A																																													
		・SD345																																													
帯筋 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 6.2 帯筋(b)(3)⑥(ロ))</li> <li>・</li> </ul>																																															
鉄筋かごの補強 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 4.5.3(a)(2)(iii)による</li> <li>・図示による ( )</li> </ul>																																															
鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・100mm ・125mm ・</li> </ul>																																															
鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.3~4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による ( )</li> <li>・</li> </ul>																																															
セメントの種類 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>※高炉セメントB種 ・</li> </ul>																																															
コンクリートの種別 (4.5.3) (表4.5.1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・A種 ・B種</li> <li>・認定等の内容による</li> </ul>																																															
コンクリートの設計基準強度 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による ( )</li> <li>・</li> </ul>																																															
構造体強度補正值 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・3N/mm<sup>2</sup></li> <li>・図示による ( )</li> <li>・評定等の内容による</li> </ul>																																															

章	項目	特記事項						
4 地業 工事	5 場所打ち コンクリート杭地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートの単位水量測定</li> <li>※6 コンクリート工事「13 コンクリートの単位水量測定」による</li> <li>・</li> </ul> <p>※試験杭 (4.2.2) (4.5.4) (4.5.5)</p> <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による ( )</li> <li>・</li> </ul> <p>・孔壁測定 (4.5.4) (4.5.5)</p> <p>測定箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験杭( )箇所及び本杭( )箇所</li> </ul> <p>測定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波測定器</li> <li>・</li> </ul> <p>杭の精度 (4.5.4) (4.5.5)</p> <p>水平方向の位置ずれ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100mm 以下</li> <li>・</li> </ul> <p>杭の傾斜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/100 以内</li> <li>・評定等の内容による</li> <li>・</li> </ul>						
	6 砂利地業	<p>材料 (茨城県の指定工場であること) (4.6.2)</p> <p>◎再生クラッシュラン</p> <p>・切込砂利及び切込砕石</p> <p>厚さ及び施工範囲 (4.6.3)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">厚さ</th> <th>施工範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図示</td> <td>・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ・図示による( )</td> </tr> </tbody> </table>	厚さ	施工範囲	図示	・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )		・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ・図示による( )
	厚さ	施工範囲						
	図示	・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )						
		・基礎下 ・基礎梁下 ・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下 ・図示による( )						
7 捨コンクリート地業	<p>厚さ及び施工範囲 (4.6.4) (6.14.1)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">厚さ</th> <th>施工範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図示</td> <td>・基礎下 ・基礎梁下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>設計基準強度 (4.6.4) (6.14.1)</p> <p>※18N/mm<sup>2</sup></p> <p>・</p> <p>スランプ (4.6.4) (6.14.1)</p> <p>※15cm 又は 18cm</p> <p>・</p>	厚さ	施工範囲	図示	・基礎下 ・基礎梁下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )	・		
厚さ	施工範囲							
図示	・基礎下 ・基礎梁下 ・土に接するスラブ下 ◎図示による( )							
・								
8 床下防湿層	<p>材料 (4.6.2)</p> <p>※ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上</p> <p>・</p> <p>施工範囲 (4.6.5)</p> <p>※図示による ( )</p> <p>・</p> <p>施工位置 (4.6.5)</p> <p>・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)</p> <p>・</p>							
9 地盤改良工法 ※別途造成設計図参照	<p>種類及び施工方法等</p> <p>※図示による (横断図、安定処理計画平面図)</p> <p>・</p> <p>六価クロム溶出試験</p> <p>◎行う</p> <p>・行わない</p>							

章	項目	特記事項															
5 鉄筋工事	1 鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎SD295A</td> <td>※D16 以下</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>◎SD345</td> <td>※D19 以上</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	◎SD295A	※D16 以下	・	◎SD345	※D19 以上	・	・			・		
	種類の記号	呼び径(mm)	備考														
	◎SD295A	※D16 以下	・														
	◎SD345	※D19 以上	・														
	・																
・																	
2 溶接金網	形状等 (5.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の号</th> <th>網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	種類の号	網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)	使用部位	・溶接金網				・鉄筋格子							
種類	種類の号	網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)	使用部位														
・溶接金網																	
・鉄筋格子																	
3 鉄筋の継手	継手方法等 (5.3.4) (5.5.2) (5.5.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎柱, 梁の主筋</td> <td>◎ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td> <td>※D19 以上</td> </tr> <tr> <td>・耐力壁の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁</td> <td>◎重ね継手 ※ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎上記以外( )</td> <td>◎重ね継手</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 重ね継手の長さ (5.3.4) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(a))  継手位置 (5.3.4) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1, 6.1, 7.1, 7.3, 8.1) ・図示による ( )  カットオフ鉄筋の長さ ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1, 7.1) ・図示による ( )  基礎梁主筋の継手位置 (5.3.4) ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図)) ・図 5.2    ・図 5.3    ・図 5.4 ・図示による ( )	部位	継手方法	呼び径(mm)	◎柱, 梁の主筋	◎ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	※D19 以上	・耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・	◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁	◎重ね継手 ※ガス圧接		◎上記以外( )	◎重ね継手	・	
部位	継手方法	呼び径(mm)															
◎柱, 梁の主筋	◎ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	※D19 以上															
・耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・															
◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁	◎重ね継手 ※ガス圧接																
◎上記以外( )	◎重ね継手	・															
4 鉄筋の定着長さ	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(b))																
5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む)	最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) (5.3.5) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 表 4.1) ・  柱及び梁の主筋に D29 以上の使用の有無 ・あり 使用箇所 ( ) 主筋のかぶり厚さを径の 1.5 倍以上確保する  耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・あり 適用箇所 ( ) ・最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm ・																

章	項目	特記事項
5 鉄筋工事	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)	鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く) (5.3.5) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1(d)) ・
	6 機械式継手	使用箇所 ・ 図示による ( ) ・  H12 建告第 1463 号に適合する性能 (5.5.2) ・ A 級 ・  機械式継手の工法 ( ) (5.5.2)  鉄筋相互のあき (5.3.5) ・ 図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1(d)) ・  品質の確認方法 (5.5.2) ・ 図示による ( ) ・  不良となった継手の修正方法等 (5.5.2) ・ 図示による ( ) ・
	7 溶接継手	使用箇所 ・ 図示による ( ) ・  H12 建告第 1463 号に適合する性能 (5.5.3) ・ A 級 ・  鉄筋相互のあき (5.3.5) ・ 図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1(d))  溶接継手の工法 (5.5.3) ・ 図示による ( ) ・重ねアーク溶接  品質の確認方法 (5.5.3) ・ 図示による ( ) ・標準仕様書 1.2.2(b) 施工計画書の品質計画による  不良となった継手の修正方法等 (5.5.3) ・ 図示による ( ) ・標準仕様書 1.2.2(b) 施工計画書の品質計画による  溶接技術者 ・ 標準仕様書 5.5.3(f) による ・ JIS Z 3882 (鉄筋の突合わせ溶接技術検定における試験方法及び判定基準) による 技量を有する者

章	項 目	特 記 事 項
5 鉄筋工事	8 各部配筋	各部配筋 (5.3.7) ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図)) ・ 帯筋 組立の形の種別 ・構造関係共通図 (配筋標準図) 6.2(b)(3) ( ) 形 による ・図示による ( ) 壁開口部の補強 一般壁 ・構造関係共通図 (配筋標準図) 8.2(a)(1) ( ) 形 による ・図示による ( ) 耐力壁 ・図示による ( ) 梁貫通孔の補強 補強形式 ・構造関係共通図 (配筋標準図) 11.1 ( ) 形 による ・図示による ( ) 梁貫通孔径 (部材記号含む) 及び配筋種別リスト ・図示による ( ) 柱主筋の柱頭定着 ・構造関係共通図 (配筋標準図) 6.1(a)(2) ・図示による ( )
	9 圧接完了後の試験	外観試験 (5.4.9) ◎行う (全数) 抜取試験 (5.4.9) (5.4.10) ◎超音波探傷試験 試験ロット: 1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。 試験の箇所数: 1ロットに対して30箇所とし、ロットから無作為に抜き取る。 ・引張試験 試験ロット: 1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする。 試験の箇所数: 1ロットに対して (※3本 ・5本) とする。

章	項目	特記事項																
6 コンクリート工事	1 コンクリートの種類及び強度	<p>普通コンクリート (6.2.1~6.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m<sup>3</sup>)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎24</td> <td>2.3程度</td> <td>・15 又は 18 ・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所	◎24	2.3程度	・15 又は 18 ・18									
	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所														
	◎24	2.3程度	・15 又は 18 ・18															
	2 コンクリートの類別	<p>類別 (6.2.1)            ※Ⅰ類 (茨城県の指定工場であり, JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート)            ・Ⅱ類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート)</p>																
3 セメント	<p>(6.3.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種</td> <td>※下記以外全て ・</td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td>・1FL より下部 (立上がり部含む) ・</td> </tr> <tr> <td>・フライアッシュセメントB種</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>普通ポルトランドセメントの品質は, JIS R 5210 に示された規定の他, 水和熱が7日目で352J/g以下, かつ28日目で402J/g以下のものとする</p>	種類	使用部位	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	※下記以外全て ・	・高炉セメントB種	・1FL より下部 (立上がり部含む) ・	・フライアッシュセメントB種	・	・	・							
種類	使用部位																	
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	※下記以外全て ・																	
・高炉セメントB種	・1FL より下部 (立上がり部含む) ・																	
・フライアッシュセメントB種	・																	
・	・																	
4 骨材	<p>使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)            ※A            ・B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m<sup>3</sup>以下)</p>																	
5 混和材料	<p>(6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1 (d) (i) による</li> <li>・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1 (d) (ii) による</li> </ul>																	
6 無筋コンクリート	<p>設計基準強度 (6.2.1) (6.3.1) (6.14.1)            ※18 (N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>スランプ (6.14.1)            ※15cm 又は 18cm</p> <p>セメントの種類 (6.3.1)            ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種            ・高炉セメントB種            ・フライアッシュセメントB種</p> <p>適用箇所 (6.2.1) (6.14.1)            ※標準仕様書 6.14.1 (e) による箇所            ・図示による ( )</p>																	

章	項目	特記事項								
6 コンクリート工事	7 ひび割れ誘発目地, 打継目地	<p>目地寸法 (6.6.3) (6.8.2) (9.7.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準仕様書9.7.3による</li> <li>※ひび割れ誘発目地, 打継目地の深さ寸法は, 躯体外側の打増し厚さ部で処理する (6.8.2)</li> </ul> <p>間隔・位置・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による ( )</li> </ul>								
	8 コンクリートの仕上がり	<p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (6.8.3) (表6.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>※図示による ( )</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※図示による ( )</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※図示による ( )</td> </tr> </tbody> </table>	種別	適用箇所	・A種	※図示による ( )	・B種	※図示による ( )	・C種	※図示による ( )
	種別	適用箇所								
	・A種	※図示による ( )								
	・B種	※図示による ( )								
・C種	※図示による ( )									
9 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	<p>打増し厚さ (6.8.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) <ul style="list-style-type: none"> <li>・20mm</li> </ul> </li> <li>打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) <ul style="list-style-type: none"> <li>・10mm</li> <li>・20mm</li> </ul> </li> <li>外装タイル後張り面の打増し処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・20mm</li> </ul> </li> <li>床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理 プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行なう <ul style="list-style-type: none"> <li>・10mm</li> <li>・20mm</li> </ul> </li> </ul> <p>打増し範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による ( )</li> </ul>									
10 型枠	<p>せき板の材料及び厚さ (6.8.3)</p> <p>コンクリート打設時の充填性の確認のため, 型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は, 強度, 変形等について, 事前に監督員と協議すること。</p> <p>※合板 (※12mm )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>断熱材を兼用した型枠の使用 (6.8.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・あり 使用箇所 ( )</li> </ul> </li> <li>MCR工法用シートの使用 (6.8.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>打増し厚さ ・20mm</li> <li>打増し範囲 ・図示による ( )</li> </ul> </li> </ul> <p>スリーブの材種・規格等 (6.8.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による ( )</li> </ul> <p>存置期間及び取り外し (6.8.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※標準仕様書6.8.5による</li> </ul>									
11 コンクリートの養生方法	標準仕様書 6章 7節による									

章	項目	特記事項
6 コンクリート工事	12 圧縮強度及び試験方法	<p>標準仕様書 6.5.5, 6.9.2, 6.9.3, 6.9.4 による (6.5.5) (6.9.2~6.9.4)</p> <p>試験の実施機関            ※構造体コンクリートの圧縮強度試験はすべて「茨城県建設技術管理センター」等の公共機関において行う。</p>
	13 コンクリートの単位水量測定	<p>・行わない            ・行う            実施要領</p> <p>(1) 単位水量の測定は、150m<sup>3</sup>に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.3.2(2)による。</p> <p>(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m<sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工する。</li> <li>2) 測定した単位水量が、設計値±15 を超え±20kg/m<sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m<sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</li> <li>3) 設計値±20kg/m<sup>3</sup> を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m<sup>3</sup> 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m<sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</li> <li>4) 3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</li> </ol> <p>(4) 単位水量管理についての記録を書面 (計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。</p> <p>(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験期間は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>

章	項目	特記事項																		
7 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.1) (7.1.3) ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※ ( ) グレード ・ グレードの適用はしない ・ 監督員の承諾する国土交通大臣から認定を受けた工場																		
	2 施工管理技術者	◎適用する (7.1.3) (7.1.4) ・適用しない																		
	3 鋼材	材質等 (7.2.1) (表7.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所(主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による ・</td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格			※JIS規格による ・			※JIS規格による ・			※JIS規格による ・			※JIS規格による ・			※JIS規格による ・
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																	
			※JIS規格による ・																	
		※JIS規格による ・																		
		※JIS規格による ・																		
		※JIS規格による ・																		
		※JIS規格による ・																		
4 高力ボルト	高力ボルトの区分 (7.2.2) ※トルシア形高力ボルト セットの種類 ※2種(S10T) ・ ・ JIS形高力ボルト セットの種類 ・2種(F10T) ・ 高力ボルトの径 (7.2.2) ※図示による ( ) ・ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図) 1.1(a)縁端距離及びボルト間隔) ・ すべり係数試験 (7.4.2) ※行わない ・行う 試験方法等 ・ 図示による ( ) ・																			
5 普通ボルト	ボルト及びナットの材料 (7.2.3) ・標準仕様書表7.2.3(JIS附属書品)による ※標準仕様書表7.2.3(JIS附属書品)又はJIS本体規格品(ISO規格)による (JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルト、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-Cの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする) 座金 (7.2.3) ※標準仕様書7.2.3(d)による ・																			

章	項目	特記事項
7 鉄骨工事	5 普通ボルト	<p>戻り止め (7.5.2)  ※二重ナット</p> <p>ボルトの径 (7.2.3)  ※図示による ( )</p> <p>ボルトの縁端距離, ボルト間隔, ゲージ等 (7.3.2)  ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.1(a) 縁端距離及びボルト間隔)</p>
	6 溶融亜鉛めっき高力ボルト	<p>セットの種類 (7.2.2)  ・1種 (F8T 相当)</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 (7.2.2)  ・図示による ( )</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 (7.3.8)  ・大臣認定を受けた内容による</p> <p>ボルトの縁端距離, ボルト間隔, ゲージ等 (7.3.2)  ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.1(a) 縁端距離及びボルト間隔)</p> <p>摩擦面の処理 (7.12.4)  ※ブラスト処理 (表面粗度 <math>50\mu\text{mRz}</math> 以上)  ・ブラスト処理以外の特別な処理方法  ・図示による ( )  すべり耐力等の確認方法  ※すべり係数試験  試験方法等 図示による ( )</p>
	7 アンカーボルト	<p>・構造用アンカーボルト (7.2.4) (表 7.2.3) (7.10.3)  ※本体鉄骨  セットの種類 (JIS B 1220) ・ ABR400 ・ ABR490  形状, 寸法 ※図示による ( )  ※その他の鉄骨  種類 ※SS400  アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度  ※標準仕様書 表 7.2.3 による  ・  形状, 寸法 図示による ( )  ・  ・建方用アンカーボルト  種類 ・ SS400  アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度  ※標準仕様書 表 7.2.3 による  ・  形状, 寸法 図示による ( )  ・</p> <p>ボルトの縁端距離, ボルト間隔, ゲージ等 (7.3.2)  ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.1(a) 縁端距離及びボルト間隔)</p>

章	項目	特記事項																				
7 鉄骨工事	8 溶接材料	溶接材料 (7.2.5) ※標準仕様書 7.2.5(a) (b) による ・標準仕様書 7.2.5(a) (b) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・図示による ( ) ・																				
	9 ターンバックル	種類 (7.2.6) 建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ・  建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・  ねじの呼び (7.2.6) ※図示による ( ) ・																				
	10 デッキプレート	材質, 形状及び寸法 (6.8.3) (7.2.7) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・デッキプレート単独の構法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・床型枠用</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む) ・図示による ( ) ・  鉄骨部材への溶接方法 (7.7.8) ・図示による ( ) ・  耐火認定 ・有り 耐火時間 ・図示による ( ) ・ ・無し		適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・デッキプレート単独の構法				・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法				・床型枠用							
		適用箇所	材質・形状・寸法	備考																		
	・デッキプレート単独の構法																					
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法																						
・床型枠用																						
11 スタッド	材質, 形状及び寸法 ※頭付きスタッド (JIS B 1198) ・ 種類等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・16φ</td> <td>・80 ・100 ・120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・19φ</td> <td>・80 ・100 ・130 ・150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22φ</td> <td>・80 ・100 ・130 ・150</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	・16φ	・80 ・100 ・120		・19φ	・80 ・100 ・130 ・150		・22φ	・80 ・100 ・130 ・150										
呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																				
・16φ	・80 ・100 ・120																					
・19φ	・80 ・100 ・130 ・150																					
・22φ	・80 ・100 ・130 ・150																					
12 柱底均しモルタル	モルタルの種類 (7.2.9) ※無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料, 調合等 ※標準仕様書 7.2.9(b) (1) から (4) による ・  ・標準仕様書 7.2.9(a) によるモルタル																					
13 製作精度	※標準仕様書 7.3.3 及び H12 建告第 1464 号第二号イによる (7.3.3) H12 建告第 1464 号第二号イ (1) (2) のただし書きによる補強は, 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による																					

章	項目	特記事項									
7 鉄骨工事	14 溶接技能者の技量付加試験	試験の要領 ・図示による ( ) ・ (7.6.3)									
	15 溶接接合	開先の形状 ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.2) ・ (7.6.4)									
		スカラップの形状 ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.4(d)改良型スカラップ) ・ (7.6.7)									
		エンドタブの切断する部分 ・全て ・切除する部分なし ・図示による ( ) ・ (7.6.7)									
		溶接部の余盛り高さ ・JASS6 付則6「鉄骨精度検査基準」付表3「溶接」による (7.6.7)									
	低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・図示による ( ) ・ (7.6.7)										
16 現場溶接の有無	※無し ・有り										
17 入熱、パス間温度の管理	適用箇所 ・図示による ( ) ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部										
18 溶接部の試験	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11) ※工場溶接の場合 ※AOQL (%) ※4.0 ・2.5 <table border="1" data-bbox="606 1227 1444 1299"> <tr> <td>節</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検水準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※社内 全数 第3者 30% ・工事現場溶接の場合 ・AOQL (%) ※4.0 ・2.5 ・全数  突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査②	節					検水準				
節											
検水準											

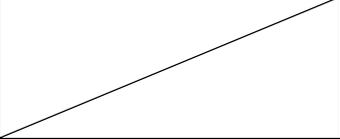
章	項目	特記事項																																		
7 鉄骨工事	19 錆止め塗装	塗料の種別 (7.8.3) ※鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ※標準仕様書 表 18.3.1 A種 ・ 屋内 ・標準仕様書 表 18.3.1 ( )種 ・ ・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ・標準仕様書 表 18.3.2 ( )種 ・ ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ※標準仕様書 表 18.3.1 A種 ・ ・塗装を行う耐火被覆材の接着する面 適用箇所 ・図示による ( )種 塗料の種別 ・標準仕様書 表 18.3.1 ( )種 ・標準仕様書 表 18.3.2 ( )種																																		
	20 耐火被覆	種類及び性能 (7.9.2~7.9.7) <table border="1" data-bbox="529 958 1465 1594"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能 (火時間)</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付け ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式吹付け ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火板張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材巻付け</td> <td>・高耐熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする	種類	材料・工法	性能 (火時間)	適用箇所 (部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール			・半乾式吹付け ロックウール			・湿式ロックウール			・			・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板			・			・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール			・			・ラス張りモルタル塗り	—	
種類	材料・工法	性能 (火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																	
・耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール																																			
	・半乾式吹付け ロックウール																																			
	・湿式ロックウール																																			
	・																																			
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																			
	・																																			
・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール																																			
	・																																			
・ラス張りモルタル塗り	—																																			
	21 建方精度	※JASS 6 付則6 [鉄骨精度基準] 付表5 [工事現場] による (7.10.2)																																		

章	項目	特記事項										
7 鉄骨工事	22 アンカーボルト等の設置	<p>アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)            構造用アンカーボルト (本体鉄骨)            ※図示による ( )</p> <p>アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (標準仕様書 表 7.10.1) (7.10.3)            構造用アンカーボルト (その他の鉄骨)            種別 ・A種 ・B種 ・C種            建方用アンカーボルト            種別 ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)            構造用アンカーボルト            本体鉄骨            ・A種 [厚さ 50mm] ・B種 [厚さ 30mm] ※図示による ( )            その他鉄骨            ・A種 [厚さ 50mm] ※B種 [厚さ 30mm] ・図示による ( )            建方用アンカーボルト            ・A種 [厚さ 50mm] ※B種 [厚さ 30mm] ・図示による ( )</p>										
	23 溶融亜鉛めっき	<p>種別等 (7.12.3)</p> <table border="1" data-bbox="529 817 1473 1034"> <thead> <tr> <th data-bbox="529 817 683 891">亜鉛めっきの種別</th> <th data-bbox="683 817 1273 891">材料</th> <th data-bbox="1273 817 1473 891">適用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="529 891 683 925">A種</td> <td data-bbox="683 891 1273 925">最小板厚 6.0mm 以上の形鋼, 鋼板</td> <td data-bbox="1273 891 1473 1034" rowspan="3">※図示 ・</td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 925 683 963">B種</td> <td data-bbox="683 925 1273 963">最小板厚 3.2mm 以上, 6.0mm 未満の形鋼, 鋼板</td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 963 683 1034">C種</td> <td data-bbox="683 963 1273 1034">普通ボルト・ナット類, アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上, 3.2mm 未満の形鋼, 鋼板</td> </tr> </tbody> </table> <p>外観検査            ※行う            ※標準仕様書 表 14.2.3 による            ・行わない</p>	亜鉛めっきの種別	材料	適用部位	A種	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼, 鋼板	※図示 ・	B種	最小板厚 3.2mm 以上, 6.0mm 未満の形鋼, 鋼板	C種	普通ボルト・ナット類, アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上, 3.2mm 未満の形鋼, 鋼板
	亜鉛めっきの種別	材料	適用部位									
A種	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼, 鋼板	※図示 ・										
B種	最小板厚 3.2mm 以上, 6.0mm 未満の形鋼, 鋼板											
C種	普通ボルト・ナット類, アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上, 3.2mm 未満の形鋼, 鋼板											
24 梁貫通孔の補強	<p>補強形式            ※図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1.6)            ・</p> <p>適用箇所            ※図示による ( )</p>											

章	項目	特記事項																																											
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 (8.2.2) (8.2.5) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th> <th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th> <th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">化粧の 有無</th> <th rowspan="2">適用箇所</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>長さ</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※空洞ブロック-16</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>各部の配筋 ※図示 ・</p>							断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	適用箇所	備考	長さ	高さ	※空洞ブロック-16				・無 ・有			・				・無 ・有			・				・無 ・有									
	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	適用箇所	備考																																						
			長さ	高さ																																									
	※空洞ブロック-16				・無 ・有																																								
	・				・無 ・有																																								
	・				・無 ・有																																								
	2 コンクリートブロック帳壁及び扉	ブロックの種類 (8.3.2) (8.3.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th> <th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th> <th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">化粧の 有無</th> <th rowspan="2">(表8.3.1) 以外の 適用箇所</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>長さ</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・空洞ブロック-08</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・空洞ブロック-16</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・型枠状ブロック 20</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>各部の配筋 ※図示 ・</p>							断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	(表8.3.1) 以外の 適用箇所	備考	長さ	高さ	・空洞ブロック-08				・無 ・有			・空洞ブロック-16				・無 ・有			・型枠状ブロック 20				・無 ・有			・				・無 ・有		
	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	(表8.3.1) 以外の 適用箇所	備考																																						
			長さ	高さ																																									
	・空洞ブロック-08				・無 ・有																																								
・空洞ブロック-16				・無 ・有																																									
・型枠状ブロック 20				・無 ・有																																									
・				・無 ・有																																									
3 ALCパネル	(8.4.2~8.4.5) <table border="1"> <thead> <tr> <th>パネルの区分</th> <th>単位荷重 (N/m<sup>2</sup>)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>長さ (mm)</th> <th>耐火性能</th> <th>表面 加工</th> <th>構法の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・外壁パネル</td> <td></td> <td>・100 ・</td> <td></td> <td>有(1)時間</td> <td>・平 ・意匠</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td>・間仕切壁 パネル</td> <td></td> <td>・100 ・</td> <td></td> <td>・有(1)時間 ・無</td> <td>・平 ・意匠</td> <td>・C種 ・D種 ・E種</td> </tr> <tr> <td>・屋根パネル</td> <td></td> <td>・100 ・</td> <td></td> <td>有(0.5)時間</td> <td rowspan="2">平</td> <td>F種</td> </tr> <tr> <td>・床パネル</td> <td></td> <td>・100 ・</td> <td></td> <td>・有( )時間</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>外壁, 屋根パネルの工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 パネル幅の最小限度を 300mm 未満とする場合 ・</p> <p>外壁, 間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにこのパネルと他部材との取り付け部の目地幅(mm) ・20 ・</p> <p>外壁, 間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない</p>							パネルの区分	単位荷重 (N/m <sup>2</sup> )	厚さ (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面 加工	構法の種別	・外壁パネル		・100 ・		有(1)時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種	・間仕切壁 パネル		・100 ・		・有(1)時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種	・屋根パネル		・100 ・		有(0.5)時間	平	F種	・床パネル		・100 ・		・有( )時間					
パネルの区分	単位荷重 (N/m <sup>2</sup> )	厚さ (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面 加工	構法の種別																																							
・外壁パネル		・100 ・		有(1)時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種																																							
・間仕切壁 パネル		・100 ・		・有(1)時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種																																							
・屋根パネル		・100 ・		有(0.5)時間	平	F種																																							
・床パネル		・100 ・		・有( )時間																																									

章	項目	特記事項						
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	4 押出成形セメント板 (ECP)	(8.5.2~8.5.5)						
		パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(m)	工法の種別	備考	
		・外壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・		・A種 ・B種		
			・D (デザインパネル)	・50 ・60	600			
			・T (タイルベースパネル)	60				
		・間仕切壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・		・B種 ・C種		
			・D (デザインパネル)	・50 ・60	600			
			・T (タイルベースパネル)	60				
		<p>外壁パネルの工法            建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p>						
		<p>パネル相互の目地幅(mm)            ※長辺 8, 短辺 15</p>						
<p>出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15</p>								
<p>やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。</p>								
		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅				
パネルに開口を設ける場合	短辺	・ 図示		・ 図示				
	長辺	・ 図示		・ 図示				
パネルを切り欠く場合	短辺	・ 図示		・ 図示				
	長辺	・ 図示		・ 図示				

章	項目	特記事項				
9 防水工事	1 アスファルト防水	(9.2.2~9.2.5) (表9.2.3~9.2.9)				
		屋根保護防水 防水層の種類				
		種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
		・A-1		/	※ポリスチレンフィルム 厚さ0.15mm以上	
		・A-2				
		・A-3				
		・B-1				
		・B-2				
		・B-3				
		・AI-1		(材質) ※JIS A 9521 による押出 法ポリスチレンフォーム断熱材 3 種 bA (スキン層付き) 又は JIS A 9511 による A 種 押出法ポリスチレンフォーム保温 材の保温板 3 種 b(スキンあ り) ・ (厚さ) ・25mm ・50mm ・	※フラットヤークロス 70g/m <sup>2</sup> 程度 ・	・乾式保護材 ・コンクリート押え
		・AI-2				
		・AI-3				
		・BI-1				
		・BI-2				
		・BI-3				
		改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9.2.3 から 表9.2.8 による ・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9.2.3 から 表9.2.8 による ・ 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm 以上 ・ 床タイル張り ※水下 60mm 以上 ・ ・乾式保護材 窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成型しオートクレーブ養生したもの。 金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。 (品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による				

章	項目	特記事項										
9 防水工事	1 アスファルト防水	屋根露出防水 防水層の種類										
		種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用					
					種類	使用量						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・D-1</li> <li>・D-2</li> <li>・D-3</li> <li>・D-4</li> </ul>										
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・DI-1</li> <li>・DI-2</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・製造所の指定による</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・製造所の指定による</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>※適用する</li> <li>・適用しない</li> </ul>
		(材質) ※JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材 2 種 1 号若しくは 2 号で、透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511 による A 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板 2 種 1 号若しくは 2 号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ (厚さ) ・25mm										
		屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい										
		位置 ※図示										
		屋内防水 防水層の種類										
		種別		施工箇所		種別		施工箇所				
・E-1				・E-2								
保護層						<ul style="list-style-type: none"> <li>・設ける (※図示</li> <li>・ )</li> <li>・設けない</li> </ul>						
立上りコンクリート打放し仕上げ ※標準仕様書 表 6.2.4 [打放し仕上げ種別] の B 種						<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>						
押え金物の材質及び形状 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm 程度						<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>						
防水層の下地のモルタル塗り						<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する (施工範囲 ※図示</li> <li>・ )</li> <li>・適用しない</li> </ul>						
屋上排水溝 ※図示						<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>						

章	項目	特記事項						
9 防水工事	2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1~9.3.3)						
		防水層の種別						
		種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料		高日射反射率防水の適用
						種類	使用量	
		・AS-T1		/	/			
		・AS-T2						
		・AS-T3						
		・AS-T4						
		・AS-J1						
		・ASI-T1		(材質) ※JIS A 9521 による 硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で、透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511 による A 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ (厚さ) ・25mm ・	・設ける (改質アスファルト製造所の仕様による) ・設けない	・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	※適用する ・適用しない
・ASI-J1								
改質アスファルトシートの種類及び厚さ								
※標準仕様書 表9.3.1 から 表9.3.3 による								
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ								
※標準仕様書 表9.3.1 から 表9.3.3 による								
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ								
※標準仕様書 表9.3.1 から 表9.3.3 による								
押え金物								
※改質アスファルト製造所の仕様による								

章	項目	特記事項						
9 防水工事	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	(9.4.2~9.4.4) (表9.4.1~9.4.3)						
		種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用
						種類	使用量	
		・S-F1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	※適用する ・適用しない
		・S-F2						
		・S-M1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
		・S-M2						
		・S-M3						
		・SI-F1			(材質) ※標準仕様書9.4.2 (c) (3) (ii)による	・製造所の指定による	・製造所の指定による	
		・SI-F2			(厚さ) ・25mm			
・SI-M1			(材質) ※標準仕様書9.4.2 (c) (3) (i)による	・製造所の指定による	・製造所の指定による			
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート	(厚さ) ・25mm					
屋内防水								
防水層の種類別								
種別	施工箇所	保護層				立上り部の保護 モルタル塗り厚さ		
		平場のモルタル塗り			・下モルタル塗り			
		塗り厚さ	・床塗り工法					
・S-C1	・	・	※標準仕様書15.2.5 (b) (2) 及び (3) に準ずる	※標準仕様書15.2.5 (c) (1) に準ずる	※7mm以下			
屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ								
ルーフィングシートの種類及び厚さ								
※標準仕様書 表9.4.1, 表9.4.2 及び 表9.4.3 による								
絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート								
固定金具の材質及び寸法形状								
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板, ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板								
PC コンクリート部材下地及びALCパネル下地で種別 S-C1 の場合の目地処理								
・行う (・図示 ) ・行わない								
PC コンクリート部材の入隅部の増張り (種別 S-F1, SI-F1, S-C1 の場合)								
・行う (・図示 ) ・行わない								
ALC パネル下地の入隅部の増張り (種別 S-C1 の場合)								
・行う (・図示 ) ・行わない								
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け								
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法								

章	項目	特記事項																																
9 防水工事	4 塗膜防水	(9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2) 防水層の種別 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">保護層</th> <th rowspan="2">高日射反射率 防水の適用</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・X-1</td> <td></td> <td>・製造所の指定による</td> <td>・製造所の指定による</td> <td>/</td> <td>※適用する ・適用しない</td> </tr> <tr> <td>・X-2</td> <td></td> <td>・製造所の指定による</td> <td>・製造所の指定による</td> <td>/</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・Y-1</td> <td>※地下外壁防水 ・</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>・Y-2</td> <td>※屋内防水 ・</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	高日射反射率 防水の適用	種類	使用量	・X-1		・製造所の指定による	・製造所の指定による	/	※適用する ・適用しない	・X-2		・製造所の指定による	・製造所の指定による	/		・Y-1	※地下外壁防水 ・	/	/	/	/	・Y-2	※屋内防水 ・	/	/	・適用する ・適用しない	/
	種別	施工箇所			仕上塗料				保護層	高日射反射率 防水の適用																								
			種類	使用量																														
	・X-1		・製造所の指定による	・製造所の指定による	/	※適用する ・適用しない																												
・X-2		・製造所の指定による	・製造所の指定による	/																														
・Y-1	※地下外壁防水 ・	/	/	/	/																													
・Y-2	※屋内防水 ・	/	/	・適用する ・適用しない	/																													
5 ケイ酸質系塗布防水	(9.6.1) (9.6.3) (表9.6.1) (表9.6.2) 防水層の種別 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※C-UI</td> <td></td> <td>・C-UP</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	種別	施工箇所	※C-UI		・C-UP																										
種別	施工箇所	種別	施工箇所																															
※C-UI		・C-UP																																
6 脱気装置	(9.2.3) (9.3.3) (9.5.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>種類</th> <th>設置数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ASI-T1 ASI-J1</td> <td>※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・</td> <td>※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・ 個/㎡</td> </tr> <tr> <td>X-1</td> <td>※防水層の主材料の製造所の仕様による ・</td> <td>※防水層の主材料の製造所の仕様による ・ 個/㎡</td> </tr> </tbody> </table>	種別	種類	設置数量	D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ASI-T1 ASI-J1	※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・	※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・ 個/㎡	X-1	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・ 個/㎡																								
種別	種類	設置数量																																
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ASI-T1 ASI-J1	※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・	※アスファルトフイック類製造所の仕様による ・ 個/㎡																																
X-1	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・ 個/㎡																																
7 シーリング	(9.7.2) (9.7.3) (表9.7.1) 下表以外は、標準仕様書 表9.7.1による ただし、外装壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>シーリング材の種類 (記号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a) (1)～(3)による ・	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																															
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																	

章	項目	特記事項																																																																		
10 石工事	1 施工	(10.1.3) (10.1.5) 石材の割付け ※標準仕様書 10.1.3(a) (1), (2)による ・図示 粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ ・図示 ・ 屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ ・行う (適用場所 ・すべて ・ ) ・行わない																																																																		
	2 石材等	天然石 (10.2.1) (10.2.3) (表 10.2.1) (表 10.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品質</th> <th>石材の種類</th> <th>形状</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・1等品 ・2等品</td> <td></td> <td>※正方形に近い矩形 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・1等品 ・等</td> <td></td> <td>※正方形に近い矩形 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> テラゾブロック <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ (mm)</th> <th>形状</th> <th>仕上げ面</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・平もの ・役もの</td> <td>・片面 ・両面</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・平もの ・役もの</td> <td>・片面 ・両面</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> テラゾタイル <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ (mm)</th> <th>寸法による区分</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・300型 ・400型</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・300型 ・400型</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 取付け用モルタル, 既調合の目地用モルタル, 石裏面処理材, 裏打ち処理材 ※石材施工業者の指定する製品 ・	施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考		・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・						・1等品 ・等		※正方形に近い矩形 ・					施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面					※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面				施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型				※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型		
	施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考																																																												
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・																																																																	
	・1等品 ・等		※正方形に近い矩形 ・																																																																	
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考																																																													
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考																																																															
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型																																																																	
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型																																																																	
3 外壁湿式工法		(10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3) 受金物 材質 ※SS400 ・ 形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ 100mm ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ 150mm ・ アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・ あと施工アンカーの材質及び寸法 ( ) ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ ・ 石裏面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー, 横筋流し工法 目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・ シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表 11.1.1による ・図示 シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a) (3)による ・図示																																																																		

章	項目	特記事項
10 石工事	4 内壁空積工法	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.4.2) (10.4.3)</p> <p>受金物 材質 ※SS400 ・  形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ 100mm  ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ 150mm  ・</p> <p>アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・  あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない  裏打ち処理 ・適用する ・適用しない  下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋流し工法  ・あと施工アンカー工法</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・  シーリング材 ・適用する ・適用しない  伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表 11.1.1 による ・図示  シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a)(3)による  ・図示</p>
	5 乾式工法	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.5.2) (10.5.3) (表 10.2.4)</p> <p>取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式  アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS304) M10 ・  あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )  だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書 10.5.2(b)(1)による ・図示</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない  裏打ち処理 ・適用する ・適用しない  外壁の工法  建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)の風圧力に対応した工法  目地 目地幅(mm) ※8以上 ・  シーリング材 ・適用する(※標準仕様書 9章7節による) ・図示  ・適用しない</p>
	6 床及び階段の石張り	<p style="text-align: right;">(10.6.2) (10.6.3)</p> <p>床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない  階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・  シーリング材 ・適用する ・適用しない  伸縮調整目地 位置 ※床面積 30㎡程度ごと、細長い通路の場合 6m 程度  ごと及び他の部材と取り合う箇所  ・図示  シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a)(3)による  ・図示</p>

章	項 目	特 記 事 項
10 石工事	7 アーチ, 上げ裏等の石張り	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.7.1) (10.7.2)</p> <p>取付け金物 ※標準仕様書 10.2.2(c)による ・</p> <p>引金物, だぼ, かすがい及び受金物 ※標準仕様書 10.2.2(a)による ・</p> <p>ファスナー ※標準仕様書 10.2.2(b)のスライド方式に準ずる ・</p> <p>吊金物及び化粧吊りボルト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304) 径6mm 長さ80mm (加工物)</li> <li>・ 吊りボルト ※ステンレス(SUS304) M10 化粧ナット付き</li> <li>・ 設けない</li> </ul> <p>アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS304) M10 ・</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・</p> <p>伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取り合い部 ・図示</p> <p>シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a)(3)による</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul>
	8 笠木, 甲板等の石張り	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.7.1) (10.7.3)</p> <p>取付け金物 ※標準仕様書 10.2.2(c)による ・</p> <p>引金物, だぼ, かすがい及び受金物 ※標準仕様書 10.2.2(a)による ・</p> <p>ファスナー ※標準仕様書 10.2.2(b)のスライド方式に準ずる ・</p> <p>アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS304) M10 ・</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書 10.5.3(b)による</p> <p>石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない</p>

章	項目	特記事項																																																										
二 タイル工事	1 伸縮調整目地及び ひび割れ誘発目地	(11.1.3) (表 11.1.1) 位置 ※標準仕様書 表 11.1.1 による ・図示																																																										
	2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル (セラミックタイル) 張り ※図示	<p>タイルの形状、寸法等 (11.2.2) (11.2.7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状/寸法 (m)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施 ゆう</th> <th>無 ゆう</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする  試験張り ・行う ・行わない  見本焼き ・行う ※行わない  モルタル塗りのコンクリート素地面の処理  ・MCR 工法 ・目荒し工法 (高圧水洗処理) ・  壁タイル張りの工法  外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り  内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>・既製調合モルタル  モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。  (品質・性能)  建築材料等品質性能表による  (試験方法)  建築材料等品質性能表による</p> <p>・既製調合目地材  (品質・性能)  建築材料等品質性能表による  (試験方法)  建築材料等品質性能表による</p>	施工箇所	形状/寸法 (m)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考	I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注	有	無			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
施工箇所	形状/寸法 (m)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性			耐滑り性	備考																																												
		I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注		有	無																																															
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																														
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																														

章	項目	特記事項																																																																														
二 タイル工事	3 接着剤による陶磁器質タイル(セラミックタイル)張り	(11.3.2~11.3.4) (11.3.7)																																																																														
		タイルの形状, 寸法等 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状/寸法(mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施 ゆう</th> <th>無 ゆう</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする            試験張り ・行う ・行わない            見本焼き ・行う ※行わない            接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・            外装壁タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材            打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・            ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・            伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・            その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・            モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理            ・MCR 工法 ・目荒し工法(高圧水洗処理) ・</p>														施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考	I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注	有	無			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・							
施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考																																																																	
		I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注		有	無																																																																			
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																		
	4 陶磁器質タイル(セラミックタイル)型枠先付け	(11.4.2) (11.4.3) (表11.4.1)																																																																														
		タイルの形状, 寸法等 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状/寸法(mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施 ゆう</th> <th>無 ゆう</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする            試験張り ・行う ・行わない            見本焼き ・行う ※行わない</p> <p>タイル型枠先付けの種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>適用タイル</th> <th>タイル型枠先付け面のせき板の種類別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※タイルシート法</td> <td>・小口タイル</td> <td>※標準仕様書 6.8.3(b) (2)</td> </tr> <tr> <td>・目地榫法</td> <td>・二丁掛タイル</td> <td>・金属製タイル先付け用パネル</td> </tr> <tr> <td>・栈木法</td> <td>大形タイル</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>														施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	備考		I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注					・	・	・	・	・	・	・	・	・	・					・	・	・	・	・	・	・	・	・	・			種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種類別	※タイルシート法	・小口タイル	※標準仕様書 6.8.3(b) (2)	・目地榫法	・二丁掛タイル	・金属製タイル先付け用パネル	・栈木法	大形タイル	・
施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	備考																																																																				
		I類	II類	III類	施 ゆう	無 ゆう	有	無	標準	特注																																																																						
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																					
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																					
種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種類別																																																																														
※タイルシート法	・小口タイル	※標準仕様書 6.8.3(b) (2)																																																																														
・目地榫法	・二丁掛タイル	・金属製タイル先付け用パネル																																																																														
・栈木法	大形タイル	・																																																																														

章	項目	特記事項																													
12 木工事	1 表面仕上げ ※図示	(12.1.4) (表 12.1.1)																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>表面仕上げの種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	表面仕上げの種別	適用箇所	・A種		・B種		・C種																						
		表面仕上げの種別	適用箇所																												
		・A種																													
	・B種																														
	・C種																														
	2 製材		(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)																												
			・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>等級</th> <th>形状</th> <th>含水率</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※2級・</td> <td></td> <td>※A種・B種・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※2級・</td> <td></td> <td>※A種・B種・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※2級・</td> <td></td> <td>※A種・B種・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>		施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用				※2級・		※A種・B種・	・				※2級・		※A種・B種・	・				※2級・		※A種・B種・	・	
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用																								
			※2級・		※A種・B種・	・																									
			※2級・		※A種・B種・	・																									
			※2級・		※A種・B種・	・																									
		・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>等級</th> <th>形状</th> <th>含水率</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見え掛り面</td> <td></td> <td></td> <td>※上小節 ・</td> <td></td> <td>※A種・B種 ・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>見え掛り面以外</td> <td></td> <td></td> <td>※小節以上 ・</td> <td></td> <td>※A種・B種 ・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>		施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用	見え掛り面			※上小節 ・		※A種・B種 ・	・	見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A種・B種 ・	・									
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用																									
見え掛り面			※上小節 ・		※A種・B種 ・	・																									
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A種・B種 ・	・																									
		・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>等級</th> <th>形状</th> <th>含水率</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等・</td> <td></td> <td>※10%以下 ・A種・B種・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等・</td> <td></td> <td>※10%以下 ・A種・B種・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>		施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用				※1等・		※10%以下 ・A種・B種・	・				※1等・		※10%以下 ・A種・B種・	・									
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用																									
			※1等・		※10%以下 ・A種・B種・	・																									
			※1等・		※10%以下 ・A種・B種・	・																									
		・「製材の日本農林規格」以外の製材																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>造作材の 材面の品質</th> <th>防虫処理 の適用</th> <th>難燃処理 の適用</th> <th>含水率</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>( ) 造作材の場合 (※A種・B種)</td> <td></td> <td></td> <td>※A種 ・B種 ・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>		施工箇所	樹種	寸法 (mm)	造作材の 材面の品質	防虫処理 の適用	難燃処理 の適用	含水率	間伐材等の適用				( ) 造作材の場合 (※A種・B種)			※A種 ・B種 ・	・														
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	造作材の 材面の品質	防虫処理 の適用	難燃処理 の適用	含水率	間伐材等の適用																								
			( ) 造作材の場合 (※A種・B種)			※A種 ・B種 ・	・																								
		・代用樹種を適用しない箇所 ( )																													

章	項目	特記事項						
12 木工事	3 造作用集成材	(12.2.1)						
		ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外						
		・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材						
		施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用		
					※1等 ・2等	・		
					※1等 ・2等	・		
					※1等 ・2等	・		
		・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材						
		施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
							※1等 ・2等	・
							※1等 ・2等	・
							※1等 ・2等	・
・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱								
施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用			
					・			
					・			
					・			
・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材								
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用			
				※15%以下	・			
					・			
					・			
・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材								
施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用	
						※15%以下	・	
・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱								
施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用	
						※15%以下	・	

章	項目	特記事項																																																										
12 木工事	4 造作用単板積層材	(12.2.1) ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面の化粧加工</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・有り(加工：・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級：・1等 ・2等 ・3等)</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面の品質</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>含水率</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・し</td> <td></td> <td>※14%以下</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用	間伐材等の適用			・有り(加工：・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級：・1等 ・2等 ・3等)	・	・	施工箇所	厚さ (mm)	表面の品質	防虫処理の適用	含水率	間伐材等の適用			・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・し		※14%以下	・																																				
	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																							
		・有り(加工：・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級：・1等 ・2等 ・3等)	・	・																																																								
施工箇所	厚さ (mm)	表面の品質	防虫処理の適用	含水率	間伐材等の適用																																																							
		・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・し		※14%以下	・																																																							
5 床張り用合板等	(12.2.1) ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・「合板の日本農林規格」による普通合板 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表板の樹種名</th> <th>接着の程度</th> <th>板面の品質</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※5.5</td> <td></td> <td>※1類 ・2類</td> <td>広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※5.5</td> <td></td> <td>※1類 ・2類</td> <td>広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> ・「合板の日本農林規格」による構造用合板 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>等級</th> <th>表板の樹種名</th> <th>接着の程度</th> <th>板面の品質</th> <th>有効断面係数比</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>強度等級</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床 屋根</td> <td>◎12 ◎24</td> <td>※2級以上 ・1級</td> <td></td> <td>※1類 ・特類</td> <td>※C-D以上</td> <td></td> <td>・</td> <td>・指定する( ) ・指定しない</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> ・パーティクルボード <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表裏面の状態による区分</th> <th>曲げ強さによる区分</th> <th>接着剤による区分</th> <th>難燃性による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※15</td> <td></td> <td>※13タイプ</td> <td>※P 又はM</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・構造用パネル <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>等級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・1級 ・2級 ・3級 ・4級</td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	間伐材等の適用		※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・	・		※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・	・	施工箇所	厚さ (mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理の適用	強度等級	間伐材等の適用	床 屋根	◎12 ◎24	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上		・	・指定する( ) ・指定しない	・	施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分		※15		※13タイプ	※P 又はM		施工箇所	厚さ (mm)	等級			・1級 ・2級 ・3級 ・4級
施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																						
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・	・																																																						
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・	・																																																						
施工箇所	厚さ (mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理の適用	強度等級	間伐材等の適用																																																			
床 屋根	◎12 ◎24	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上		・	・指定する( ) ・指定しない	・																																																			
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分																																																							
	※15		※13タイプ	※P 又はM																																																								
施工箇所	厚さ (mm)	等級																																																										
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級																																																										
6 接着剤	(12.2.2) (12.2.3) 接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。 ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外																																																											



章	項目	特記事項							
13 屋根及びびとい工事	1 長尺金属板葺	(13.2.2) (13.2.3)							
		施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考		
			※JIS G 3322 の屋根用コイル		0.4	・心木なし瓦棒葺 ◎立平葺・蟻掛葺 ◎横葺			
		下葺材料 ・アスファルトルーフィング 940 ◎改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層材タイプ ・粘着層付タイプ) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法 雪止め ◎設置する(施工箇所 ・図示 ・ )							
	2 折板葺	(13.2.2) (13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1)							
		施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
			・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	山高	山ピッチ	( )種	※鋼板製 ・アルミウム合金板製	・有り ・無し	・30分 ・無し
			・						
		材料 板及びコイルの種類 ( ) 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 ( ) 断熱材 ・有り(種別: 厚さ(mm): 防火性能: 時間) ・無し 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法							
	3 粘土瓦葺	(13.4.2) (13.4.3)							
		施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
			製法による区分	形状による区分	寸法による区分				・適用する ・適用しない
									・適用する ・適用しない
		瓦棧木 材質 ※杉又はひのき ・ 寸法 ※幅21×高さ15(mm) ・ 棟補強用心材 材質 ※杉又はひのき ・ 寸法 ※幅40×高さ30(mm) ・ 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法 瓦棧木の留付け工法 ※図示 ・ 棟の工法 ※標準仕様書13.4.3(d)(1)～(3)による ・							

章	項目	特記事項								
13 屋根及びびとい工事	4 とい	<p>(13.5.2) (13.5.3) (表 13.5.5)</p> <p>といの材種 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管 ・</p> <p>ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※規制対象外 ・</p> <p>鋼管製といの防露巻き ・適用する (工法: ※標準仕様書 表 13.5.5 による ・ )</p> <p>・適用しない</p> <p>ルーフドレン</p>								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="513 369 1062 409">種別</th> <th data-bbox="1062 369 1489 409">施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="513 409 1062 450">・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)</td> <td data-bbox="1062 409 1489 450"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="513 450 1062 490">・バルコニー用</td> <td data-bbox="1062 450 1489 490"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="513 490 1062 528">・バルコニー中継用</td> <td data-bbox="1062 490 1489 528"></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)		・バルコニー用		・バルコニー中継用	
		種別	施工箇所							
		・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)								
		・バルコニー用								
・バルコニー中継用										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="513 409 1062 409">種別</th> <th data-bbox="1062 409 1489 409">施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="513 409 1062 450">・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)</td> <td data-bbox="1062 409 1489 450"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="513 450 1062 490">・バルコニー用</td> <td data-bbox="1062 450 1489 490"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="513 490 1062 528">・バルコニー中継用</td> <td data-bbox="1062 490 1489 528"></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)		・バルコニー用		・バルコニー中継用			
種別	施工箇所									
・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)										
・バルコニー用										
・バルコニー中継用										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="513 450 1062 450">種別</th> <th data-bbox="1062 450 1489 450">施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="513 450 1062 490">・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)</td> <td data-bbox="1062 450 1489 490"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="513 490 1062 528">・バルコニー用</td> <td data-bbox="1062 490 1489 528"></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)		・バルコニー用					
種別	施工箇所									
・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)										
・バルコニー用										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="513 490 1062 490">種別</th> <th data-bbox="1062 490 1489 490">施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="513 490 1062 528">・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)</td> <td data-bbox="1062 490 1489 528"></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)							
種別	施工箇所									
・ろく屋根用 (・縦型 ・横型)										

章	項目	特記事項																										
14 金属工事	1 ステンレスの表面仕上げ	(14.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※HL 程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鏡面仕上げ程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・No2B 程度</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)	※HL 程度		・鏡面仕上げ程度		・No2B 程度																			
	種類	施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)																										
	※HL 程度																											
	・鏡面仕上げ程度																											
・No2B 程度																												
2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(14.2.2) (表 14.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>皮膜又は複合皮膜の種類</th> <th>施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A-1 種</td> <td>※AA15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※AA15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B-1 種</td> <td>※B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C-1 種</td> <td>※AA6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※AA6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・D 種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色</p>	種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)	・A-1 種	※AA15		・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA15		・B-1 種	※B		・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※B		・C-1 種	※AA6		・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA6		・D 種			・		
種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)																										
・A-1 種	※AA15																											
・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA15																											
・B-1 種	※B																											
・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※B																											
・C-1 種	※AA6																											
・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA6																											
・D 種																												
・																												
3 鉄鋼の亜鉛めっき	(14.2.3) (表 14.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所 (手すり, タラップ以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">熔融亜鉛めっき</td> <td>・A 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電気亜鉛めっき</td> <td>・D 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・E 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・F 種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり, タラップ以外)	熔融亜鉛めっき	・A 種		・B 種		・C 種		電気亜鉛めっき	・D 種		・E 種		・F 種											
表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり, タラップ以外)																										
熔融亜鉛めっき	・A 種																											
	・B 種																											
	・C 種																											
電気亜鉛めっき	・D 種																											
	・E 種																											
	・F 種																											
4 軽量鉄骨天井下地	(14.4.2~14.4.4) (表 14.4.1) 野縁等の種類 屋外 (※25 形 ・19 形) 屋内 (※19 形 ・25 形) ・屋外の軒天井, ピロティ天井等 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 野縁受, 吊りボルト及びインサートの間隔 ・図示 ・ 周辺部の端からの間隔 ・図示 ・ 野縁の間隔 ・図示 ・ ・吊りボルトの間隔が 900mm を超える場合 補強方法 ・図示 ・ ・天井のふところが 1.5m 以上 3.0m 以下の場合 補強方法 ※標準仕様書 14.4.4(h) (1)~(2) による ・図示 ・天井のふところが 3.0m を超える場合 補強方法 ※図示 ・ ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ・図示 ・ 補強方法 ※図示 ・																											

章	項目	特記事項																																																						
14 金属工事	5 軽量鉄骨壁下地	(14.5.3) (表 14.5.1) スタッド, ランナーの種類 ※標準仕様書 表 14.5.1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・ 図示 スタッドの高さが 5.0m を超える場合 ※図示 ・																																																						
	6 金属成形板張り	(14.6.2) (14.6.3) (表 14.2.1) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">製法</th> <th rowspan="2">形状</th> <th rowspan="2">板幅 (mm)</th> <th rowspan="2">寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">厚さ (mm)</th> <th colspan="2">表面処理</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>皮膜等の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">・ アルミ</td> <td>・ 押出し ・ ロール</td> <td>パンドル形</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ B-1 種</td> <td>※B ・</td> </tr> <tr> <td>※プレス ・</td> <td>パネル形</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ B-2 種(・ アンバー ・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)</td> <td>※B ・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ C-1 種</td> <td>※AA6 ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ C-2 種(・ アンバー・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)</td> <td>※AA6 ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ D 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>取付け用下地 ※標準仕様書 14.4 による ・ 図示 伸縮調整継手 ・ 設ける (施工箇所 ・ 図示 ・ ) ・ 設けない</p>	種別	製法	形状	板幅 (mm)	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面処理		種別	皮膜等の種類	・ アルミ	・ 押出し ・ ロール	パンドル形				・ B-1 種	※B ・	※プレス ・	パネル形				・ B-2 種(・ アンバー ・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)	※B ・	・					・ C-1 種	※AA6 ・						・ C-2 種(・ アンバー・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)	※AA6 ・						・ D 種		・							
	種別	製法							形状	板幅 (mm)	寸法 (mm)	厚さ (mm)		表面処理																																										
			種別	皮膜等の種類																																																				
・ アルミ	・ 押出し ・ ロール	パンドル形				・ B-1 種	※B ・																																																	
	※プレス ・	パネル形				・ B-2 種(・ アンバー ・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)	※B ・																																																	
	・					・ C-1 種	※AA6 ・																																																	
						・ C-2 種(・ アンバー・ ブロンズ・ ブラック 系・ ステンカラー)	※AA6 ・																																																	
						・ D 種																																																		
・																																																								
7 アルミニウム製笠木	(14.7.2) (14.7.3) (表 14.2.1) (表 14.7.1) 種類 ・ 250 形 ・ 300 形 ・ 350 形 表面処理 種別 ( ) 種 皮膜等の種類 (※標準仕様書 表 14.2.1 による ・ ) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 笠木の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法																																																							
8 手すり及びタラップ	(14.8.2) (14.8.3) 手すり ・ ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※HL 程度 ・ No.2B 程度 ・ ) ・ 鋼製 (表面処理 ・ 溶融亜鉛めっき C 種 ・ ) タラップ ※ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※研磨なし ・ ) ・ 鋼製 (表面処理 ※溶融亜鉛めっき C 種 ・ )																																																							

章	項目	特記事項									
15 左官工事	1 モルタル塗り	(15.2.2) (15.2.5) 既製目地材 ・設ける 施工箇所 ( ) 形状 (※図示 ・ ) ・設けない 床の目地 ・設ける (工法 ※押し目地 ・ ) ・設けない 外壁タイル張り下地の下地モルタルの接着力試験 ・適用する ・適用しない  ※防水剤 (品質・性能) 建築材料等品質性能表による									
	2 床コンクリートの直均し仕上げ	(6.2.5) (15.3.2) 下表以外は標準仕様書 15.3.2 による <table border="1" data-bbox="528 607 1461 745"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>平たんさ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・リアクセフロア (※図示)</td> <td>・1mにつき10以下 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	平たんさ(mm)	備考	・リアクセフロア (※図示)	・1mにつき10以下 ・		・		
	施工箇所	平たんさ(mm)	備考								
・リアクセフロア (※図示)	・1mにつき10以下 ・										
・											
3 セルフレベリング材塗り	(15.4.2) (表 15.4.1) ・せっこう系 ・セメント系										

章	項目	特記事項																																																																								
15 左官工事	4 仕上塗材仕上げ	<p style="text-align: right;">(15.5.2)</p> <p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>仕上塗材の種類</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">種類</th> <th style="width: 40%;">呼び名</th> <th style="width: 10%;">防火材料</th> <th style="width: 40%;">仕上げの形状等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">・薄付け 仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材 Si</td> <td>・</td> <td rowspan="10">           ・砂壁状            ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り）            ・さざ波状            ・平たん状            ・凹凸状（・吹付け・こて塗り）            ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り）            ・砂壁状じゅらく            ・京壁状じゅらく            吸放湿性 ・適用する・適用しない         </td> </tr> <tr><td>・可とう形外装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・可とう形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・防水形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・外装薄塗材 S</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装薄塗材 C</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装薄塗材 L</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装薄塗材 W</td><td>・</td></tr> <tr> <td rowspan="7">・厚付け仕 上塗材</td> <td>・外装厚塗材 C</td> <td>・</td> <td rowspan="7">           ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状            ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし            吸放湿性 ・適用する・適用しない            上塗材 ・適用する・適用しない         </td> </tr> <tr><td>・外装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・外装厚塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装厚塗材 C</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装厚塗材 L</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装厚塗材 G</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・内装厚塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr> <td rowspan="8">・複層仕上 塗材</td> <td>・複層塗材 CE</td> <td>・</td> <td rowspan="8">           ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状            耐候性 ※耐候形3種            上塗材            溶媒 ※水系 ・溶剤系            ・弱溶剤系            樹脂 ※アクリル系            外観 ※つやあり ・つやなし            ・メタリック         </td> </tr> <tr><td>・可とう形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr> <tr><td>・複層塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・複層塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・複層塗材 RE</td><td>・</td></tr> <tr><td>・防水形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr> <tr><td>・防水形複層塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・防水形複層塗材 RE</td><td>・</td></tr> <tr><td>・防水形複層塗材 RS</td><td>・</td></tr> <tr> <td rowspan="2">・軽量骨材 仕上塗材</td> <td>・吹付用軽量塗材</td> <td>・</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr><td>・こて塗用軽量塗材</td><td>・</td></tr> </tbody> </table>	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状等	・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する・適用しない	・可とう形外装薄塗材 Si	・	・外装薄塗材 E	・	・可とう形外装薄塗材 E	・	・防水形外装薄塗材 E	・	・外装薄塗材 S	・	・内装薄塗材 C	・	・内装薄塗材 L	・	・内装薄塗材 Si	・	・内装薄塗材 E	・	・内装薄塗材 W	・	・厚付け仕 上塗材	・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 吸放湿性 ・適用する・適用しない 上塗材 ・適用する・適用しない	・外装厚塗材 Si	・	・外装厚塗材 E	・	・内装厚塗材 C	・	・内装厚塗材 L	・	・内装厚塗材 G	・	・内装厚塗材 Si	・	・内装厚塗材 E	・	・複層仕上 塗材	・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック	・可とう形複層塗材 CE	・	・複層塗材 Si	・	・複層塗材 E	・	・複層塗材 RE	・	・防水形複層塗材 CE	・	・防水形複層塗材 E	・	・防水形複層塗材 RE	・	・防水形複層塗材 RS	・	・軽量骨材 仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・		・こて塗用軽量塗材	・
	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状等																																																																						
	・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する・適用しない																																																																						
		・可とう形外装薄塗材 Si	・																																																																							
・外装薄塗材 E		・																																																																								
・可とう形外装薄塗材 E		・																																																																								
・防水形外装薄塗材 E		・																																																																								
・外装薄塗材 S		・																																																																								
・内装薄塗材 C		・																																																																								
・内装薄塗材 L		・																																																																								
・内装薄塗材 Si		・																																																																								
・内装薄塗材 E		・																																																																								
・内装薄塗材 W	・																																																																									
・厚付け仕 上塗材	・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 吸放湿性 ・適用する・適用しない 上塗材 ・適用する・適用しない																																																																							
	・外装厚塗材 Si	・																																																																								
	・外装厚塗材 E	・																																																																								
	・内装厚塗材 C	・																																																																								
	・内装厚塗材 L	・																																																																								
	・内装厚塗材 G	・																																																																								
	・内装厚塗材 Si	・																																																																								
・内装厚塗材 E	・																																																																									
・複層仕上 塗材	・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック																																																																							
	・可とう形複層塗材 CE	・																																																																								
	・複層塗材 Si	・																																																																								
	・複層塗材 E	・																																																																								
	・複層塗材 RE	・																																																																								
	・防水形複層塗材 CE	・																																																																								
	・防水形複層塗材 E	・																																																																								
	・防水形複層塗材 RE	・																																																																								
・防水形複層塗材 RS	・																																																																									
・軽量骨材 仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・																																																																								
	・こて塗用軽量塗材	・																																																																								
5 ALC パネルの場合の 下地処理	<p style="text-align: right;">(15.5.4)</p> <p>内壁目地部の形状 ※V形目地付き</p>																																																																									
6 マスチック塗料塗り	<p style="text-align: right;">(15.6.2)</p> <p>種別 ・A種 ・B種</p>																																																																									
7 ロックウール吹付け	<p style="text-align: right;">(15.8.2) (15.8.3)</p> <p>ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25</p>																																																																									

章	項目	特記事項											
16 建具工事	1 防火戸	(16. 1. 3) ※建具表による											
	2 見本の製作等	(16. 1. 4) 建具見本の製作 ・ 行う (建具符号: ) ※行わない 建具見本の程度 ・ 工事に使用するものとして, あらかじめ製作する ・ 納まり等が分かる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・ 行う (建具符号: ) ・ 行わない											
	3 防犯建物部品	(16. 1. 6) ・ 適用する (※建具表による ) ・ 適用しない											
	4 アルミニウム製建具	(16. 2. 2) (16. 2. 4) (16. 2. 5) (表 14. 2. 1) 性能等級 外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による ) ・ B種 (建具符号: ※建具表による ) ・ C種 (建具符号: ※建具表による ) 防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない 断熱ドアセット, 断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない 枠の見込み寸法 ※建具表による 表面処理 外部に面する建具 ・ B-1種 ・ B-2種 皮膜等の種類 (※標準仕様書 表 14. 2. 1による ) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 屋内の建具 ・ C-1種 ・ C-2種 皮膜等の種類 (※標準仕様書 表 14. 2. 1による ) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 結露水の処理方法 ※図示 水切り板, ぜん板 ※図示											
	5 網戸等	(16. 2. 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>線径</th> <th>網目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製</td> <td>※0. 25mm 以上 ・</td> <td>※16~18 メッシュ ・</td> </tr> <tr> <td>・ 防鳥網</td> <td>ステンレス (SUS304) 線材</td> <td>1. 5mm</td> <td>網目寸法 15mm</td> </tr> </tbody> </table>	種類	材種	線径	網目	※防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16~18 メッシュ ・	・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm
種類	材種	線径	網目										
※防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16~18 メッシュ ・										
・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm										
6 樹脂製建具	(16. 2. 5) (16. 3. 2~16. 3. 5) 性能等級 外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による ) ・ B種 (建具符号: ※建具表による ) ・ C種 (建具符号: ※建具表による ) 防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 (・ T-1 ・ T-2) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない												

章	項目	特記事項								
16 建具工事	6 樹脂製建具	断熱ドアセット, 断熱サッシ <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 断熱性の等級 (・H-4 ・H-5 ・H-6)</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 耐震ドアセット <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 面内変形追随性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 枠の見込み寸法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建具表による</li> </ul> 表面色 ※標準色 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特注色</li> </ul> 水切り板, ぜん板 ※図示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> ガラス ※複層ガラス <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>								
	7 鋼製建具	(16. 2. 2) (16. 4. 2~16. 4. 4) (表 16. 4. 2) 性能等級 簡易気密型ドアセット <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する (建具符号: ※建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 外部に面する建具の耐風圧性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・S-4 (建具符号: ※建具表による )</li> <li>・S-5 (建具符号: ※建具表による )</li> <li>・S-6 (建具符号: ※建具表による )</li> <li>・</li> </ul> 防音ドアセット, 防音サッシ <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 遮音性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 断熱ドアセット, 断熱サッシ <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 断熱性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ※建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 耐震ドアセット <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 面内変形追随性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 鋼板 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>めっき付着量</th> <th>厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)</td> <td>※Z12 又は F12</td> <td>・標準仕様書 表 16. 4. 2 による</td> </tr> <tr> <td>・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)</td> <td>※Y08</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	材料	めっき付着量	厚さ	・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12 又は F12	・標準仕様書 表 16. 4. 2 による	・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08
材料	めっき付着量	厚さ								
・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12 又は F12	・標準仕様書 表 16. 4. 2 による								
・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08	・								
8 鋼製軽量建具	(16. 2. 2) (16. 5. 2~16. 5. 4) 性能等級 簡易気密型ドアセット <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する (建具符号: ※建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 防音ドアセット, 防音サッシ <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 遮音性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 断熱ドアセット, 断熱サッシ <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 断熱性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 耐震ドアセット <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する 面内変形追随性の等級 ( )</li> <li>(建具符号: ・建具表による )</li> <li>・適用しない</li> </ul> 鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニル被覆鋼板</li> <li>・カラー鋼板</li> <li>・ステンレス鋼板</li> </ul> 鋼板の厚さ <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 表 16. 5. 1 による</li> </ul> 召合せ, 縦小口包み板の材質 <ul style="list-style-type: none"> <li>※鋼板</li> <li>※建具表による</li> </ul>									

章	項目	特記事項											
16 建具工事	9 ステンレス製建具	<p style="text-align: right;">(16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2～16. 6. 5)</p> <p>性能等級</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号: ※建具表による )          ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号: ※建具表による )          ・S-5 (建具符号: ※建具表による )          ・S-6 (建具符号: ※建具表による )</p> <p>防音ドアセット, 防音サッシ ・適用する 遮音性の等級 ( )          (建具符号: ・建具表による )          ・適用しない</p> <p>断熱ドアセット, 断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級 ( )          (建具符号: ・建具表による )          ・適用しない</p> <p>耐震ドアセット ・適用する 面内変形追従性の等級 ( )          (建具符号: ・建具表による )          ・適用しない</p> <p>鋼板 (屋外) ※SUS430J1L, SUS443J1, SUS304          鋼板 (屋内) ※SUS430, SUS430J1L, SUS443J1, SUS304          表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ          ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>											
	10 木製建具	<p style="text-align: right;">(16. 7. 2～16. 7. 4)</p> <p>建具材の加工, 組立時の含水率 ※B種          建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量          ※規制対象外</p> <p>・フラッシュ戸          表面材の合板の種類</p> <table border="1" data-bbox="529 1115 1471 1706"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th> <th>規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td> <td>表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラツ程度) 不透明塗料塗り (※しな程度) 板面の品質 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・天然木 化粧合板</td> <td>樹種名 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・特殊加工 化粧合板</td> <td>化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 ( )タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>表面板の厚さ ※標準仕様書 表 16. 7. 6 による</p> <p>・かまち戸 かまち樹種 ( ) 鏡板樹種 ( ) 見込み寸法 ※36mm ・建具表による</p>	合板の種類	規格等	備考	・普通合板	表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラツ程度) 不透明塗料塗り (※しな程度) 板面の品質 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う		・天然木 化粧合板	樹種名 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う		・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 ( )タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う
合板の種類	規格等	備考											
・普通合板	表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラツ程度) 不透明塗料塗り (※しな程度) 板面の品質 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う												
・天然木 化粧合板	樹種名 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う												
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 ( )タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 防虫処理 ・行う												

章	項目	特記事項													
16 建具工事	10 木製建具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふすま 張りの種別（・I型 ・II型） 上張り（押入等の裏側以外） ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度</li> <li>縁仕上げ ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリアー塗装）</li> <li>見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・</li> <li>・戸ぶすま 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</li> <li>・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</li> <li>枠及びくつずりの材料 ・建具表による ・</li> </ul>													
	11 建具用金物	<p>(16.8.2) (16.8.3) (表 16.8.1)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※標準仕様書 表 16.8.1 及び適用は建具表による ・</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書 表 16.8.3 による ・</p> <p>握り玉, レバーハンドル, 押板類, クレセントの取付け位置 ・建具表による ・</p> <p>・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠】 (品質) 建築材料等品質性能表による (性能) 建築材料等品質性能表による</p> <p>・錠前類 【レバーハンドル】 (性能) 建築材料等品質性能表による</p> <p>・クローザ類 (品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による</p>													
	12 鍵	<p>(16.8.4)</p> <p>マスターキー ※製作する ・製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 ・ 鍵箱 ※有 ・無</p>													
	13 自動ドア開閉装置	<p>(16.9.2) (16.9.3) (表 16.9.1) (表 16.9.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自動ドア</th> <th>性能</th> <th>防錆</th> <th>センサーの種類</th> <th>凍結防止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2</td> <td>※標準仕様書 表 16.9.1 による ・</td> <td rowspan="3">◎適用する ・適用しない</td> <td>・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ◎光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トレススイッチ</td> <td rowspan="3">◎行う （適用箇所は建具表による） ・行わない</td> </tr> <tr> <td>・SWD-1 ・SWD-2</td> <td>※標準仕様書 表 16.9.2 による ・</td> </tr> <tr> <td>◎図示</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止	・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※標準仕様書 表 16.9.1 による ・	◎適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ◎光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トレススイッチ	◎行う （適用箇所は建具表による） ・行わない	・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書 表 16.9.2 による ・	◎図示
自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止											
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※標準仕様書 表 16.9.1 による ・	◎適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ◎光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トレススイッチ	◎行う （適用箇所は建具表による） ・行わない											
・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書 表 16.9.2 による ・														
◎図示															

章	項目	特記事項										
16 建具工事	13 自動ドア開閉装置	(品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による										
	14 自閉式上吊り引戸装置	(16. 10. 3) 性能 ※ 標準仕様書 表 16. 10. 1 による ※ 図示 (試験方法) 建築材料等品質性能表による										
	15 重量シャッター ◎ 図示	(16. 11. 2) (16. 11. 3) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>シャッターの種類</th> <th>耐風圧強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・管理用シャッター</td> <td>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>・外壁用防火シャッター</td> <td>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>・屋内用防火シャッター</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋内用防煙シャッター</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>開閉機能による種類 ※ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 管理用シャッターのシャッターケース ※ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※ Z12 又は F12 ・</p>	シャッターの種類	耐風圧強度	・管理用シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>	・外壁用防火シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>	・屋内用防火シャッター		・屋内用防煙シャッター	
	シャッターの種類	耐風圧強度										
	・管理用シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>										
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>											
・屋内用防火シャッター												
・屋内用防煙シャッター												
16 軽量シャッター ◎ 図示	(16. 12. 2~16. 12. 4) 開閉形式 ◎ 手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> スラットの材質 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 (※ Z06 又は F06 ・ ) ・ JIS G 3322 (塗装溶融 55% アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板) めっき付着量 (※ AZ90 ・ ) スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形											
17 オーバーヘッドドア ◎ 図示	(16. 13. 2) (16. 13. 3) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>セクション材料による区分</th> <th>耐風圧 区分 (Pa)</th> <th>開閉方式による区分</th> <th>収納形式による区分</th> <th>ガイドレールの材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ スチールタイプ ※ アルミウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ</td> <td>・ 125 (1250Pa) ・ 100 (1000Pa) ・ 75 (750Pa) ・ 50 (500Pa)</td> <td>・ バランス式 ・ チェーン式 ※ 電動式</td> <td>・ スタンダード形 ※ ローヘッド形 ・ ハリフト形 ・ バーチカル形</td> <td>※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板</td> </tr> </tbody> </table>	セクション材料による区分	耐風圧 区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質	・ スチールタイプ ※ アルミウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	・ 125 (1250Pa) ・ 100 (1000Pa) ・ 75 (750Pa) ・ 50 (500Pa)	・ バランス式 ・ チェーン式 ※ 電動式	・ スタンダード形 ※ ローヘッド形 ・ ハリフト形 ・ バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板	
セクション材料による区分	耐風圧 区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質								
・ スチールタイプ ※ アルミウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	・ 125 (1250Pa) ・ 100 (1000Pa) ・ 75 (750Pa) ・ 50 (500Pa)	・ バランス式 ・ チェーン式 ※ 電動式	・ スタンダード形 ※ ローヘッド形 ・ ハリフト形 ・ バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板								
18 ガラス	(16. 14. 2~16. 14. 4) (表 16. 14. 1) 適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。 ・ 合わせガラス <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>構成種類</th> <th>性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ フロート合わせガラス</td> <td>・ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収, フロート板合わせガラス</td> <td>・ I 類</td> </tr> <tr> <td>・ 網入磨き合わせガラス</td> <td>・ 網入磨き, フロート板合わせガラス ・ 網入磨き, 熱線吸収板合わせガラス</td> <td>・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類</td> </tr> </tbody> </table>	品種	構成種類	性能	・ フロート合わせガラス	・ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収, フロート板合わせガラス	・ I 類	・ 網入磨き合わせガラス	・ 網入磨き, フロート板合わせガラス ・ 網入磨き, 熱線吸収板合わせガラス	・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類		
品種	構成種類	性能										
・ フロート合わせガラス	・ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収, フロート板合わせガラス	・ I 類										
・ 網入磨き合わせガラス	・ 網入磨き, フロート板合わせガラス ・ 網入磨き, 熱線吸収板合わせガラス	・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類										

章	項目	特記事項														
16 建具工事	18 ガラス ◎図示	<ul style="list-style-type: none"> <li>強化ガラス</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料板ガラスによる種類</th> <th>種類</th> <th>性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フロートガラス</td> <td>・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス</td> <td rowspan="2">・Ⅰ類 ・Ⅲ類</td> </tr> <tr> <td>・型板ガラス</td> <td>・型板強化ガラス</td> </tr> </tbody> </table>	材料板ガラスによる種類	種類	性能	・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類	・型板ガラス	・型板強化ガラス						
		材料板ガラスによる種類	種類	性能												
		・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類												
		・型板ガラス	・型板強化ガラス													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>熱線吸収板ガラス</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>性能</th> <th>色調</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・熱線吸収フロート板ガラス</td> <td>・1種</td> <td rowspan="2">・ブルー ・グレー ・ブロンズ</td> </tr> <tr> <td>・熱線吸収網入磨き板ガラス</td> <td>・2種</td> </tr> </tbody> </table>	品種	性能	色調	・熱線吸収フロート板ガラス	・1種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ	・熱線吸収網入磨き板ガラス	・2種						
		品種	性能	色調												
		・熱線吸収フロート板ガラス	・1種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ												
		・熱線吸収網入磨き板ガラス	・2種													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>複層ガラス</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・断熱複層ガラス</td> <td>・1種</td> <td>U1</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>U2</td> </tr> <tr> <td>・3種</td> <td>・U-3-1 ・U-3-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・日射熱遮へい複層ガラス</td> <td>・4種</td> <td>E4</td> </tr> <tr> <td>・5種</td> <td>E5</td> </tr> </tbody> </table>	種類	記号	・断熱複層ガラス	・1種	U1	・2種	U2	・3種	・U-3-1 ・U-3-2	・日射熱遮へい複層ガラス	・4種	E4	・5種	E5
		種類	記号													
		・断熱複層ガラス	・1種	U1												
			・2種	U2												
			・3種	・U-3-1 ・U-3-2												
		・日射熱遮へい複層ガラス	・4種	E4												
			・5種	E5												
<ul style="list-style-type: none"> <li>熱線反射ガラス</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>日射熱遮へい性</th> <th>耐久性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・熱線反射ガラス 色調（・ブルー ・グレー）</td> <td>・1種</td> <td>A種</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td>・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ ・シルバー）</td> <td>・3種</td> <td>B種</td> </tr> </tbody> </table>	品種	日射熱遮へい性	耐久性	・熱線反射ガラス 色調（・ブルー ・グレー）	・1種	A種	・2種	・A種 ・B種	・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ ・シルバー）	・3種	B種					
品種	日射熱遮へい性	耐久性														
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー ・グレー）	・1種	A種														
	・2種	・A種 ・B種														
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ ・シルバー）	・3種	B種														
反射被膜面 ・内面 ・外面 映像調整 ・行わない ・行う																
<ul style="list-style-type: none"> <li>倍強度ガラス</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料板ガラスによる種類の名称</th> <th>色調</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フロート倍強度ガラス</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・熱線吸収倍強度ガラス</td> <td>・ブルー ・グレー ・ブロンズ</td> </tr> </tbody> </table>	材料板ガラスによる種類の名称	色調	・フロート倍強度ガラス	-	・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ										
材料板ガラスによる種類の名称	色調															
・フロート倍強度ガラス	-															
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ															
ガラスの留め材及び溝の大きさ																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>ガラス留め材</th> <th>ガラス溝の大きさ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・</td> <td>※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>鋼製及び鋼製軽量</td> <td>・シーリング材 ・</td> <td>※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>・シーリング材 ・</td> <td>※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・</td> </tr> </tbody> </table>	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・	鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・	ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・				
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)														
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・														
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・														
ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書 表 16. 14. 1 による ・図示 ・														

章	項目	特記事項								
16 建築工事	19 ガラスブロック	(16.14.5)								
		表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調		目地幅 (mm)		伸縮調整目地 (mm)	防火性能
		・正方形	・125×125	80	クリア	乳白	※8～15 ・15～25 ・	外側	※6m以下ごとに幅10～25 ・図示 ・	※無し ・有り
			・160×160		・95 ・125	・		・		
			・200×200	・95 ・125	・	・	内側			
			・320×320	95	・	・	※6以上 ・			
		・長方形	・250×125	80	・	・				
			・320×160	95	・	・				
		<p>曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。</p> <p>壁用金属枠及び補強材 ・設ける (形状 ※図示 ・ )          ・設けない</p> <p>力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) ・          寸法 ※径 5.5mm ・          形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・</p> <p>化粧目地モルタルの色 ( )</p> <p>金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製          寸法 ※図示 ・          形状 ※図示 ・</p> <p>工法          建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法          目地部の力骨の補強方法          ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示 ・</p>								

章	項目	特記事項																																																							
ニ カーテンウォール工事	1 取付方法, 性能等	<p style="text-align: right;">(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)</p> <p>取付方法            ・層間方式 ・柱・梁方式 ・方立方式 ・スパンドレル方式 ・</p> <p>性能</p> <table border="1" data-bbox="529 271 1474 483"> <thead> <tr> <th colspan="2">耐震性能</th> <th rowspan="2">水密性</th> <th rowspan="2">気密性</th> <th rowspan="2">遮音性</th> <th rowspan="2">断熱性</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> <th rowspan="2">耐温度差性(°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向(kH)</th> <th>垂直方向(kV)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・1.0 ・</td> <td>・0.5 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・30分 ・1時間</td> <td>・80 ・70 ・60</td> </tr> </tbody> </table> <p>耐風圧性能            建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法</p> <p>主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)</p> <table border="1" data-bbox="529 656 1474 831"> <thead> <tr> <th>支点間距離(h)</th> <th>耐風圧性能</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4m以下</td> <td>・たわみ量が<math>\pm(1/150) \times h</math>かつ絶対量20mm以下であること ・</td> <td rowspan="2">部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。</td> </tr> <tr> <td>4mを超える</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>層間変位追従性</p> <table border="1" data-bbox="529 902 1474 1077"> <thead> <tr> <th>建築物の構造種別</th> <th>層間変位量(h=支点間距離)</th> <th>変位後の状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄骨造</td> <td>・<math>\pm(1/200) \times h</math>以上 ・</td> <td rowspan="2">部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造</td> <td>・<math>\pm(1/300) \times h</math>以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>シーリング材            下表以外は標準仕様書 表9.7.1による</p> <table border="1" data-bbox="529 1182 1474 1397"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">被着体の組合せ</th> <th colspan="2">シーリング材の種別</th> </tr> <tr> <th>記号</th> <th>主成分による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">金属</td> <td>ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石, タイル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガラス</td> <td>ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">カーテンウォール板間目地</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造用ガスケット            ・適用する (施工箇所 ・図示 ・ )            材質 ・クロロプレン系 ・EPDM系 ・シリコーン系            形状 ・H形 ・Y形 ・C形            寸法(mm) ガラス板厚( ), 支持枠の厚さ( ), ウェブの寸法( )            ・適用しない</p> <p>断熱材            種類( )            厚さ(mm)( )            施工箇所 ・図示 ・</p>	耐震性能		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(°C)	水平方向(kH)	垂直方向(kV)	・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60	支点間距離(h)	耐風圧性能	状態	4m以下	・たわみ量が $\pm(1/150) \times h$ かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。	4mを超える	・	建築物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	変位後の状態	鉄骨造	・ $\pm(1/200) \times h$ 以上 ・	部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・ $\pm(1/300) \times h$ 以上	被着体の組合せ		シーリング材の種別		記号	主成分による区分	金属	ガラス			石, タイル			ガラス	ガラス			カーテンウォール板間目地			
	耐震性能		水密性	気密性							遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(°C)																																											
	水平方向(kH)	垂直方向(kV)																																																							
	・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60																																																	
	支点間距離(h)	耐風圧性能	状態																																																						
	4m以下	・たわみ量が $\pm(1/150) \times h$ かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。																																																						
	4mを超える	・																																																							
	建築物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	変位後の状態																																																						
	鉄骨造	・ $\pm(1/200) \times h$ 以上 ・	部材の脱落, ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。																																																						
	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・ $\pm(1/300) \times h$ 以上																																																							
被着体の組合せ		シーリング材の種別																																																							
		記号	主成分による区分																																																						
金属	ガラス																																																								
	石, タイル																																																								
ガラス	ガラス																																																								
カーテンウォール板間目地																																																									

章	項目	特記事項																		
17 カーテンウォール工事	1 取付方法, 性能等	耐火材料 <table border="1" data-bbox="529 163 1471 380"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種別</th> <th>規格等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ファスナー部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・取付けブラケット</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・パネル目地部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・層間ふさぎ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	種別	規格等	・ファスナー部			・取付けブラケット			・パネル目地部			・層間ふさぎ					
	施工部位	種別	規格等																	
	・ファスナー部																			
・取付けブラケット																				
・パネル目地部																				
・層間ふさぎ																				
2 メタルカーテンウォール	(17.2.2) (17.2.3) (17.2.5) カーテンウォール材料 <table border="1" data-bbox="529 470 1471 716"> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>規格等</th> <th>映像調整</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※アルミニウム製</td> <td>※標準仕様書 16.2.3 による</td> <td>・A-1種 ・A-2種 ・皮膜等の種類(※標準仕様書 表14.2.1 による ) 着色(・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー)</td> <td>・行う ・行わない</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表 17.2.1 から表 17.2.3 による ガラス溝の寸法, 形状 ※製造所の仕様による	材料	規格等	映像調整	※アルミニウム製	※標準仕様書 16.2.3 による	・A-1種 ・A-2種 ・皮膜等の種類(※標準仕様書 表14.2.1 による ) 着色(・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー)	・行う ・行わない	・											
材料	規格等	映像調整																		
※アルミニウム製	※標準仕様書 16.2.3 による	・A-1種 ・A-2種 ・皮膜等の種類(※標準仕様書 表14.2.1 による ) 着色(・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー)	・行う ・行わない																	
・																				
3 PCカーテンウォール	(17.3.2~17.3.5) (表 17.3.1) (表 17.3.2) カーテンウォールの材料 コンクリート ※標準仕様書 17.3.2(a)(i)~(v)による 鉄筋 ※SD295A (・D13 ・D10) 補強鉄線の径(mm) ※3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 配筋 ※図示 先付けの材料 ・サッシ枠 ・ゴンドラ用ガイドレール 表面仕上材 ・磁器質タイル ・石材 (・花こう岩 ・大理石 ) ・ ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm) ・h=1~+2, W1 及び W2=±1 製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表 17.3.1 から表 17.3.2 による																			

章	項目	特記事項																																																																
18 塗装工事	1 材料	(18. 1. 3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 防火材料 ※屋内の壁，天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所： )																																																																
	2 素地ごしらえ	(18. 2. 2～18. 2. 7) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">下地面等</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">木部</td> <td>不透明塗料塗りの場合</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>透明塗りの場合</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>※C種 ・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td></td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>モルタル面及びプラスター面</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>押出成形セメント板面</td> <td></td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">せっこうボード面及びその 他ボード面</td> <td>目地：継目処理工法</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>目地：継目処理工法以外</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> </tbody> </table>	下地面等		種別	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種	透明塗りの場合	※B種 ・ A種	鉄鋼面		※C種 ・ A種 ・ B種	亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種	モルタル面及びプラスター面		※B種 ・ A種	コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		※B種 ・ A種	押出成形セメント板面		・ A種 ・ B種	せっこうボード面及びその 他ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種																																				
	下地面等		種別																																																															
	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種																																																															
透明塗りの場合		※B種 ・ A種																																																																
鉄鋼面		※C種 ・ A種 ・ B種																																																																
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種																																																																
モルタル面及びプラスター面		※B種 ・ A種																																																																
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		※B種 ・ A種																																																																
押出成形セメント板面		・ A種 ・ B種																																																																
せっこうボード面及びその 他ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種																																																																
	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種																																																																
3 錆止め塗料塗り	(18. 3. 2) (18. 3. 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">下地面等</th> <th>工程の種別</th> <th>塗料の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td>見え掛り部分</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>見え隠れ部分</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">亜鉛めっき鋼面</td> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td rowspan="2">・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具以外</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> </tbody> </table>	下地面等		工程の種別	塗料の種別	鉄鋼面	見え掛り部分	※A種 ・ B種		見え隠れ部分	※B種 ・ A種	亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・ B種	・ A種 ・ B種 ・ C種	鋼製建具以外	※B種 ・ A種																																																	
下地面等		工程の種別	塗料の種別																																																															
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種 ・ B種																																																																
	見え隠れ部分	※B種 ・ A種																																																																
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・ B種	・ A種 ・ B種 ・ C種																																																															
	鋼製建具以外	※B種 ・ A種																																																																
4 塗装	(18. 4. 1～18. 14. 2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗装</th> <th>種別</th> <th>塗料の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)</td> <td>木部屋外</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>木部屋内</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>-</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>・クリヤラッカー塗り (CL)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・耐候性塗料塗り (DP)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>-</td> <td>上塗り等級( )級</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>-</td> <td>上塗り等級( )級</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面及び押出成形セメント板面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)</td> <td>コンクリート面，モルタル面，プラスター面，せっこうボード面，その他ボード面等</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>屋内の鉄鋼面</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・ラッカーエナメル塗り (LE)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>◎オイルステイン塗り (OS)</td> <td></td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・木材保護塗料塗り (WP)</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>高日射反射率塗料の適用 ・適用する ・適用しない 適用箇所 ※屋上，屋根面の金属面 ・</p>	塗装	種別	塗料の種類	・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※A種 ・ B種	※1種 ・ 2種	木部屋内	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種	鉄鋼面	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種	亜鉛めっき鋼面	-	※1種 ・ 2種	・クリヤラッカー塗り (CL)		※B種 ・ A種	-	・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B種 ・ A種	-	・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級( )級	亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級( )級	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・ A種 ・ B種 ・ C種	-	・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面，モルタル面，プラスター面，せっこうボード面，その他ボード面等	※B種 ・ A種	-	屋内の鉄鋼面	※B種 ・ A種	-	・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		※B種 ・ A種	-	・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)		※B種 ・ A種	-	・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B種 ・ A種	-	・ラッカーエナメル塗り (LE)		※B種 ・ A種	-	◎オイルステイン塗り (OS)		-	-	・木材保護塗料塗り (WP)		※B種 ・ A種	-
塗装	種別	塗料の種類																																																																
・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※A種 ・ B種	※1種 ・ 2種																																																															
	木部屋内	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種																																																															
	鉄鋼面	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種																																																															
	亜鉛めっき鋼面	-	※1種 ・ 2種																																																															
・クリヤラッカー塗り (CL)		※B種 ・ A種	-																																																															
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B種 ・ A種	-																																																															
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級( )級																																																															
	亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級( )級																																																															
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・ A種 ・ B種 ・ C種	-																																																															
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面，モルタル面，プラスター面，せっこうボード面，その他ボード面等	※B種 ・ A種	-																																																															
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・ A種	-																																																															
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		※B種 ・ A種	-																																																															
・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)		※B種 ・ A種	-																																																															
・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B種 ・ A種	-																																																															
・ラッカーエナメル塗り (LE)		※B種 ・ A種	-																																																															
◎オイルステイン塗り (OS)		-	-																																																															
・木材保護塗料塗り (WP)		※B種 ・ A種	-																																																															

章	項目	特記事項																											
19 内装工事	1 接着剤	(19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・図示																											
	2 ビニル床シート	(19.2.2) (19.2.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>JIS 記号</th> <th>施工箇所</th> <th>色柄</th> <th>特殊機能</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・発泡層のないもの</td> <td>※FS(複層ビニル床シート)</td> <td></td> <td>・無地 ・マブル柄</td> <td>・帯電防止 ・耐動荷重性</td> <td>※2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・発泡層のあるもの</td> <td></td> <td></td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・防滑性 ・耐薬品性</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 工法 ◎熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ） 特殊機能 帯電防止 ・帯電防止性能評価値(JIS A 1455) 1.2 以上～3.2 未満 又は体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度 ・	種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考	・発泡層のないもの	※FS(複層ビニル床シート)		・無地 ・マブル柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※2.0		・発泡層のあるもの			・無地 ・柄物	・防滑性 ・耐薬品性								
	種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考																						
	・発泡層のないもの	※FS(複層ビニル床シート)		・無地 ・マブル柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※2.0																							
	・発泡層のあるもの			・無地 ・柄物	・防滑性 ・耐薬品性																								
	3 ビニル床タイル	(19.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>JIS 記号</th> <th>施工箇所</th> <th>色柄</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>特殊機能</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・FT (複層ビニル床タイル)</td> <td></td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・300×300 ・450×450</td> <td>・帯電防止 ・防滑性</td> <td>※2.0 ・2.5 ・3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・KT (コンポジションビニル床タイル)</td> <td></td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・300×300 ・450×450</td> <td>・帯電防止 ・防滑性</td> <td>・2.0 ・3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎FOA (置敷きビニル床タイル)</td> <td></td> <td>◎無地 ・柄物</td> <td>・500×500</td> <td>◎帯電防止 ・防滑性</td> <td>◎5.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 特殊機能 帯電防止 ・帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2 以上～3.2 未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度 ・	JIS 記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考	・FT (複層ビニル床タイル)		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※2.0 ・2.5 ・3.0		・KT (コンポジションビニル床タイル)		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	・2.0 ・3.0		◎FOA (置敷きビニル床タイル)		◎無地 ・柄物	・500×500	◎帯電防止 ・防滑性	◎5.0
JIS 記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考																							
・FT (複層ビニル床タイル)		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※2.0 ・2.5 ・3.0																								
・KT (コンポジションビニル床タイル)		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	・2.0 ・3.0																								
◎FOA (置敷きビニル床タイル)		◎無地 ・柄物	・500×500	◎帯電防止 ・防滑性	◎5.0																								
4 ビニル幅木	(19.2.2) 材質 ・軟質 ・硬質 高さ(mm) ※60 ・75 ・100 厚さ(mm) ※1.5 以上 ・																												
5 ゴム床タイル	(19.2.2) 色柄 ( ) 厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法(mm) ( )																												
6 カーペット敷き	(19.3.3) (19.3.4) (表 19.3.1) ・織じゅうたん <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>パイル形状</th> <th>織り方</th> <th>色柄等</th> <th>帯電性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>・カットパイル</td> <td>・ウルトンカーペット</td> <td>・無地</td> <td>・適用する (性能:※人体帯電圧 3kv 以下 ・ )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>・ループパイル</td> <td>・ダブルフェースカーペット</td> <td>・柄物</td> <td>・適用しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>・カット,ループ 併用</td> <td>・アキスミスターカーペット</td> <td>(標準品)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・	種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考	・A種	・カットパイル	・ウルトンカーペット	・無地	・適用する (性能:※人体帯電圧 3kv 以下 ・ )		・B種	・ループパイル	・ダブルフェースカーペット	・柄物	・適用しない		・C種	・カット,ループ 併用	・アキスミスターカーペット	(標準品)						
種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考																								
・A種	・カットパイル	・ウルトンカーペット	・無地	・適用する (性能:※人体帯電圧 3kv 以下 ・ )																									
・B種	・ループパイル	・ダブルフェースカーペット	・柄物	・適用しない																									
・C種	・カット,ループ 併用	・アキスミスターカーペット	(標準品)																										

章	項目	特記事項				
19 内装工事	6 カーペット敷き	・タフテッドカーペット				
		パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
		・カットパイル	※5~7	※全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する (性能:※人体帯電圧 3kv 以下 ・ ) ・適用しない	
		・ループパイル	※4~6			
		・レベループパイル	・4			
	・カット, ループ 併用	・				
	下敷き材 (グリッパー工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm					
	・ニードルパンチカーペット 厚さ(mm) ( ) 帯電性 ・適用する (性能:※人体帯電圧 3kv 以下 ・ ) ・適用しない 備考 ( )					
	・タイルカーペット					
	パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・		
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・		
・カット, ループ 併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・		
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・ 階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・ 見切り, 押え金物 ・適用する (材質, 形状等 ※図示 ・ ) ・適用しない						
7 合成樹脂塗床	(19.4.2) (19.4.3) (表 19.4.4) (表 19.4.5)					
	種別	施工箇所	工法	仕上げの種類		
	・厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ		
	・厚膜型塗床材 (ポキシ樹脂系塗床)		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ		
	・薄膜型塗床材 (ポキシ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ		
・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	工程 塗布量 (kg/m <sup>2</sup> ) ※0.25kg/m <sup>2</sup> 以上 表面仕上げ ※平滑 ・ 防滑 溶剤 ※水性 ・ 溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ※標準色 ・			
塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外						

章	項目	特記事項																																																										
19 内装工事	8 フローリング張り	(19.5.2~19.5.6) (表 19.5.1~表 19.5.5) <div style="text-align: center;">単層フローリング</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>工法</th> <th>樹種</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>大きさ (mm)</th> <th>仕上塗装</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・フローリング ボード 1等</td> <td>・釘留め工法 (根太張り)</td> <td>※なら ・</td> <td>15</td> <td>板幅 75 板長さ 500 以上</td> <td rowspan="3">・塗装品 ・無塗装品</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・釘留め工法 (直張り)</td> <td>※なら ・</td> <td>・12 以上 ・</td> <td>板幅 75 板長さ 300 以上</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・接着工法</td> <td>※なら ・</td> <td>・12 以上 ・</td> <td>板幅 75 板長さ 300 以上</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フローリング ブロック 1等</td> <td>接着工法</td> <td>※なら ・</td> <td>15</td> <td>303×303</td> <td>・塗装品 ・無塗装品</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・モザイク パーケット 1等</td> <td>接着工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・塗装品 ・無塗装品</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center;">複合フローリング</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>工法</th> <th>樹種</th> <th>厚さ/ 大きさ (mm)</th> <th>種別</th> <th>防湿処理</th> <th>塗装仕上げ</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・天然木化 粧複合フ ローリング</td> <td>・釘留め工法 (根太張り) ・釘留め工法 (直張り)</td> <td>※なら ・</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td rowspan="2">・A種 ・B種 ※C種</td> <td rowspan="2">・適用する ・適用しない</td> <td rowspan="2">・塗装品 ・無塗装品</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・接着工法</td> <td>※なら ・</td> <td>板厚 ・8 以上・ 板幅 ・75 以上 板長さ 900 以上</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外          接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート          現場塗装仕上げ ・行う (施工箇所 )              ※ウレタン樹脂ワニス塗り              ・オイルステインの上、ワックス塗り              ・生地のままワックス塗り              ・行わない</p>	種類	工法	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	仕上塗装	間伐材等の適用	・フローリング ボード 1等	・釘留め工法 (根太張り)	※なら ・	15	板幅 75 板長さ 500 以上	・塗装品 ・無塗装品	・	・釘留め工法 (直張り)	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上	・	・接着工法	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上	・	・フローリング ブロック 1等	接着工法	※なら ・	15	303×303	・塗装品 ・無塗装品	・	・モザイク パーケット 1等	接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品	・	種類	工法	樹種	厚さ/ 大きさ (mm)	種別	防湿処理	塗装仕上げ	間伐材等の適用	・天然木化 粧複合フ ローリング	・釘留め工法 (根太張り) ・釘留め工法 (直張り)	※なら ・	/	・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	・	・接着工法	※なら ・	板厚 ・8 以上・ 板幅 ・75 以上 板長さ 900 以上	・
	種類	工法	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	仕上塗装	間伐材等の適用																																																					
・フローリング ボード 1等	・釘留め工法 (根太張り)	※なら ・	15	板幅 75 板長さ 500 以上	・塗装品 ・無塗装品	・																																																						
	・釘留め工法 (直張り)	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上		・																																																						
	・接着工法	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上		・																																																						
・フローリング ブロック 1等	接着工法	※なら ・	15	303×303	・塗装品 ・無塗装品	・																																																						
・モザイク パーケット 1等	接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品	・																																																						
種類	工法	樹種	厚さ/ 大きさ (mm)	種別	防湿処理	塗装仕上げ	間伐材等の適用																																																					
・天然木化 粧複合フ ローリング	・釘留め工法 (根太張り) ・釘留め工法 (直張り)	※なら ・	/	・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	・																																																					
	・接着工法	※なら ・	板厚 ・8 以上・ 板幅 ・75 以上 板長さ 900 以上				・																																																					
9 畳敷き	(19.6.2) (表 19.6.1) 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床：・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書 表 12.6.1 による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン) ・ 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ない材料を使用したものとする。																																																											

章	項目	特記事項		
19 内装工事	10 せっこうボード その他ボード張り	(19.7.2) (19.7.3) (表 19.7.1)		
		種類	JIS 記号	厚さ(mm), 規格等
		・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・
		・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・
		・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・
		・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
		・普通木片セメント板	NF	・30 ・
		◎けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ◎ 5 ・6 ・8
		・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ (・9(不燃) ・12(不燃) ・ ) ・凹凸タイプ (・12(不燃) ・15(不燃) ・19(不燃) ・ )
		・ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・25 ・
		・グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	・25(ガラスクロス包) ・
		・せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃) ・15(不燃)
		・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラパチ模様)
		・シジツクせっこうボード	GB-S	12.5(※不燃 ・準不燃)
		◎強化せっこうボード	GB-F	◎12.5(不燃) ・15(不燃)
		・せっこうラスボード	GB-L	9.5
		・化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5(不燃) 幅 440mm 程度 模様(※珪目 ・板目) 専用下地材有り
		・化粧せっこうボード (トラパチ模様)	GB-D	9.5(準不燃)
		・普通合板		表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツル程度 ・ ) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・ ) 板面の品質 ( ) 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ(mm) ( ) ・防虫処理 ・
		・天然木化粧合板		化粧板の樹種名 ( ) 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ(mm) ( ) ・防虫処理
		・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 (・ホバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 ( ) タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ(mm) ( ) ・防虫処理
		※メラミン樹脂化粧板		・JIS K 6903 による (※1.2 ・ )
		・ポリエステル樹脂化粧板		
		・ミディアムテンシティ ファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・
		・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 VN ・研磨板 VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・
		・化粧パーティクルボード		・単板ホバーレイ DV ・プラスチックホバーレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃) ・
		・ハードボード (素地)	HB	・未研磨板 (・スタンダード ・テンパート) RN ・研磨板 (・スタンダード ・テンパート) RS
・ハードボード (化粧)	HB	・内装用 DI ・外装用 DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7		
・インシュレーションボード	IB	A級 (・天井仕上げ ・内装仕上げ ・ ) ・9 ・12 ・15 ・18		
せっこうボード等の下地は図示による。				

章	項目	特記事項																																													
19 内装工事	10 せっこうボード その他ボード張り	遮音シール材 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド） ・適用しない 合板類，MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 合板類の張付け ※B種 ・A種 せっこうボードの目地工法 ・仕上表による ・																																													
	11 壁紙張り ◎図示	ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ (19.8.2) (19.8.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="5">壁紙の種類</th> <th rowspan="2">防火性能</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>紙</th> <th>繊維</th> <th>プラスチック</th> <th>無機質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※図示</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> モルタル・プラスター面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 コンクリート・ALC面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 せっこうボード面の素地ごしらえ ※B種 ・A種	施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	※図示	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃			・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃			・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃			・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃	
	施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考																																							
紙		繊維	プラスチック	無機質	その他																																										
※図示	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																									
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																									
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																									
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																									
12 断熱材 ◎図示	(19.9.2) (19.9.3) ロックウール，グラスウール，フェノールフォーム，ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材，保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・  ※断熱材打込み工法  <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）</td> <td>・ 保温板（2種b）</td> <td>・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・ 保温板（3種b）</td> <td>・25 ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・A種硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム保温材（3種2号を除く）</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ◎A種1 ・B種1 厚さ(mm) ◎25 ・30 ・ 施工箇所 ◎図示 ・ ・現場発泡断熱材 （品質・性能） 建築材料等品質性能表による （試験方法） 建築材料等品質性能表による	種類	厚さ(mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・	・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	・	・	・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	・フェノールフォーム断熱材	・	・	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	・	・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	・ 保温板（2種b）	・25 ・	・ 保温板（3種b）	・25 ・		・	・	・A種硬質ウレタンフォーム保温材	・	・	・フェノールフォーム保温材（3種2号を除く）	・	・														
種類	厚さ(mm)	施工箇所																																													
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・																																													
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	・	・																																													
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・																																													
・フェノールフォーム断熱材	・	・																																													
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	・																																													
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	・ 保温板（2種b）	・25 ・																																													
	・ 保温板（3種b）	・25 ・																																													
	・	・																																													
・A種硬質ウレタンフォーム保温材	・	・																																													
・フェノールフォーム保温材（3種2号を除く）	・	・																																													

章	項目	特記事項																															
20 ユニット及びその他の工事	1 フリーアクセス フロア	(20.2.2)																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構法</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重 (N)</th> <th>表面仕上材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務室</td> <td>◎置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・600×600 ・</td> <td>40</td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>※帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・</td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・500×500 ・</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・500×500 ・</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>寸法精度  ※標準仕様書 20.2.2(b)(5)(i)～(iii)による  厚さ ±0.5mm  平坦度 パネル周辺部 1.0mm 以下  図心と各頂点を結ぶ線上部 2.0mm 以下</p> <p>表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書 19 章による。  構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ: )  スロープ及びボーダー ※製造所の仕様による ・図示</p> <p>配線用取り出しパネル  フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合  ・  ・</p> <p>配線取り出し開口 ・パネル 1 枚につき、40mm×80mm 程度の開口 1 箇所以上  ※図示</p> <p>空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)</p> <p>(性能)  建築材料等品質性能表による  (試験方法)  建築材料等品質性能表による</p>	施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考	事務室	◎置敷式 ・支柱調整式	・600×600 ・	40	・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	※帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	図示		・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・			・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・
施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考																										
事務室	◎置敷式 ・支柱調整式	・600×600 ・	40	・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	※帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	図示																										
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・																											
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・																											
	2 可動間仕切 図示	(20.2.3)																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造形式</th> <th colspan="2">構成基材の種類</th> <th rowspan="2">総厚さ (mm)</th> <th colspan="3">表面仕上材</th> <th rowspan="2">遮音性 (db/500HZ)</th> <th rowspan="2">防火性能</th> </tr> <tr> <th>スタッド</th> <th>パネル</th> <th>材質</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>パネル表面仕上げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ◎パネル式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・鋼板 ・</td> <td>・0.6 ・0.8</td> <td>※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り</td> <td>・0 ・12 ・20 ・28 ・36</td> <td>・不燃</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示 ) ・なし  ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書 16 章 8 節の建具用金物に対応する材質とする。  表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書 19 章による  パネル材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>	構造形式	構成基材の種類		総厚さ (mm)	表面仕上材			遮音性 (db/500HZ)	防火性能	スタッド	パネル	材質	厚さ (mm)	パネル表面仕上げ	・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ◎パネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃								
構造形式	構成基材の種類			総厚さ (mm)	表面仕上材			遮音性 (db/500HZ)	防火性能																								
	スタッド	パネル	材質		厚さ (mm)	パネル表面仕上げ																											
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ◎パネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃																									

章	項目	特記事項					
20 ユニット及びその他の工事	3 移動間仕切	(20.2.4)					
		構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材 材質	遮音性 (db/500HZ)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>平行方向移動式</li> <li>二方向移動式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手動式</li> <li>電動式</li> <li>部分電動式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブッシュ式</li> <li>ハドル式</li> <li>.</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼板</li> <li>.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼付塗装</li> <li>壁紙張り</li> <li>.</li> </ul>
	<p>パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標準仕様書 19 章による 遮音性能は、JIS A 6512 に準拠し、中心周波数 500Hz の音についての透過損失とするハンガーレールの取付け下地の補強 ※取付け全重量の 5 倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示</li> </ul> <p>(品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による</p>						
	4 トイレブース	(20.2.5)					
		表面材の種類	脚部 形状	ドアエッジ 形状 材質			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>※メラミン樹脂系化粧板</li> <li>・ポリエステル樹脂系化粧板</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※幅木タイプ</li> <li>.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※標準</li> <li>・R</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミニウム製</li> <li>・ステンレス製</li> <li>・表面材と同材</li> </ul>		
		<p>(品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による パネル材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>					
	5 視覚障害者用床タイル	(11.2.2) (19.2.2)					
		施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考	
		屋内	・塩化ビニル製	・300×300 .	・7.0 .		
			・セラミックタイル (・I類 (無機質) ・II類 (せっ器質))	・300×300 .	.	※無ゆう .	
			・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300 .	.		
		屋外	・セラミックタイル (・I類 (無機質) ・II類 (せっ器質))	・300×300 .	.	※無ゆう .	
			・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300 .	.		
		ブロックパターンは JIS T 9251 による					
	6 階段滑り止め	(20.2.6)					
		材種	幅 (mm)	取付け工法	端部フラットエンド		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステンレス製 (SUS304)</li> <li>ビニルタイヤ入り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約 35</li> <li>.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※接着工法</li> <li>・埋込み工法</li> </ul>	・あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニル製</li> <li>・ステンレス製</li> </ul>	
					・なし	-	

章	項目	特記事項																																																				
20 ユニット及びその他の工事	7 手すり	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径(mm)</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・集成材</td> <td>・クヤッカー</td> <td>・35 ・45</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ステンパイプ</td> <td>・HL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼製パイプ</td> <td>・EP-G ・SOP</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル製ハンドレール</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考	・集成材	・クヤッカー	・35 ・45			・ステンパイプ	・HL				・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP				・ビニル製ハンドレール	・																									
	材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考																																																	
	・集成材	・クヤッカー	・35 ・45																																																			
	・ステンパイプ	・HL																																																				
・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP																																																					
・ビニル製ハンドレール	・																																																					
8 黒板及び ホワイトボード	(20.2.8)																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>色彩</th> <th colspan="2">形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・黒板</td> <td>・焼付け</td> <td></td> <td>・緑 ・黒</td> <td>・平面</td> <td>・スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td>・曲面</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ホワイトボード</td> <td>・ほうろう</td> <td></td> <td>白</td> <td>・平面</td> <td>・両面脚付き</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・曲面</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>						種類		寸法(mm)	色彩	形式		・黒板	・焼付け		・緑 ・黒	・平面	・スクリーン付引分		・			・曲面	・	・ホワイトボード	・ほうろう		白	・平面	・両面脚付き					・曲面	・																		
種類		寸法(mm)	色彩	形式																																																		
・黒板	・焼付け		・緑 ・黒	・平面	・スクリーン付引分																																																	
	・			・曲面	・																																																	
・ホワイトボード	・ほうろう		白	・平面	・両面脚付き																																																	
				・曲面	・																																																	
9 鏡	(20.2.9)																																																					
	取付箇所 ( トレ×3 ) 寸法(mm) ※図示 厚さ(mm) ※5																																																					
10 表示	(20.2.10)																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>寸法・形状 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>取付高さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・衝突防止表示 (・両面 ・片面)</td> <td>・ステンレス製 ・図示</td> <td>・30φ ・</td> <td>・市販品 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・室名札</td> <td>・アクリル製 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td>・5 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ピクトグラフ</td> <td>・アクリル製 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td>・5 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・とびら番号</td> <td>・アクリル製 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td>・5 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・庁内案内板</td> <td>・アクリル製 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td>・5 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・各階案内板</td> <td>・アクリル製 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td>・5 ・</td> <td>・図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>案内用図記号は JIS Z 8210 による。            誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品            色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。</p>						区分	材質	寸法・形状 (mm)	厚さ (mm)	取付高さ (mm)	備考	・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	・ステンレス製 ・図示	・30φ ・	・市販品 ・	・図示 ・		・室名札	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・		・ピクトグラフ	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・		・とびら番号	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・		・庁内案内板	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・		・各階案内板	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・		・					
区分	材質	寸法・形状 (mm)	厚さ (mm)	取付高さ (mm)	備考																																																	
・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	・ステンレス製 ・図示	・30φ ・	・市販品 ・	・図示 ・																																																		
・室名札	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・																																																		
・ピクトグラフ	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・																																																		
・とびら番号	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・																																																		
・庁内案内板	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・																																																		
・各階案内板	・アクリル製 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・																																																		
・																																																						
11 煙突ライニング	(20.2.11)																																																					
	煙突用成形ライニング材 (品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による																																																					

章	項目	特記事項						
20 ユニット及びその他の工事	12 ブラインド	(20.2.12)						
		形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックス・レールの材種	寸法・取付箇所
		・横型	・手動	※キヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
		・縦型	・手動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示 ・
		・電動	—					
		・電動	—					
		アルミスラット 焼付け塗装仕上げ クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工						
	13 ロールスクリーン	(20.2.13)						
		材種	操作方式	遮光性	寸法(mm)	取付箇所	備考	
		・ポリエステル ・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級	・図示 ・	・図示 ・		
		巻取りパイプ, ウェイトバー, 操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。						
	14 カーテン	(20.2.14)						
		形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別, 品質, 特殊加工等	取付箇所	備考	
		・シングル ・ダブル	・片引き ※引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ, つまひだ ・プレーンひだ, 片ひだ	・図示 ・		
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ, つまひだ ・プレーンひだ, 片ひだ	・図示 ・		
		暗幕カーテンの両端, 上部及び召合せの重なり ※300mm以上						
	15 カーテンレール	(20.2.14)						
		材種	・アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ステンレス製					
		形式	※シングル ・片引き	・ダブル ・引分け				
		強さによる区分	※10-90	・				
		仕上げ	※アルマイト	・				
		形状	※角形	・				
	16 ブラインドボックス及びカーテンボックス	(20.2.14)						
		溝型×深さ(mm)	・90×150	・120×80	※120×150	・150×80	◎図示	
		材質	◎集成材 (仕上げ: 木材保護塗装) ・アルミニウム製 押出し型材 (市販品) 表面処理・C-1 ・C-2 (・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー) ・					
		皮膜等の種類	※標準仕様書 表 14.2.1 による					
		・鋼製 (仕上げ:	)					

章	項目	特記事項																						
20 ユニット及びその他の工事	17 天井点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th colspan="2">形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※アルミニウム製 ・</td> <td>・450×450 ・600×600 ・</td> <td>・一般形</td> <td>・屋内外用 ・屋内用</td> <td>・額縁タイプ ・目地タイプ</td> <td>・額縁タイプ ・目地タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・気密形</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による</p>					材種	寸法	形式		外枠	内枠	※アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ			・気密形			
	材種	寸法	形式		外枠	内枠																		
	※アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ																		
			・気密形																					
	18 床点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th colspan="2">形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム製 ◎ステンレス製 ・鋼製</td> <td>・450×450 ・600×600 ・</td> <td>・一般形 ・密閉形</td> <td>・屋内外用 ・屋内外用</td> <td>・鍵付き ・鍵付き</td> </tr> </tbody> </table> <p>密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものと (品質・性能) 建築材料等品質性能表による (試験方法) 建築材料等品質性能表による</p>					材種	寸法	形式		備考	・アルミニウム製 ◎ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内外用	・鍵付き ・鍵付き								
材種	寸法	形式		備考																				
・アルミニウム製 ◎ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内外用	・鍵付き ・鍵付き																				
19 耐震スリット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・垂直方向 ・水平方向</td> <td>※完全（全貫通型）</td> <td>・耐火型 ・非耐火型</td> <td>・有り ・無し</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>目地</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目地</th> <th>内壁</th> <th>外壁</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目地材</td> <td>・シーリング材（見え掛かりのみ） ・</td> <td>・シーリング材（見え掛かりのみ） ・シーリング材（内外とも）</td> </tr> <tr> <td>目地寸法 （幅mm×深さmm）</td> <td>・20×10 ・</td> <td>・20×10 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>目地材の材質は標準仕様書 表9.7.2による</p>					方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考	・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し		目地	内壁	外壁	目地材	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・シーリング材（内外とも）	目地寸法 （幅mm×深さmm）	・20×10 ・	・20×10 ・
方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考																				
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し																					
目地	内壁	外壁																						
目地材	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・シーリング材（内外とも）																						
目地寸法 （幅mm×深さmm）	・20×10 ・	・20×10 ・																						
20 止水板	<p>形式 ※差込式 ・据置式 ・壁張り式 施工箇所 ※ピット打継部</p>																							
21 エキスパンション ジョイント金物	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>躯体間クリアランス(mm)</th> <th>仕上材間クリアランス(mm)</th> <th>変位追従性能(mm)</th> <th>耐火性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム製 ・ステンレス製</td> <td>・50 ・100 ・150 ・</td> <td>・</td> <td>X：± Y：± Z：±</td> <td>・有り ( ) ・無し</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>外部は防水型とする</p>					材種	躯体間クリアランス(mm)	仕上材間クリアランス(mm)	変位追従性能(mm)	耐火性能	備考	・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150 ・	・	X：± Y：± Z：±	・有り ( ) ・無し								
材種	躯体間クリアランス(mm)	仕上材間クリアランス(mm)	変位追従性能(mm)	耐火性能	備考																			
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150 ・	・	X：± Y：± Z：±	・有り ( ) ・無し																				
22 くつつきマット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>受け枠</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ◎ステンレス鋼（SUS304）製 ・</td> <td>・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					材種	受け枠	備考	・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ◎ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・														
材種	受け枠	備考																						
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ◎ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・																							

章	項目	特記事項																												
20 ユニット及びその他の工事	23 流し台ユニット	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ユニット分類</th> <th colspan="3">寸法(mm)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>W</th> <th>D</th> <th>H</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・流し台</td> <td>・1200 ・1500 ・1800</td> <td>・550 ・600 ・650</td> <td>・800 ・850</td> <td>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</td> </tr> <tr> <td>・コンロ台</td> <td>・600</td> <td>・550 ・600 ・650</td> <td>・620 ・670</td> <td>市販品 バックガード有り 天板ステンレス製</td> </tr> <tr> <td>・つり戸棚</td> <td>・1200 ・900</td> <td>・450</td> <td>・500 ・700</td> <td>市販品</td> </tr> <tr> <td>・水切り</td> <td>・1200 ・900 ・600</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>市販品 ステンレス製 ・1段式</td> </tr> </tbody> </table> <p>品質・性能 JIS A 4420 による 形状 ◎図示</p>	ユニット分類	寸法(mm)			備考	W	D	H	・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製	・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製	・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品	・水切り	・1200 ・900 ・600	—	—	市販品 ステンレス製 ・1段式
	ユニット分類	寸法(mm)			備考																									
		W	D	H																										
	・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製																									
	・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製																									
	・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品																									
・水切り	・1200 ・900 ・600	—	—	市販品 ステンレス製 ・1段式																										
24 旗竿	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>形式</th> <th>高さ(mm)</th> <th>操作方法</th> <th>固定方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム合金製 ・</td> <td>・テーパー式 ・同一断面式</td> <td></td> <td>・ハンドル式 ・ロープ式</td> <td>・埋込式 ・ベース式 ・バンド式</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式																		
材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考																									
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式																										
25 旗竿受金物	材種 ・ステンレス製(SUS304) ・																													
26 車止め支柱	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">形式</th> <th>材種</th> <th>柱径, 肉厚(mm)</th> <th>高さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・上下式鎖内蔵式</td> <td>・標準品 ・スプリング式</td> <td>・ステンレス製 ・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	形式		材種	柱径, 肉厚(mm)	高さ(mm)	・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・	・																		
形式		材種	柱径, 肉厚(mm)	高さ(mm)																										
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・																										
・																														
27 フェンス	<p>フェンスの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひし形金網 (・着色塗装亜鉛めっき鉄線製 ・合成樹脂被覆鉄線製 ・亜鉛めっき鉄線製)</li> <li>・被覆エキスパンドメタル</li> <li>・被覆溶接金網</li> <li>・</li> </ul> <p>高さ ・図示</p>																													
28 プレキャスト コンクリート	<p style="text-align: right;">(20.3.3) (20.3.4)</p> <p>コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比 55%以下, 単位セメント量の最小値 300kg/m<sup>3</sup>を満足する調合強度 ・図示</p> <p>配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示</p> <p>取付方法 ※図示</p>																													

章	項目	特記事項																			
20 ユニット及びその他の工事	29 間知石及び コンクリート間知 ブロック積み	(20.4.2) (20.4.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>種類</th> <th>質量区分</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・間知石</td> <td>・花こう岩 ・凝灰岩</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・コンクリート 間知ブロック</td> <td>—</td> <td>・A   ・B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>積み方 ※谷積み   ・布積み 目塗り   ・図示   ・ 伸縮調整目地 材種   ・図示   ・ 厚さ   ・図示   ・</p>	材種	種類	質量区分	備考	・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—	・コンクリート 間知ブロック	—	・A   ・B								
	材種	種類	質量区分	備考																	
	・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—																	
	・コンクリート 間知ブロック	—	・A   ・B																		
	30 鋼製書架及び物品棚	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>規格等</th> <th>JISによる種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・鋼製書架</td> <td rowspan="2">JIS S 1039の規格による</td> <td>・1種   ・2種   ・3種</td> </tr> <tr> <td>・鋼製物品棚</td> <td>・4種   ・5種   ・6種   ・</td> </tr> </tbody> </table>	種類	規格等	JISによる種類	・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種   ・2種   ・3種	・鋼製物品棚	・4種   ・5種   ・6種   ・											
	種類	規格等	JISによる種類																		
	・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種   ・2種   ・3種																		
・鋼製物品棚	・4種   ・5種   ・6種   ・																				
31 屋内掲示板	<p>枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り   ・</p>																				
32 洗面カウンター	<p>材 種   ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）   ・人工大理石 奥行き(mm)   ・約450   ◎約600</p>																				
33 防煙垂れ壁	<p>・固定式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>高さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス</td> <td>※6.8 ・</td> <td>※500 ・</td> <td>アルミ製枠付き</td> </tr> </tbody> </table> <p>・可動式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>高さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・垂直降下式 (巻取り型)</td> <td>※不燃布 (不燃認定品)</td> <td>※500 ・800 ・</td> <td>ガイドレール ※固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)</td> </tr> <tr> <td>・回転降下式</td> <td>鋼板製又はアルミ製</td> <td>※500 ・800 ・</td> <td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)</p>	材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考	※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種類	材質	高さ(mm)	備考	・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)	・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・
材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考																		
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																		
種類	材質	高さ(mm)	備考																		
・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)																		
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																		
34 屋外掲示板	<p>照明器具   ・有り   ・無し 施 錠   ・有り   ・無し 製造所</p>																				
35 収納家具	<p>材質, 形状, 寸法   ◎図示   ・ 合板類, MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外   ・</p>																				

章	項目	特記事項																														
21 排水工事	1 屋外雨水排水 機械設備図参照	<p>材料 (21.2.1) (21.2.2) (表21.2.1) (表21.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>形状</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>・外圧管 (1種)</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>・VP</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・VU</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・RS-VU</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>           基床の厚さ及び種類 ・図示 ・            硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・            側塊の形状及び寸法 ・図示 ・            排水柵の種類 ・図示 ・            砂地業に用いる材料 ※標準仕様書(21.2.1)(g)(1)による ・図示            砂利事業に用いる材料 ※標準仕様書(21.2.1)(g)(2)による ・図示            コンクリート基礎等に用いる材料            ※標準仕様書6章14節により、設計基準強度18N/mm<sup>2</sup>とする。            ただし、コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)は、セメント1:砂2:砂利4程度とする。            ・図示            凍上抑制層の厚さ ・図示 ・ (21.2.1) (表21.2.2)            凍上抑制層に用いる材料 ・            砂の粒度試験 ・行う ・行わない         </p>	材種	管の種類	形状	呼び径	備考	・遠心力鉄筋コンクリート管	・外圧管 (1種)	・	・		・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示	・	・VU		※図示	・	・RS-VU		※図示	・							
	材種	管の種類	形状	呼び径	備考																											
	・遠心力鉄筋コンクリート管	・外圧管 (1種)	・	・																												
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示	・																												
	・VU		※図示	・																												
	・RS-VU		※図示	・																												
2 鋳鉄製ふた 機械設備図参照	<p>(21.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>鍵</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋳鉄製マンホールふた</td> <td>           ・水封形            ・簡易気密形(パッキン式)            ・密閉形(テーパ・パッキン式)            ・中ふた付き密閉形(テーパ・パッキン式)            ・RS-VU         </td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-20用            ・         </td> <td>           ・有り            ・無し         </td> <td>左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による</td> </tr> </tbody> </table>	名称	種類	適用荷重	鍵	備考	鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形(テーパ・パッキン式) ・RS-VU	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による																					
名称	種類	適用荷重	鍵	備考																												
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形(テーパ・パッキン式) ・RS-VU	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による																												
3 グレーチング	<p>(21.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>形式</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインバーピッチ</th> <th>亜鉛めっき(付着量)</th> <th>上面形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">◎鋼製</td> <td rowspan="2">◎受枠付き、ボルト固定 ・</td> <td>・溝ふた(横断用)</td> <td>・歩行用</td> <td>・細目 ・</td> <td>・( )</td> <td>・凹凸形 ・</td> </tr> <tr> <td>・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用</td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-14用            ◎T-20用            ・         </td> <td>◎普通目 ・細目</td> <td>・( )</td> <td>・平形 ・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">◎ステンレス製</td> <td rowspan="2">◎受枠付き、ボルト固定 ・</td> <td>・溝ふた(横断用)</td> <td>・歩行用</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>・凹凸形 ・</td> </tr> <tr> <td>・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用</td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-14用            ・T-20用            ・         </td> <td>—</td> <td>—</td> <td>・平形 ・</td> </tr> </tbody> </table>	材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状	◎鋼製	◎受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用)	・歩行用	・細目 ・	・( )	・凹凸形 ・	・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ◎T-20用 ・	◎普通目 ・細目	・( )	・平形 ・	◎ステンレス製	◎受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用)	・歩行用	—	—	・凹凸形 ・	・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	—	—	・平形 ・
材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状																										
◎鋼製	◎受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用)	・歩行用	・細目 ・	・( )	・凹凸形 ・																										
		・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ◎T-20用 ・	◎普通目 ・細目	・( )	・平形 ・																										
◎ステンレス製	◎受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用)	・歩行用	—	—	・凹凸形 ・																										
		・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	—	—	・平形 ・																										

章	項目	特記事項																
21 排水工事	3 グレーチング	(品質・性能) 建築材料等品質性能表による (荷重試験方法) 建築材料等品質性能表による																
	4 街きよ, 縁石, 側溝	(21. 3. 1) (21. 3. 2) (表 21. 3. 1) 街きよ, 縁石, 側溝 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>形状, 寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・縁石</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・L形側溝</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・長尺U字溝、深溝U字溝</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・長尺U字溝ふた</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・ヒューム管(遠心成形箱型)</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・塩ビ管</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・集水樹</td> <td>◎図示 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>地業の材料 ※標準仕様書 4. 6. 2(a)による ◎図示 砂利地業の厚さ ※100(mm) ・図示 コンクリート基礎等に用いる材料 ※標準仕様書 6 章 14 節により, 設計基準強度 18N/mm<sup>2</sup>とする。 ただし, コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)は, セメント 1 : 砂 2 : 砂利 4 程度とする。 ◎図示</p> <p>凍上抑制層の厚さ ・図示 ・ (21. 2. 1) (表 21. 2. 2) 凍上抑制層に用いる材料 ・図示 砂の粒度試験 ・行う ・行わない</p>	種類	形状, 寸法	・縁石	◎図示 ・	・L形側溝	・図示 ・	・長尺U字溝、深溝U字溝	◎図示 ・	・長尺U字溝ふた	◎図示 ・	・ヒューム管(遠心成形箱型)	◎図示 ・	・塩ビ管	◎図示 ・	・集水樹	◎図示 ・
	種類	形状, 寸法																
・縁石	◎図示 ・																	
・L形側溝	・図示 ・																	
・長尺U字溝、深溝U字溝	◎図示 ・																	
・長尺U字溝ふた	◎図示 ・																	
・ヒューム管(遠心成形箱型)	◎図示 ・																	
・塩ビ管	◎図示 ・																	
・集水樹	◎図示 ・																	
5 埋戻し土	◎B 種 (道路附帯構造物) ◎C 種 (造成敷内構造物) (21. 2. 1)																	

章	項目	特記事項															
22 舗装工事	1 路床（駐車場） ※9 地盤改良工法と同じ	(22. 2. 2) (22. 2. 3) (22. 2. 5) (表 22. 2. 1) 路床の材料 <table border="1" data-bbox="529 197 1481 586"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材料</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・遮断層</td> <td>・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・</td> <td>・図示 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎路床安定処理（添加材料による安定処理）</p> <p>種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種            ・フライアッシュセメントB種            ・生石灰（・特号 ・1号） ・消石灰（・特号 ・1号）            ◎固化剤（◎セメント系 高有機質土用 ・石灰系）</p> <p>添加量 ◎ 69 kg/ m<sup>3</sup>（目標 CBR ・3以上 ・ ）</p> <p>・路床置換処理            置換厚さ ※図示 ・            置換材料の種類, 品質 ※図示 ・</p> <p>・不織布（ジオテキスタイル）            単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上 ・            厚さ(mm) ・0.5~1.0 ・            引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・            透水係数 ・1.5×10<sup>-1</sup>cm/sec 以上 ・</p> <p>◎試験</p> <p>砂の粒度試験 ・行う ・行わない            路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う（ 箇所） ・行わない            現場 CBR 試験 ・行う（ 箇所） ・行わない            安定処理土の CBR 試験 ・行う ・行わない            路床締固め度の試験 ・行う（ 箇所） ・行わない            配合試験 ◎行う ・行わない            六価クロム溶出試験 ◎行う ・行わない</p>	種別	材料	厚さ (mm)	・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示 ・	・遮断層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)	・図示 ・	・凍上抑制層	・再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・	・図示 ・	・フィルター層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・	・図示 ・
	種別	材料	厚さ (mm)														
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示 ・															
・遮断層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)	・図示 ・															
・凍上抑制層	・再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・	・図示 ・															
・フィルター層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下) ・	・図示 ・															
2 路盤	(22. 3. 2) (22. 3. 3) (22. 3. 5) (表 22. 3. 1) 路盤の構成及び厚さ ◎図示 ・ 路盤材料 <table border="1" data-bbox="529 1550 1481 1841"> <thead> <tr> <th colspan="2">種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">碎石</td> <td>・クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>◎粒度調整碎石 (M-30)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">再生材</td> <td>◎クラッシュラン (RC-40)</td> </tr> <tr> <td>・粒度調整碎石</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・クラッシュラン鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> </tbody> </table> <p>試験            路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない</p>	種別		碎石	・クラッシュラン	◎粒度調整碎石 (M-30)	再生材	◎クラッシュラン (RC-40)	・粒度調整碎石	・クラッシュラン鉄鋼スラグ		・粒度調整鉄鋼スラグ		・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ			
種別																	
碎石	・クラッシュラン																
	◎粒度調整碎石 (M-30)																
再生材	◎クラッシュラン (RC-40)																
	・粒度調整碎石																
・クラッシュラン鉄鋼スラグ																	
・粒度調整鉄鋼スラグ																	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ																	

章	項目	特記事項																																		
22 舗装工事	3 アスファルト舗装	<p style="text-align: right;">(22. 4. 2～22. 4. 6) (表 22. 4. 4) (表 22. 4. 5)</p> <p>アスファルト舗装の構成及び厚さ ◎図示 ・</p> <p>材料            アスファルト ◎再生密粒度アスファルト (13) 駐車場            ◎再生密粒度アスファルト (20) 市道 A6897 及び A6375 号線            ・ ストレートアスファルト            骨材            ・ 道路用碎石            ・ アスファルトコンクリート再生骨材            アスファルト乳剤            ◎プライムコート (1. 26ℓ/㎡) ・ タックコート (0. 4ℓ/㎡)</p> <p>加熱アスファルト混合物等の種類</p> <table border="1" data-bbox="529 577 1473 757"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地域</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ 表層</td> <td>・ 一般地域</td> <td>・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)</td> </tr> <tr> <td>・ 寒冷地域</td> <td>密粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td>・ 基層</td> <td>一般及び寒冷地域</td> <td>粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> </tr> </tbody> </table> <p>配合</p> <table border="1" data-bbox="529 824 1473 1258"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるいの呼び名</th> <th>ふるい通過質量百分率 (%)</th> </tr> <tr> <th>粗粒度アスファルト混合物 (20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26. 5 mm</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19. 0 mm</td> <td>95 ～ 100</td> </tr> <tr> <td>13. 2 mm</td> <td>70 ～ 90</td> </tr> <tr> <td>4. 75mm</td> <td>35 ～ 55</td> </tr> <tr> <td>2. 36mm</td> <td>20 ～ 35</td> </tr> <tr> <td>600 μ m</td> <td>11 ～ 23</td> </tr> <tr> <td>300 μ m</td> <td>5 ～ 16</td> </tr> <tr> <td>150 μ m</td> <td>4 ～ 12</td> </tr> <tr> <td>75 μ m</td> <td>2 ～ 7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量 (%)</td> <td>4. 5 ～ 6. 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>シーコート施工 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>試験            アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・</p> <p>加熱混合物製造施設：茨城県指定のアスファルトコンクリート合材混合所</p>	区分	地域	種類	・ 表層	・ 一般地域	・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)	・ 寒冷地域	密粒度アスファルト混合物 (13F)	・ 基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物 (20)	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)	粗粒度アスファルト混合物 (20)	26. 5 mm	100	19. 0 mm	95 ～ 100	13. 2 mm	70 ～ 90	4. 75mm	35 ～ 55	2. 36mm	20 ～ 35	600 μ m	11 ～ 23	300 μ m	5 ～ 16	150 μ m	4 ～ 12	75 μ m	2 ～ 7	アスファルト量 (%)	4. 5 ～ 6. 0
	区分	地域	種類																																	
・ 表層	・ 一般地域	・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)																																		
	・ 寒冷地域	密粒度アスファルト混合物 (13F)																																		
・ 基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物 (20)																																		
ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)																																			
	粗粒度アスファルト混合物 (20)																																			
26. 5 mm	100																																			
19. 0 mm	95 ～ 100																																			
13. 2 mm	70 ～ 90																																			
4. 75mm	35 ～ 55																																			
2. 36mm	20 ～ 35																																			
600 μ m	11 ～ 23																																			
300 μ m	5 ～ 16																																			
150 μ m	4 ～ 12																																			
75 μ m	2 ～ 7																																			
アスファルト量 (%)	4. 5 ～ 6. 0																																			
	4 コンクリート舗装	<p style="text-align: right;">(22. 5. 2～22. 5. 4) (22. 5. 6) (表 22. 5. 1) (表 22. 5. 3) (図 22. 5. 1)</p> <p>コンクリート舗装の構成及び厚さ</p> <table border="1" data-bbox="529 1639 1473 1751"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>部位</th> <th>構成</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリート版</td> <td>・ 車路, 駐車場</td> <td>※図示</td> <td>・ 150 ・ 200</td> </tr> <tr> <td>・ 歩行者用通路</td> <td>※図示</td> <td>※ 70 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>縁部立下り寸法等 ・ 図示</p> <p>材料            コンクリート ・ 標準仕様書 表 22. 5. 1 による ・            早強セメント ・ 使用する ・ 使用しない            注入目地材料 ※低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ            アスファルト乳剤            ・ プライムコート (1. 5ℓ/㎡)</p>	区分	部位	構成	厚さ(mm)	コンクリート版	・ 車路, 駐車場	※図示	・ 150 ・ 200	・ 歩行者用通路	※図示	※ 70 ・																							
区分	部位	構成	厚さ(mm)																																	
コンクリート版	・ 車路, 駐車場	※図示	・ 150 ・ 200																																	
	・ 歩行者用通路	※図示	※ 70 ・																																	

章	項目	特記事項																															
22 舗装工事	4 コンクリート舗装	溶接金網 敷設位置 ※コンクリート版厚 150mm の場合は、1/2 程度の位置とする ※コンクリート版厚 200mm の場合は、表面から 1/3 程度の位置とする ・図示 目地 種類, 間隔, 構造 ※標準仕様書 表 22. 5. 3 及び図 22. 5. 1 による ・図示 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・																															
	5 カラー舗装	(22. 6. 2～22. 6. 6) (表 22. 6. 2) ・カラー舗装 (加熱系) の構成及び厚さ ※図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th colspan="2">種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">表層</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>加熱アスファルト混合物</li> <li>石油樹脂系混合物</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>カー骨材舗装</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul> </td> <td>50</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベンガラ混入アスファルト舗装</li> <li>樹脂系混合式舗装</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul> </td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> 加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による 材料 添加する材料 ・着色骨材 ( ) ・自然石 ( ) 配合 結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 ・ ・カラー舗装 (常温系) の構成及び厚さ ※図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>カラー舗装材</th> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> <li>塗布式樹脂舗装</li> <li>ニート式舗装</li> </ul> </td> <td rowspan="2">表層</td> <td>加熱アスファルト混合物</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul> </td> <td>50</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul> </td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリート版</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul> </td> <td>・150・200</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul> </td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> 加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による コンクリート版は、コンクリート舗装による 配合 ニート式舗装及び塗布式樹脂舗装の配合等 ・ 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・	区分	種類		部位	厚さ (mm)	表層	<ul style="list-style-type: none"> <li>加熱アスファルト混合物</li> <li>石油樹脂系混合物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カー骨材舗装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンガラ混入アスファルト舗装</li> <li>樹脂系混合式舗装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30	カラー舗装材	区分	種類	部位	厚さ (mm)	<ul style="list-style-type: none"> <li>塗布式樹脂舗装</li> <li>ニート式舗装</li> </ul>	表層	加熱アスファルト混合物	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	50		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30	コンクリート版	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	・150・200	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	70
	区分	種類		部位	厚さ (mm)																												
表層	<ul style="list-style-type: none"> <li>加熱アスファルト混合物</li> <li>石油樹脂系混合物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カー骨材舗装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	50																													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンガラ混入アスファルト舗装</li> <li>樹脂系混合式舗装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30																													
カラー舗装材	区分	種類	部位	厚さ (mm)																													
<ul style="list-style-type: none"> <li>塗布式樹脂舗装</li> <li>ニート式舗装</li> </ul>	表層	加熱アスファルト混合物	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	50																													
			<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30																													
	コンクリート版	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	・150・200																														
		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	70																														
6 透水性舗装	透水性舗装の構成及び厚さ ※図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・表層</td> <td>ポーラスアスファルト</td> <td>車路, 駐車場</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>開粒度アスファルト</td> <td rowspan="2">歩行者用通路</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>透水性コンクリート</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>透水性インターロッキングブロック</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> <li>歩行者用通路</li> </ul> </td> <td>80 60</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・敷砂層</td> <td rowspan="2">・砂</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul> </td> <td>20</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul> </td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>川砂, 海砂又は良質な山砂 (75<math>\mu</math>m ふるい通過量 6%以下)</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> アスファルト乳剤 (プライムコート) の施工は行わない。	区分	種類	部位	厚さ (mm)	・表層	ポーラスアスファルト	車路, 駐車場	50	開粒度アスファルト	歩行者用通路	30	透水性コンクリート	70	透水性インターロッキングブロック	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> <li>歩行者用通路</li> </ul>	80 60	・敷砂層	・砂	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30	・フィルター層	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ m ふるい通過量 6%以下)		100						
区分	種類	部位	厚さ (mm)																														
・表層	ポーラスアスファルト	車路, 駐車場	50																														
	開粒度アスファルト	歩行者用通路	30																														
	透水性コンクリート		70																														
	透水性インターロッキングブロック	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> <li>歩行者用通路</li> </ul>	80 60																														
・敷砂層	・砂	<ul style="list-style-type: none"> <li>車路, 駐車場</li> </ul>	20																														
		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用通路</li> </ul>	30																														
・フィルター層	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ m ふるい通過量 6%以下)		100																														

章	項目	特記事項																										
22 舗装工事	6 透水性舗装	<ul style="list-style-type: none"> <li>透水性アスファルト舗装               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポーラスアスファルト混合物 (13)</li> <li>・開粒度アスファルト混合物 (13)</li> </ul> </li> </ul>																										
		配合 (表 22.7.1)																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるいの呼び名</th> <th colspan="2">ふるい通過質量百分率 (%)</th> </tr> <tr> <th>車路, 駐車場</th> <th>歩行者用通路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19mm</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>13.2mm</td> <td>90 ~ 100</td> <td>95 ~ 100</td> </tr> <tr> <td>4.75mm</td> <td>11 ~ 35</td> <td>20 ~ 36</td> </tr> <tr> <td>2.36mm</td> <td>10 ~ 20</td> <td>12 ~ 25</td> </tr> <tr> <td>300 μm</td> <td>—</td> <td>5 ~ 13</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3 ~ 7</td> <td>3 ~ 6</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量 (%)</td> <td>4 ~ 6</td> <td>3.5 ~ 5.5</td> </tr> </tbody> </table>	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)		車路, 駐車場	歩行者用通路	19mm	100	100	13.2mm	90 ~ 100	95 ~ 100	4.75mm	11 ~ 35	20 ~ 36	2.36mm	10 ~ 20	12 ~ 25	300 μm	—	5 ~ 13	75 μm	3 ~ 7	3 ~ 6	アスファルト量 (%)	4 ~ 6	3.5 ~ 5.5
		ふるいの呼び名		ふるい通過質量百分率 (%)																								
			車路, 駐車場	歩行者用通路																								
		19mm	100	100																								
		13.2mm	90 ~ 100	95 ~ 100																								
		4.75mm	11 ~ 35	20 ~ 36																								
		2.36mm	10 ~ 20	12 ~ 25																								
		300 μm	—	5 ~ 13																								
		75 μm	3 ~ 7	3 ~ 6																								
		アスファルト量 (%)	4 ~ 6	3.5 ~ 5.5																								
基準値 (表 22.7.2)																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">基準値</th> </tr> <tr> <th>・車路, 駐車場</th> <th>・歩行者用通路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td colspan="2">13</td> </tr> <tr> <td>安定度 (kN)</td> <td>3.43 以上</td> <td>3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>—</td> <td>20~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20 程度</td> <td>12 以上</td> </tr> <tr> <td>動的安定度 (回/mm)</td> <td>3,000 以上</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td colspan="2"><math>1 \times 10^{-2}</math> 以上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準値		・車路, 駐車場	・歩行者用通路	最大粒径 (mm)	13		安定度 (kN)	3.43 以上	3.0 以上	フロー値 (1/100cm)	—	20~40	空隙率 (%)	20 程度	12 以上	動的安定度 (回/mm)	3,000 以上	—	透水係数 (cm/s)	$1 \times 10^{-2}$ 以上						
項目		基準値																										
	・車路, 駐車場	・歩行者用通路																										
最大粒径 (mm)	13																											
安定度 (kN)	3.43 以上	3.0 以上																										
フロー値 (1/100cm)	—	20~40																										
空隙率 (%)	20 程度	12 以上																										
動的安定度 (回/mm)	3,000 以上	—																										
透水係数 (cm/s)	$1 \times 10^{-2}$ 以上																											
試験																												
<ul style="list-style-type: none"> <li>開粒度アスファルト混合物等の抽出試験               <ul style="list-style-type: none"> <li>・行う</li> <li>・行わない</li> </ul> </li> <li>不織布 (ジオテキスタイル)               <ul style="list-style-type: none"> <li>敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設</li> <li>・図示</li> </ul> </li> </ul>																												
舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの																												
<ul style="list-style-type: none"> <li>透水性コンクリート舗装 (22.5.2~22.5.4) (22.5.6)</li> </ul>																												
コンクリート舗装に対する基準値 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td><math>1 \times 10^{-2}</math> 以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の 20 倍程度</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20 以上	透水係数 (cm/s)	$1 \times 10^{-2}$ 以上	目地の間隔	版厚の 20 倍程度																		
項目	基準値																											
最大粒径 (mm)	13																											
空隙率 (%)	20 以上																											
透水係数 (cm/s)	$1 \times 10^{-2}$ 以上																											
目地の間隔	版厚の 20 倍程度																											
構成, 厚さはコンクリート舗装による																												
<ul style="list-style-type: none"> <li>不織布 (ジオテキスタイル)               <ul style="list-style-type: none"> <li>敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設</li> <li>・図示</li> </ul> </li> <li>透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2) (22.8.3)</li> <li>透水性コンクリート平板舗装は, ブロック系舗装による。</li> <li>透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2) (22.8.3)</li> <li>透水性インターロッキングブロック舗装は, ブロック系舗装による。</li> </ul>																												

章	項目	特記事項																		
22 舗装工事	7 ブロック系舗装	(22.8.2) (22.8.3) ・コンクリート平板舗装(歩行者用通路)の構成及び厚さ ※図示																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通平板(N) ・透水平板(P) ・</td> <td>※300角 ・</td> <td>※60 ・</td> <td>※砂 ・モルタル</td> <td>表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し</td> </tr> <tr> <td>敷砂層</td> <td>・砂 ・空練りモルタル</td> <td>・30</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>歩行者用通路に使用する普通平板は再生材料を用いた舗装用ブロック, 透水平板は透水性コンクリートとする。</p> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし, コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</p>	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	※普通平板(N) ・透水平板(P) ・	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し	敷砂層	・砂 ・空練りモルタル	・30					
		種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考														
		※普通平板(N) ・透水平板(P) ・	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し														
		敷砂層	・砂 ・空練りモルタル	・30																
		・インターロッキングブロック舗装の構成及び厚さ ※図示																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>曲げ強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>横断面勾配</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)</td> <td>・車路・駐車場</td> <td>80</td> <td>5.0以上</td> <td>2%</td> <td rowspan="2">砂</td> <td rowspan="2">色彩, 表面加工 ・標準品 ・</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>60</td> <td>3.0以上</td> <td>1.5~2%</td> </tr> </tbody> </table>	種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm <sup>2</sup> )	横断面勾配	目地材	備考	※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)	・車路・駐車場	80	5.0以上	2%	砂	色彩, 表面加工 ・標準品 ・	・歩行者用通路	60	3.0以上	1.5~2%
		種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm <sup>2</sup> )	横断面勾配	目地材	備考												
		※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)	・車路・駐車場	80	5.0以上	2%	砂	色彩, 表面加工 ・標準品 ・												
			・歩行者用通路	60	3.0以上	1.5~2%														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>部位</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷砂層</td> <td>・車路, 駐車場</td> <td>20</td> <td rowspan="2">砂</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>100</td> <td>川砂, 海砂又は良質な山砂 (75<math>\mu</math>mふるい通過量6%以下)</td> </tr> </tbody> </table> <p>歩行者用通路に使用するブロックは再生材料を用いた舗装用ブロック, 透水性ブロックは透水性コンクリートとする。</p> <p>・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※図示 ・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設</p> <p>舗装の割付 (車路, 駐車場) ・ヘリンボンボンド (45° ) ・ヘリンボンボンド (90° )</p> <p>仕上り面の平坦性 ※走行, 歩行に支障となる段差がないものとし, ブロック間の段差は3mm以内とする。</p>	区分	部位	厚さ(mm)	種類	敷砂層	・車路, 駐車場	20	砂	・歩行者用通路	30	フィルター層		100	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ mふるい通過量6%以下)						
区分	部位	厚さ(mm)	種類																	
敷砂層	・車路, 駐車場	20	砂																	
	・歩行者用通路	30																		
フィルター層		100	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ mふるい通過量6%以下)																	
・舗石 (歩行者用通路) 舗装の構成及び厚さ ※図示																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※小舗石(花こう岩) ・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>モルタル</td> <td>・うろこ張り ・</td> </tr> </tbody> </table>	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	※小舗石(花こう岩) ・	・	・	モルタル	・うろこ張り ・										
種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考																
※小舗石(花こう岩) ・	・	・	モルタル	・うろこ張り ・																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷砂層</td> <td>※砂 ・空練りモルタル</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基層</td> <td>・コンクリート版</td> <td>70</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> <td>50</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	種類	厚さ(mm)	備考	敷砂層	※砂 ・空練りモルタル	30		基層	・コンクリート版	70		・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)	50						
区分	種類	厚さ(mm)	備考																	
敷砂層	※砂 ・空練りモルタル	30																		
基層	・コンクリート版	70																		
	・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)	50																		

章	項目	特記事項																					
22 舗装工事	7 ブロック系舗装	<p>コンクリート版は、コンクリート舗装による 加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による</p> <p>仕上面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。</p>																					
	8 砂利敷き	<p>種別 (22.9.2)</p> <p>・A種 (施工範囲：・図示 ・通路 ・ )</p> <p>・B種 (施工範囲：・図示 ・建物周囲他 ・ )</p>																					
	9 路面標示用塗料	<p>JIS K 5665 (路面標示用塗料) による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>施工</th> <th>適用</th> <th>色</th> <th>幅(mm)</th> <th>塗布厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・1種</td> <td>常温</td> <td rowspan="2">液状</td> <td rowspan="2">◎白</td> <td>◎150</td> <td>◎1.0</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>加熱</td> <td>・100</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>◎3種1号</td> <td>熔融</td> <td>粉体状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	・1種	常温	液状	◎白	◎150	◎1.0	・2種	加熱	・100	・	◎3種1号	熔融	粉体状		
種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)																		
・1種	常温	液状	◎白	◎150	◎1.0																		
・2種	加熱			・100	・																		
◎3種1号	熔融	粉体状																					

章	項目	特記事項			
23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等	(23.1.3)			
		土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ・行わない 電気伝導度(EC)の試験 ・行う ・行わない			
	2 植栽基盤の整備	(23.2.2) (23.2.4)			
		植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲
		・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100 ・120 ・150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ・100) 樹高3m以上～7m未満 (※60 ・80) 樹高3m未満 (※50 ・60)	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・
		※芝, 地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・
		植栽基盤の排水整備 ・設ける (※図示 ・ ) ・設けない			
	※ 植込み用土	(23.2.3)			
		※現場発生土の良質土 ・客土			
	4 土壌改良材	(23.2.3)			
	・バーク堆肥 施工箇所 ※植栽範囲 ・図示 使用量 植栽基盤面積1㎡あたり (・50L ・ )  ・汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※植栽範囲 ・図示 使用量 植栽基盤面積1㎡あたり (・10L ・ ) 材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする				
5 樹木	(23.3.2)				
	樹種, 寸法, 株立数等 ※図示 ・				
6 支柱	(23.3.2) (23.3.3)				
	支柱材	※丸太(間伐材)	・真竹		
	防腐処理方法	※加圧式防腐処理丸太材	・		
	形式	・図示	・		
7 幹巻き用材料	(23.3.2)				
	材料	※幹巻き用テープ ・わら及びこも			
8 芝	(23.4.2) (23.4.3)				
	種類	※コウライシバ	※ノシバ	・	
	芝張りの工法				
	平地	・目地張り	◎べた張り		
	法面	・目地張り	・べた張り	◎筋張り	
9 吹付けは種	(23.4.2)				
	種子の種類	発芽率	種子の量(g/㎡)	備考	
	※洋芝類(採取後2年以内)	※発芽率80%以上			
	・				

章	項目	特記事項												
23 植栽及び屋上緑化工事	10 地被類	<p style="text-align: right;">(23. 4. 2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">樹種</th> <th style="width: 25%;">コンテナ径</th> <th style="width: 25%;">単位面積当たりのコンテナ数</th> <th style="width: 25%;">芽立数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・				・			
	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数										
	・													
・														
11 新植, 移植樹木, 芝等の枯補償	<p style="text-align: right;">(23. 3. 4) (23. 3. 6) (23. 4. 7)</p> <p>新植樹木 (芝張り, 吹付けは種及び地被類を含む) の枯補償の期間  ※引渡しの日から1年 ・無し ・</p> <p>移植樹木の枯損処理を行う期間  ※引渡しの日から1年 ・無し ・</p>													
12 屋上緑化	<p>植栽基盤及び材料 <span style="float: right;">(23. 5. 2) (23. 5. 3)</span></p> <p>・屋上緑化システム</p> <p>土壌層の厚さ ・図示 ・</p> <p>排水層 ・軽量骨材 (層の厚さ: ) ・板状成型品</p> <p>植込み用土 ※改良土 ・人口軽量土</p> <p>樹木, 芝及び地被類の樹種並びに種類, 寸法, 株立数等 ※図示 ・</p> <p>見切り材, 舗装材, 排水孔, マルチング材等 ※図示 ・</p> <p>(品質・性能)  建築材料等品質性能表による  (試験方法)  建築材料等品質性能表による</p> <p>・屋上緑化軽量システム</p> <p>樹木, 芝及び地被類の樹種並びに種類, 寸法, 株立数等 ※図示 ・</p> <p>見切り材, 舗装材, 排水孔, マルチング材等 ※図示 ・</p> <p>(品質・性能)  建築材料等品質性能表による  (試験方法)  建築材料等品質性能表による</p> <p>工法 <span style="float: right;">(23. 5. 4)</span>  建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>支柱 ・設置する (形式 ・図示 ・ )</p> <p>かん水装置 ・設置する (種類 ・ )</p>													
24 その他	1 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	<p>施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について, あらかじめの検討を行っている部分</p> <p>本検討は, 計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり, 品質管理上の施工誤差を許容するものではない。</p> <p>・杭の芯ずれを考慮した検討  あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示</p> <p>・杭の長さの変更を見込んだ検討  あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示</p> <p>・梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討  あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示</p> <p>・</p>												

## 特記仕様書（電気設備工事）

### I 工事概要

1. 工事名 石岡消防署愛郷橋出張所新築工事
2. 工事場所 茨城県石岡市三村字坂井戸 6920 番地 3、6921 番地 1 地内
3. 敷地面積 4,913.85 m<sup>2</sup>
4. 建物概要 消防署出張所 : 鉄骨造平屋建て

建物名称	消防署 出張所		
構造	S造	造	造
階数	地上 1階	地上 階	地上 階
建築面積	570.55m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	544.38m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

### 5. 別途工事

- ・
- ・

### II 電気設備工事仕様

#### 1. 共通事項

図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は次による。 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成31年版)」(以下「標準仕様書」という。)  
「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成31年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)  
及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(平成31年版)」(以下「標準図」という。)

#### 2. 特記事項

- (1)項目は、番号に□の付いたものを適用する。
- (2)特記事項で※印、◎印、・印の適用は、次による。
  - ◎印の付いたものを適用する。
  - ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
  - ◎印と※印の付いた場合は、共に適用する。
  - ・印の付いたものは適用しない。
- (3)特記事項に記載の( )内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。
- (4)建築工事、機械設備工事は、別記各工事の特記仕様書による。



建設工事請負契約書に基づく下請負人通知書1部を、県と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請け契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に通知するものとする。

11. 監督員事務所 ※ 設けない ・ 設ける( 号), 注( 号)は建築工事共通仕様書による。

12. 官公署その他への届出手続等 (1.1.3)

工事の着手, 施工, 完成に当たり, 関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては, その検査に必要な資機材, 労務等を提供する。

13. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は, 発注者に委譲するものとする。

14. 提出書類

建設業法(昭和24年5月24日法律第100号)等で規定された関係書類のほか, 次の書類を提出する。

◎ 工事实績情報の登録内容確認書の写し(請負代金の額が500万円以上となる工事)

※ 火災保険等に加入したことを証明できる書類

◎ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書(請負代金の額が500万円以上となる工事)

◎ 実施工程表(全体工程, 月間工程, 3週工程)

◎ 施工計画書(請負金額500万円未満の場合は, 監督員の指示による。)

※ 施工体系図(提出したものを工事関係者及び公衆が見やすいところに掲示すること)

※ 施工体制台帳(提出したものを現場に備え置くこと)

◎ 施工図

◎ 使用機材メーカー一覧表

◎ 機器製作図

※ 再生資源利用(促進)計画書・実施書(COBRIS)

※ 完成写真(A4版)支払用(黒板は写さないものとする)

◎ その他 監督員が必要と認め, 指示した書類

15. 完成図書類

次の書類を透明書類ケースに入れて提出する。

※ 工事写真 CD-R 又は DVD-R

撮り方は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(平成28年版)による工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 平成30年版」を参考とする。

※ 完成図

※ 白焼製本 1部

※ 縮小版(A3)製本 ・ 2部 ・ 3部

※ 完成図面 JWW形式CADデータ(CD-R 又は DVD-R) 1枚

※ CD-R 又は DVD-R 1枚

完成図面(JWW形式CADデータ), 完成写真(JPEG形式)を収録したもの。

※ 完成図書 A4ファイルに次の書類を綴じ, 目次を付けること。

(1) 使用機材メーカー一覧表

(2) 作業員名簿及び施工従事者資格証の写し

(3) 官公署等届出書の写し

(4) 機器完成図, 検査合格証, 取扱説明書

(5) 機器の設計及び施工に関する計算書

(6) 機器の社内検査成績表

(7) 現地試験成績表 付表

(8) 電気設備工事チェックリスト (原本) (社)茨城県電設業協会

(9) 瑕疵2年保証書

※ 産業廃棄物処理関係書類

(処理フロー図(種類, 数量), 産業廃棄物管理票(マニフェスト)の写し, 委託契約書の写し, 許可証の写し, 運搬経路図, 運搬車両一覧表及び車検証, 写真(積込, 場外搬出時, 処分場搬入時, 荷下状況), 古物商許可証の写し及び計量書(有価処分の場合))

付表 現地試験成績表

電灯・動力設備工事	電圧測定表(分電盤等)
	絶縁抵抗測定表
	接地抵抗測定表
	照度測定表
	コンセント極性試験表
	相回転測定表
	シーケンス試験
	機器締付けチェック表(①)
受変電設備工事	耐電圧試験表
	絶縁抵抗測定表
	接地抵抗測定表
	継電器特性試験表
	シーケンス試験
	機器締付けチェック表(①)
発電設備工事	発電設備試験表
構内情報通信網設備工事	構内情報通信網設備試験表
構内交換設備工事	構内交換設備試験表
放送設備工事	拡声設備試験表
テレビ共同受信設備工事	テレビ・ラジオ電界強度測定表
	画質評価写真
自動火災報知設備工事	消防設備試験表
自動閉鎖設備工事	防火戸自動閉鎖試験表
その他	監督員の指示

①: 電気設備工事監理指針 第2編第2章第1節共通事項2.1.2

※ 保守点検に必要な工具

16. 工事用電力・水・その他

本工事に必要な工事用電力, 水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は受注者の負担とする。

17. 他工事との取り合い

- |  |       |      |
|--|-------|------|
| (1) 鉄筋コンクリートの梁, 床, 壁貫通のスリーブ補強            | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (2) 埋込照明器具天井切り込み及び補強                     | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (3) 開口部補強(分電盤, 端子盤等)                     | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (4) 点検口                                  | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (5) 自動火災報知設備の総合盤箱体<br>(ただし, 消火栓箱組み込みの場合) | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (6) 換気扇                                  | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (7) 防火シャッター自動閉鎖装置                        | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (8) 防火扉自動閉鎖装置(リリース)                      | ・ 本工事 | ※ 別途 |

(9) 電気室, 発電機室等のピット

・ 本工事

※ 別途

18. 埋蔵文化財の調査

文化財保護法(昭和25年5月30日法律第214号)に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内

- (1) 掘削作業に際しては, 工事立会, 試掘確認調査等を要する。施工にあたっては, あらかじめ, 工事日程, 掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上, 監督員, 施設管理担当, 石岡市教育委員会文化振興課担当と協議を行うこと。
- (2) 掘削作業に際しては, 慎重に施工のこと。施工にあたり, 文化財その他埋蔵物を発見した場合は, 直ちにその状況を監督員に報告すること。

## 第2章 施工共通事項

1. 配管の支持 (2. 2. 3) (2. 3. 3) (2. 4. 3)  
隠ぺい配管の支持間隔は、金属管では2m以下、合成樹脂管では1.5m以下とする。ただし、合成樹脂管をコンクリート埋設とする場合は1m以下とする。また、露出金属管配線で人が容易に触れるおそれのある場所については、支持金物に保護キャップを取り付ける。
2. 管の接続 (2. 2. 5)  
管相互の接続は、カップリング又はねじなしカップリングを使用し、ねじ込み、突合せ及び締付けを行う。また、管とボックス、分電盤等との接続がねじ込みによらないものには内外面にロックナットを使用して接続部分を締付け、管端にはブッシングを設ける。
3. 金属管の接地 (2. 2. 5)  
配管とボックス、配分電盤の間にボンディングを施し、電氣的に接続する。ただし、ねじ込み接続となる箇所及びねじなし丸形露出ボックス、ねじなし露出スイッチボックス等に接続される箇所は省略することができる。ボンディング線の太さは、配線用遮断器定格電流100A以下は2.0mm以上、225A以下は5.5mm<sup>2</sup>以上、600A以下は14mm<sup>2</sup>以上とする。
4. 他配管との離隔  
金属管、ダクト、ケーブルは水管、ガス管と接触しないように施設する。
5. 空配管  
分電盤及び端子盤から天井裏まで空配管25mm相当を2本立ち上げる。
6. 呼び線  
長さ1m以上の入線しない電線管には電線太さ1.2mm以上の被覆鉄線を挿入する。
7. 配管の養生及び清掃 (2. 2. 6)  
管に水気、じんあい等が侵入しがたいようにし、コンクリート埋込となる場合は、管端にパイプキャップ、キャップ付きブッシング等を用いて養生する。  
管及びボックスは、配管完了後速やかに清掃する。また、コンクリートに埋設した場合は、型枠取外し後、速やかに管路の清掃、導通確認を行う。
8. プレート  
※新金属 ・ ステンレス製 ・ 樹脂製
9. 回路番号  
専用コンセントにはプレートに電圧、盤名、回路番号を彫刻し墨入れ表示する。
10. 配管の塗装  
金属管露出配管は指定色塗装とする。(塗装工程を撮影すること。)  
(1) エッチングプライマー処理 1回 (下処理)  
(2) 調合ペイント(JIS K 5516 合成樹脂調合ペイント) 2回 (上塗り)  
※屋内の施工に使用する塗料は、ホルムアルデヒド等放散量区分F☆☆☆☆品とする。
11. ケーブルのふ設 (2. 10. 1)  
(1) ケーブルラック配線  
水平部では3m以下、垂直部では1.5m以下の間隔ごとに固定する。ただし、トレー形ケーブルラック水平部の配線及び二重天井内におけるケーブルラック水平部の配線はこの限りでない。  
電力ケーブルは積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤2次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(2) 保護管(金属線びを含む)へのふ設

垂直にふ設する管路内のケーブルは、支持間隔を 6m 以下として固定する。

(3) 金属トラフへのふ設

ケーブルは、整然と並べ、垂直部では 1.5m 以下の間隔ごとにケーブル支持物に固定する。

電力ケーブルは、積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの表積み、分電盤 2 次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(4) ちょう架配線

径間は、15m 以下とする。

ちょう架は、ケーブルに適合するハンガ、バインド線、金属テープ等によりちょう架し、支持間隔は 0.5m 以下とする。

(5) 二重天井内配線

ケーブルを支持してふ設する場合は、支持間隔を 2m 以下とする。

ケーブルを集合して束ねる場合は、許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響を与えない範囲で束ねる。

ケーブルを支持せずどころがし配線とする場合は、天井下地材及び天井材に過度の荷重をかけないものとし、ケーブルの被覆を天井下地材、天井材等で損傷しないように、整然とふ設する。

また、弱電流電線並びに水管、ガス管及びダクト等と接触しないようにふ設する。

(6) 二重床内配線

どころがし配線とする。

ケーブルの接続場所は、上部の床が開閉可能な場所とし、床上から接続場所が確認できるようマーキングを施す。

弱電流電線と接触しないようセパレータ等で処置を施す。

(7) 垂直ケーブル配線

つり方式は、プーリングアイ方式又はワイヤグリップ方式とする。

ケーブル及びその支持部分の安全率は、4 以上とする。

各階ごとに振止め支持を施す。

ワイヤグリップ方式の支持間隔は、6m 以下とする。

(8) 造営材沿い配線

ケーブルを造営材に沿わせてふ設する場合の支持間隔は、下表のとおりとし、ケーブル支持材は、ケーブル及びそのふ設場所に適合するサドル、ステーブル等を使用する。

ふ設区分	支持間隔(m)
造営材の側面又は下面において水平方向にふ設するもの	1 以下
人が触れるおそれがあるもの	1 以下
その他の場所	2 以下
ケーブル相互並びにケーブルとボックス及び器具との接続箇所	接続箇所から 0.3 以下

12. ケーブルラックのふ設 (2. 10. 2)

ケーブルラックの水平支持間隔は、鋼製では 2m 以下、その他については 1.5m 以下とする。

天井又はスラブより支持をとる場合は、振止めを施す。

13. ケーブルの余長 (2. 12. 5)

高圧・低圧及び弱電ケーブルは、要所、引込口及び引出口近くのマンホール、ハンドホール内で 1 ターン程度の余裕をもたせる。

14. 標識シート(埋設シート) (2. 12. 4)  
 地中配線(高圧・低圧・弱電)には折り込み式の標識シートを地表下 0. 3m~0. 5m に種別毎に 2 条並行して埋設する。(材質：高密度ポリエチレン平織，文字付)

15. 回路種別の表示 (2. 2. 10)  
 盤内の外部配線，プルボックス，ハンドホール内，EPS，点検口付近，その他要所の配線には，表示札(受注者名，回路の種別，電線種類，サイズ，行先，施工年月)を取り付ける。材料については合成樹脂製又はファイバ製とする。ただし，キュービクル式配電盤内，開放型電気室内，ハンドホール内及び設計図書により指定した箇所の表示札はプレートに彫刻し，墨入れ表示とする。

16. ハンドホール (2. 12. 3)  
 建物・配電盤・ボックス類側の配管接続部にはネオシールを充填し，湿気の浸入を防ぐ。また，保守点検に必要な工具類としてハンドホールキーを 1 組納品する。

17. EM 電線及び EM ケーブルの耐紫外線について  
 EM-IE，EM-CE，EM-CET，EM-EEF，EM-EE，及び EM 弱電電線等及び各ケーブルの外装については耐紫外線性能を有するものとする。

18. 電線の色別 (2. 1. 3)  
 ビニル電線は，原則として下表により色別する。ただし，これにより難しい場合は端部を色別する。なお，接地線は緑，緑/黄又は緑/色帯とする。

電気方式	赤	白	黒	青
三相 3 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	第 3 相
三相 4 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	第 3 相
单相 2 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	—
单相 3 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	—
直流 2 線式	正極	—		負極

19. 絶縁抵抗 (2. 18. 2)  
 低圧配線の絶縁抵抗は，測定電圧 500V(好ましくない場合を除く)で測定し，開閉器等で区切ることのできる電路ごとに 5MΩ 以上とする。ただし，機器が接続された状態では 1MΩ 以上とする。

20. 接地工事 (2. 13. 10) (2. 13. 11)  
 接地極の上端は，地下 0. 75m 以上の深さに埋設する。接地線は，地表面下 0. 75m から地表上 2. 5m までの部分を硬質ビニル管で保護する。(C 種・D 種接地線は金属管を用いることができる。)D 種接地 (ELB 用) の接地線は緑/黄とする。なお，銅板及び銅棒は地面に対し垂直方向に打込むこと。

21. 接地抵抗測定用補助極  
 接地抵抗測定用補助極を設置し，接地端子盤又は端子台に測定用端子を設ける。補助極の埋設部には，コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。

22. 各接地と雷保護設備，避雷器の接地との離隔 (2. 13. 13)  
 接地極及びその裸導線の地中部分は，雷保護設備，避雷器の接地極及びその裸導線の地中部分から 2m 以上離す。

23. 接地極埋設標 (2. 13. 14)  
 A 種，B 種，C 種接地極の埋設位置の近くに接地極埋設標(黄銅板製厚さ 1. 0mm 以上，140mm×90mm 以上，文字は腐食加工)を設け埋設位置，深さ，埋設年月，接地種別，接地抵抗値を刻記する。接地極の埋設部には，コンクリート製又は鉄製埋設標(D 種接地も適用)を設置する。

24. 接地抵抗値

A種、B種、C種は電気設備技術基準の解釈第19条に従う。また、D種接地抵抗値は50Ω以下とする。

25. 接地極

A種、B種、C種は銅板(900mm×900mm×1.5mm厚)及び補助棒は14φ×1,500mmを2本以上とし、それぞれ規定値以下とする。D種は14φ×1,500mmで2連結以上とする。

26. 盤類

(1.8.8)

分電盤、制御盤、キュービクル式配電盤、端子盤等は鋼板製又はSUS製とし、板厚は設計図書に特に指定がない場合は1.6mm以上とする(SUS製の分電盤等の板厚は1.2mm以上とする。)。下地処理(りん酸塩処理)を行ったのち、下塗りは電着塗装(SUS製の場合は不要)、仕上げは指定色(参考 屋内：2.5Y9/1、屋外：5Y7/1)焼付塗装とする。(製造者、製造年月、受注者名、受注者電話番号を表示した銘板を取り付けること。)

27. ケーブルの防火区画等の貫通

(2.1.10) (2.1.11)

ケーブルが防火区画を貫通する場合は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。防火区画貫通の耐火処理工法については、耐火性能を証明するものを監督員に提出する。

28. プルボックス

防水型はステンレス又はステンレス指定色メラミン焼付塗装を原則とする。また、隠ぺい部のふたの止めねじは、ちょうねじとする。屋外取付の際は、設置面周辺に防水コーキングを施す。

29. 機器取付高さ

機器の取付高さは、図面に記載のない場合は次の表による。

	名 称	レベル	取付高さ(mm)
電	分電盤	床上～中心	1,500
	スイッチ(一般)	床上～中心	1,300
灯	スイッチ(多機能トイレ)	床上～中心	1,100
	コンセント(一般)	床上～中心	300
	コンセント(和室)	床上～中心	150
	コンセント(台上)	台上～中心	150
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100
	ブラケット(踊場)	床上～中心	2,500
	ブラケット(鏡上)	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯(壁付・壁掛)	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
	動	制御盤	床上～中心
手元開閉器		床上～中心	1,500
力	操作釦	床上～中心	1,300
電	端子盤	床上～下端	500
	保安器箱	床上～下端	500
話	ボックス(一般)	床上～中心	300
	ボックス(和室)	床上～中心	150
	MDF	床上～上端	500
火	火報受信機(複合盤), 副受信機	床上～操作部	800～1,500

災 報 知	機器収納盤	床上～操作部	800～1,500
	発信機	床上～操作部	800～1,500
	警報ベル	天井～操作部	(天井高×0.9)
	表示灯	天井～操作部	(天井高×0.8)
そ の 他	呼出ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	900, (400)
	復帰ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	1,300
	廊下表示灯(多機能トイレ)	床上～中心	2,000

注1)ユニバーサルデザインを適用する場合は「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備マニュアル」を参考とする。

注2) (天井高) × 0.9 及び (天井高) × 0.8 は天井高が 2,500～3,000mm の場合に適用する。天井高 3,000mm 以上の場合及び上記取付高さにおいて、機器の使用に支障が生じる場合は監督員と協議すること。

注3) 呼出ボタン (多機能トイレ) の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

### 30. 配管等の耐震施工

(2.1.13)

横引き配管等は、地震力に耐えるよう下表により標準図(電力35)のS<sub>A</sub>種、A種又はB種耐震支持を行う。鉛直震度は水平震度の1/2とし同時に働くものとする。ただし、建築の構造体が免震構造、制震構造等である場合は、特記による。

なお、呼び径が82mm以下の単独配管、周長800mm以下の金属ダクト、幅400mm未満のケーブルラック、幅400mm以下の集合配管、定格電流600A以下のバスダクト及びつり材の長さが平均0.2m以下の配管等の場合は、耐震支持を省略できる。

設置場所	耐震安全性の分類					
	特定の施設			一般の施設		
	水平震度	適用		水平震度	適用	
電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)		ケーブルラック	電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)		ケーブルラック	
上層階 屋上及び塔屋	2.0	12m以内ごとにS <sub>A</sub> 種耐震支持	6m以内ごとにS <sub>A</sub> 種耐震支持	1.5	12m以内ごとにA種耐震支持	8m以内ごとにA種又はB種耐震支持
中間階	1.5	12m以内ごとにA種耐震支持	8m以内ごとにA種耐震支持	1.0	12m以内ごとにA種又はB種耐震支持	12m以内ごとにA種又はB種耐震支持
1階及び地下階	1.0			0.6		

注) (1) 設置場所の区分は、配管等を支持する床部分により適用し、天井面より支持する配管等は、直上階を適用する。

(2) 上層階は、2から6階建の場合は最上階、7から9階建の場合は上層2階、10から12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

(3) 中間階は、1階及び地下階を除く各階で上層階に該当しない階とする。

### 31. 機器等の耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説(平成8年版)」（建設大臣官房官庁営繕部監修）及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（国土交通省国土技術政策

総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

ア 設計用水平地震力

機器の重量【kN】に、設計用水平震度を乗じたものとする。なお、設計用水平震度は下表による。

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階, 屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
地下階, 1階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

注) ( )内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

重要機器 ・ 配電盤等 ・ 発電装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ 直流電源装置  
 ・ 自動火災報知受信機 ・ 構内交換装置 ・ 中央監視制御装置

水槽類の設計用水平震度

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階, 屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
地下階, 1階	1.5	1.0	1.0	0.6

注) 重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す。

また、水槽類にはオイルタンク等を含む。

イ 設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の1/2とし、設備機器の重心に水平地震力と同時に働くものとする。

32. 施工調査

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。

33. 既存躯体への穿孔

穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。

## 第3章 電気方式

### 1. 高圧

- ・ 三相3線式 6,600V 50Hz

### 2. 低圧

- ※ 单相3線式 100/200V 50Hz
- ◎ 单相2線式 ※ 100V ※ 200V 50Hz
- ◎ 三相3線式 ※ 200V ・ 415V 50Hz
- ・ 三相4線式 240/415V 50Hz
- ・ 直流2線式 ・ 100V

## 第4章 電灯設備

### 1. 照明器具

- ・ 蛍光灯器具  
32W以下 Hf インバータ式
- ・ LED照明器具

### 2. 連結器具

照明器具2連結以上の電線接続はEM-EEFケーブル3心を使用し、1線は接地線とする。

### 3. 照明器具取付

(2.14.3)

照明器具32W以上など質量の大きい照明器具は、スラブその他構造体に呼び径9mm以上のつりボルト2本以上で堅固に支持する。ただし、器具をやむを得ず天井下地材より支持する場合は監督員と協議する。また、耐震上必要な場合は、ねじ、ワイヤ等により振れ止めを施す。

### 4. 照明器具の接地

(2.13.7)

FHF32形以上のHf蛍光灯器具、32W以上のコンパクト形蛍光ランプを用いる照明器具、HID灯等の放電灯器具、対地電圧が150Vを超える放電灯以外の器具、防水器具及び湿気や水気のある場所で人が容易に触れるおそれのある場所に取付ける器具にはD種接地工事を施す。ただし、二重絶縁構造のもの、対地電圧150V以下の放電灯を乾燥した場所に施設する場合は、接地工事を省略することができる。LED照明器具の金属製部分にはD種接地工事とする。ただし二重絶縁構造のもの、対地電圧150V以下の放電灯を乾燥した場所に施設する場合は、接地工事を省略することができる。

## 第5章 動力設備

### 1. 漏電遮断器

電動機の定格電流が50A以下は定格感度電流30mA以下、動作時間は0.1秒以内とする。50Aを超えるものは定格感度電流100mA～200mA、動作時間は0.1秒以内とする。(動力について、15kW以上は定格感度電流100mA～200mAとする。)

### 2. 電流計

電動機用は、延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。

## 第6章 受変電設備

1. 形式
  - ・ 開放形
  - ・ 屋内キュービクル式
  - ※ 屋外キュービクル式

キュービクル式の場合、高圧部が露出する部分は、透明保護カバーを設ける。
2. 交流遮断器
  - ※ 真空遮断器 (12.5kA)
  - ・ ガス遮断器
  - ※ 手動ばね式
  - ・ 電動ばね式
  - ・ 電磁操作方式
3. 断路器
 

三極単投断路器(避雷器用は除く。)
4. 高圧負荷開閉器
  - ※ 手動操作式
  - ・ 遠方手動操作式
  - ・ 電動操作式

相間及び側面に絶縁バリアを設ける。
5. 高圧引込開閉器
 

過電流蓄勢トリップ付地絡トリップ形で制御電源用変圧器を内蔵とする。

  - ※ 柱上用気中開閉器 (VT, LA 内蔵)
  - ・ 地中線用気中開閉器 (VT 内蔵)
6. 変圧器
  - ※ 連続定格自冷式 (※ 油入式
  - ・ モールド式
  - ・ H種乾式)
  - 付属機器 (※ ダイアル式温度計
  - ※ 防振ゴム)
  - ・ 振止め
  - ※見易い位置にタップ値を明示する (設定値, 年月日)。
7. 高圧進相コンデンサ
  - ※ 油入式
  - ・ モールド式
8. 直列リアクトル
  - ※ 油入式
  - ・ モールド式 (※6%
  - ・ 13%)
9. 避雷器
  - ※ 酸化亜鉛型
  - ・ 弁抵抗型
10. 計器類
 

高圧盤 ※電圧計 ※電流計 ※力率計 ※電力計

低圧盤 ※最大需要電流計 (※2分デマンド・5分デマンド・10分デマンド)

※電流計は多機能型デジタル(階級1.5級以上)とし、警報接点付、需要指示値、最大需要指示値の機能を有する。
11. デマント警報装置
  - ※無線通信方式
  - ・有線通信方式
12. 標識・表示
  - ※ 立入り禁止
  - ※ 高圧危険
13. 接地線
 

接地線は、漏洩電流を容易に測定できる位置に設置し、接地種別をプレートに彫刻し、墨入れ表示すること。

## 第7章 電力貯蔵設備

### 第1節 直流電源装置

防災電源(消防法(昭和23年法律第186号)による非常電源, 建築基準法(昭和25年法律第201号)による予備電源)となる直流電源装置は、消防法及び建築基準法に適合したもの又は、蓄電池設備認定委員会((一社)日本電気協会)の認定証票が貼付されたものとする。

1. 設置方式
  - ※ キャビネット式
  - ・ キャビネット式以外
2. 換気方式
  - ※ 自然換気
  - ・ 機械換気
3. 蓄電池
 

据置鉛蓄電池

(2.1.6)

	構造	極板構造	シールの種類	適用規格
・	ベント形	クラッド式	—	JIS C 8704-1
・		ペースト式		据置鉛蓄電池

・	シール形	クラッド式	触媒栓式		
・		ペースト式			
・	シール形	ペースト式	制御弁式	JIS C 8704-2	MSE
・				制御弁式据置鉛蓄電池	長寿命MSE

注)長寿命MSEはJIS C 8704-2によるほか、JIS C 8702-1 附属書 1(参考)「高温加速寿命試験」を行い、期待寿命を13年以上有するものとする。

#### アルカリ蓄電池

	構 造	極板構造	シールの種類	適 用 規 格
・	シール形	ポケット式	触媒栓式	JIS C 8706
・		焼 結 式		据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
・		焼 結 式	陰極吸収式	JIS C 8709 シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池

### 第2節 交流無停電電源装置(UPS)

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方法 ・ 自然換気 ※ 機械換気
3. 蓄電池

「第1節 直流電源装置 3. 蓄電池」による他 簡易形は下表による。

呼称	適 用 規 格
蓄電池	JIS C 8702-1 小形制御弁式鉛蓄電池-第1部
	JIS C 8702-2 小形制御弁式鉛蓄電池-第2部
	JIS C 8702-3 小形制御弁式鉛蓄電池-第3部

4. 逆変換装置(インバータ) ・ トランジスタ式 ※ サイリスタ式
5. 回路方式 ・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式  
・ 常時商用給電方式

## 第8章 発 電 設 備

### 第1節 燃料系発電装置

1. 形 式 ◎ キュービクル式 ・ 簡易形 ・ オープン式
2. 時間定格 ◎ 連続 ・ 1時間 ・ 10時間
3. 原動機 ◎ ディーゼル ・ ガスエンジン ・ ガスタービン
4. 始動方式 ・ 10秒以内電圧確立 ◎ 40秒以内電圧確立
5. 冷却方式 ◎ ラジエータ式 ・ 循環放流式 ・ 貯水槽循環方式
6. 始動方式 ◎ 電気始動 ・ 空気始動
7. 直流電源装置 ・ 鉛蓄電池 ・ アルカリ蓄電池
8. 燃 料 ・ 灯油 ◎ 軽油 ・ A重油
9. 認 定 ※ 消防法及び建築基準法に適合したもの又は、(社)日本内燃力発電設備協会認定票が貼付されたものとする。

- 10. 電 圧           ・ 高圧   ◎ 低圧
- 11. 騒 音           ・ 超低騒音形   ◎ 低騒音形   ・ 一般形
- 12. 保護形式       ◎ 保護形とする。
- 13. 絶 縁           ◎ 耐熱クラスは低圧においてはE 以上, 高圧においてはB 以上とする。
- 14. 燃料小出槽     ・ 鋼板製, 外面はさび止めペイント 2 回塗りのうえ調合ペイント 2 回塗りとする。  
・ ステンレス製

## 第 2 節 太陽光発電装置

(2.4.1)

太陽電池アレイ及び接続箱の据付けは, 建築基準法施行令に定めるところによる風圧力に耐えるものとし, 自重, 積雪及び地震その他の振動及び衝撃に対して, 耐える構造とする。

- 1. 太陽電池モジュール     ・ シリコン系(・ 結晶型   ・ 薄膜型)   ・ 化合物系
- 2. パワーコンディショナ   太陽電池出力の監視制御等により, 全自動運転可能なものとする。  
・ 逆潮流あり   ・ 逆潮流なし  
・ 単独運転検出機能あり   ・ 単独運転検出機能なし
- 3. 系統連系保護装置       製造者標準とする。

# 第 9 章 通 信 ・ 情 報 設 備

## 第 1 節 構内情報通信網設備

- 1. 機材     電気通信回線設備に接続する端末機器は, 電気通信事業法(昭和 59 年法律第 86 号)及び電波法(昭和 25 年法律第 131 号)に適合したものとする。
- 2. 配線等   盤内等において, 通信・信号配線と交流電源配線は, セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

## 第 2 節 構内交換設備

- 1. 機材     電気通信回線設備に接続する端末機器は, 電気通信事業法に適合したものとする。
- 2. 配線等   盤内等において, 通信・信号配線と交流電源配線は, セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
- 3. 局線応答方式  
    ※ダイヤルイン方式   ・ ダイレクトインダイヤル方式   ・ ダイレクトインライン方式  
    ・ 中継台方式
- 4. 電話機等  
    ※一般電話機   ※多機能電話機   ・ IP 電話機   ・ PHS

## 第 3 節 拡声設備

- 1. スピーカ   壁面付型は 2 点で強固に取付ける。  
    非常放送設備兼用スピーカは日本消防検定協会の認定に合格したものとする。
- 2. 配線等   非常放送設用の配線は消防法等に適合したものとする。

## 第 4 節 テレビ共同受信設備

- 1. 機材     地上デジタル放送対応とし, アンテナ等は各地域の状況に合わせた機材を使用する。
- 2. 配線等   原則として, 途中接続は行わないこと。

## 第5節 自動火災報知設備

1. 機材 受信機, 中継器, 発信機, 感知器については日本消防検定協会又は登録検定機関の行う検定に合格したものとする。
2. 配線等 消防法等に適合したものとする。

## 特記仕様書（機械設備工事）

### I 工事概要

- 1 工事名 : 石岡消防署愛郷橋出張所新築工事
- 2 工事場所 : 茨城県石岡市三村字坂井戸 6920 番地 3、6921 番地 1 地内
- 3 敷地面積 : 4,913.85 m<sup>2</sup>
- 4 工事範囲
- 5 建物概要 消防署出張所 : 鉄骨造平屋建て

(全体)

建物名称	愛郷橋出張所		
構造	鉄骨造	造 一部 造	造 一部 造
階数	地上 1階 地下 階	地上 階 地下 階	地上 階 地下 階
建築面積	570.55 m <sup>2</sup> (172.59 坪)	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	544.38 m <sup>2</sup> (164.67 坪)	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

(建物毎の各階床面積)

建物名称	地下1階	1階	2階	3階	4階	5階	計

### 6 別途工事

#### 7 その他

用途地域：指定なし 市街化調整区域

建蔽率：11.61%

容積率：8.86%

---

(H15. 6. 1 改定)	(H20. 6. 20 改定)	(H28. 4. 25 改定)
(H15. 9. 1 改定)	(H21. 6. 1 改定)	(H29. 4. 25 改定)
(H16. 6. 1 改定)	(H23. 6. 1 改定)	(H30. 4. 25 改定)
(H17. 5. 15 改定)	(H24. 6. 1 改定)	(H31. 4. 25 改定)
(H17. 10. 1 改定)	(H25. 5. 15 改定)	
(H18. 5. 15 改定)	(H26. 5. 15 改定)	
(H19. 7. 1 改定)	(H27. 5. 15 改定)	

## II 機械設備工事仕様

### 1 共通事項

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成31年版）（以下「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成31年版）（以下「改修標準仕様書」という。）による。

### 2 特記事項

- (1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
- (2) 特記事項で※印・印のある場合の適用は、下記による。
  - ※印を適用する。
  - ・印のついたものは適用しない。
- (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。
- (4) 建築工事、電気設備工事は、別記各工事の特記仕様書等による。

### Ⅲ 特記仕様

## 第1章 一般共通事項

#### 1 適用基準等

- ※ 「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕設備部監修 平成31年版）
- ※ 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成31年版）
- ※ 「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成31年版）
- ※ 「営繕工事写真撮影要領（平成24年版）同解説 工事写真の撮り方（建築設備編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

#### 2 技術者等

建設工事請負契約書に基づき、現場代理人及び技術者（主任技術者・監理技術者・専門技術者）を配置する。

#### 3 技能士等

- ・ 適用する ・ 適用しない (1.5.2)
- ・ 配管技能士 ・ 熱絶縁施工技能士 ・ 冷凍空気調和機器施工技能士
- ・ 建築板金技能士 ・ 計装士

#### 4 電気保安技術者

- ・ 適用する ・ 適用しない (1.3.2)

#### 5 工事实績情報の登録

- ※ 適用する（付記事項参照）

#### 6 設計図書 of 優先順序

- (1) 質問回答書 (2) 現場説明書 (3) 特記仕様書 (4) 図面
- (5) 標準仕様書及び改修標準仕様書

#### 7 監督員事務所

- ※ 設けない ・ 設ける（種別 ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号）

#### 8 機器及び材料

- (1) 本工事に使用する機器及び材料（以下（機材）という。）は、設計図書に規定するもの、標準仕様書、設備機材等評価名簿（最新版（一社）公共建築協会）によるもの又は同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。
- (2) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。  
「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成29年2月7日閣議決定）」（以下「グリーン購入法基本方針」）により、県が定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。
- (3) 上記の条件を満たすものが、市産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。  
なお、市産品とは、「石岡市内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。

#### 9 機材の検査等

検査及び試験を必要とする機材等は、標準仕様書によるほか下記による。

- (1) 機材は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、JISマーク等が表示された機材で所要の品質があることが確認でき設計図書に適合するものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。
- (2) 設計図書に定められた場合、又は試験によらなければ設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合には、試験を実施する。試験方法は、JIS、SHASE-S等に定めがある場合は、それらによる。試験完了後、試験成績表を監督員に提出する。監督員が必要と認める場合には、試験に立ち会う。

#### 10 建設発生土の処理等

- ・ 構外搬出適切処理 ※ 構内の指示する場所に敷き均し ・ 構内の指示する場所にたい積
- ・ 構外搬出指定場所 ( 地内 ・ 敷き均し ・ たい積 ) (付記事項参照)

**11 発生材の処理等** (1.3.9)

※ 構外搬出とし、関係法令に準拠して適切に処理し、監督員に報告する。

- ・ 引き渡しを要するもの ( )

※ 業務用冷凍空調機器 (第1種特定製品) は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の定めに従って行うものとする。

※ 特定家庭用機器再商品化法 (平成10年法律第97号) の対象となるものは、同法の定めに従って行うものとする。

**12 下請負人通知**

建設工事請負契約書に基づく下請負人通知書2部を、市と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に提出するものとする。

**13 施工図等の取り扱い**

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。

**14 提出書類**

提出書類は、下記による。 (※透明書類ケースに入れて提出する )

※ 写 真

適用	内 容	枚数	部数	提出方法
※	工事写真	適宜	1	電子納品
※	完成写真 (支払用: 外観及び内観)	3枚以上	1	A4版

上記のほかに出来高検査、中間検査等に要する写真は、監督員の指示により提出する。

※ 工事実績情報の登録内容確認書 (請負代金の額500万円以上となる工事)

※ 火災保険等に加入したことを証明できる書類

※ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書 (請負代金の額500万円以上となる工事)

※ 施工計画書 (請負代金の額500万円以上となる工事)

※ 実施工程表 (全体工程, 月間工程, 3週工程)

※ 使用資機材メーカー一覧表

※ 機器・材料納入仕様書

※ 施工図

※ 施工体系図 (提出したものを工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲示すること)

※ 施工体制台帳 (提出したものを現場に備え置くこと)

※ 試験成績表

※ 機器類保証書

※ 各種届出書類控

※ 産業廃棄物処理関係書類

(処理フロー図 (種類, 数量), 産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の写し, 委託契約書の写し, 許可証の写し 運搬経路図, 運搬車両一覧表, 写真 (積込, 場外搬出時, 処分場搬入時, 荷下状況), 古物商許可証の写し及び計量書 (有価処分の場合))

※ 再生資源利用 (促進) 計画書・実施書 (建設副産物情報交換システム (COBRIS) により作成・提出)

※ 保守点検に必要な工具

※ 完成図

※ 製本

2部

- ※ 縮小版 (A3) 製本 1部
- ※ 完成図CADデータ (CD-R 又は DVD-R) 1枚
- ※ 維持保全に関する資料 (完成図書) 1部

1. 使用資機材メーカー一覧表
2. 官公署届出書類
3. 機器完成図, 検査合格証, 取扱説明書
4. 試験成績書
5. 機器類保証書, 工事保証書
6. その他監督員が指示するもの

- ※ CD-R 又は DVD-R 1枚  
完成図面 (JWW形式), 完成写真 (JPEG形式) を収録したもの
- ※ その他 監督員が必要と認め, 指示した書類及び部数

## 第2章 共通工事

### 1 機器の規格

機器類の仕様は, 図面による。

### 2 各種配管工事の試験

配管途中若しくは隠ぺい, 埋戻し前又は配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。試験方法及び試験圧力等は, 標準仕様書によるものとし試験記録表を監督員に1部提出する。

### 3 測定表

試運転調整完了後, すみやかに下記の各測定結果をまとめた測定表を監督員に1部提出する。(測定内容及び測定箇所等は, 監督員の指示による。)

○ 温度 ・ 湿度 ○ 風量 ・ 騒音 ・ 振動 ・ 水量

### 4 容量の表示

- (1) 電動機出力などは, 表示された出力以下の容量とする。ただし, 防災機器は除く。
- (2) 冷・温熱源機器等及び防災機器の能力, 容量は, その数値以上のものとする。

### 5 土工事

(4.2.1)

根切りは, 周辺の土質などに適した工法とし, 土砂が崩壊しないように関係法令に準拠し適切な法面をつけるか, 山留めを設ける。(山留め箇所は, 図示による。)

### 6 管端防食継手

(2.1.2)

塩ビライニング鋼管, 耐熱性ライニング鋼管及びポリ粉体鋼管でねじ接合する場合の継手は, 管端防食管継手とする。

### 7 管の切断

(2.5.1)

塩ビライニング鋼管, 耐熱性ライニング鋼管, ポリ粉体鋼管及び外面被覆鋼管は, 帯のこ盤, ねじ切機搭載形自動丸のこ機等で切断し, パイプカッターによる切断は禁止する。また, 切断後, 適正な内面の面取りを施す。

### 8 異種管の接合

標準仕様書第2編2.5.17による。なお, 接合要領は標準図施工3によるものとする。

### 9 吊り及び支持

(2.6.3)

標準仕様書第2編第2章第6節によるほか, 次による。

- (1) 屋外支持材は、溶融亜鉛めっき又はステンレス製とする。(ボルト、ナット等は、ステンレス鋼製とする。)
- (2) 50A以下の鋼管は、形鋼振れ止め支持間隔を8m以下とする。
- (3) 梁貫通により振れ止めがされている場合は、その部分を形鋼振れ止め支持されているものとみなす。
- (4) ステンレス鋼管及び銅管の支持及び固定に鋼製又は鋳鉄製の金物を使用する場合は、合成樹脂を被覆した支持及び固定金具を用いるか、ゴムシートまたは合成樹脂の絶縁テープ等を介して取付ける。なお、合成樹脂が破損しないように、締付ける。
- (5) 冷媒管の吊り用支持受け材として保護プレートを、断熱材被覆銅管と吊り金物との間に設け、自重による断熱材の食込みを防止する。

**10 地中埋設標** (標準図, 機材2)

- ※ 設置する (○ 給水 ・ 排水 ・ ガス ・ 消火 ・ 油)
- ・ 設置しない

**11 埋設表示テープ**

標準仕様書によるほかテープ幅は150mmとする。

**12 地中埋設の深さ**

- 管の上端まで60cm ・ 管の上端まで cm

(ただし、建物に引き込む場合等は、監督員の承諾を得て埋設深さを変更することができる。)

**13 伸縮管継手を備えた配管** (2.4.1(e))

標準仕様書による。

**14 管のフランジ接合** (2.4.5, 2.4.6, 2.4.7, 2.5.2, 2.5.3, 2.5.4, 2.5.6)

標準仕様書によるほか、機器周りの配管はフランジ接合とする。ただし、鋼管及びライニング鋼管の梁貫通の場合は、片側をネジ接合としてもよい。

**15 塗装工事**

標準仕様書(第2編3.2.1)による。

**16 防食処置**

標準仕様書(第2編2.7.3)による。

- (1) 土中埋設の鋼管類(排水配管の鋼管類、合成樹脂などで外面を被覆された部分の配管は除く。)には、標準仕様書により防食処理を行う。
- (2) コンクリートに埋設される鋼管、鉛管、銅管は、プラスチックテープを1/2重ね1回巻きとする。

**17 識別色**

標準仕様書によるほか、埋設表示テープ及び地中埋設標の識別色は、給水は青、排水はシルバー、消火は赤、ガスは黄とする。

**18 保温工事**

標準仕様書第2編 第3章 第1節によるほか下記による。

- (1) 機器類付属弁類、槽類、煙道及び管寄せの保温外装は、アルミニウム板及びカラー亜鉛鉄板をステンレス板に
  - ・ 読み替える
  - ・ 読み替えない
- (2) ロックウール、グラスウールを使用した保温材のホルムアルデヒドの放散量 ・ F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆

**19 表示札等**

鍵及び弁等に取り付ける表示札は、プラスチック製(白色)とし、系統名及び常時開又は閉の文字を記入する。

**20 貫通部の処理** (2.8.1)

標準仕様書第2編第2章第8節による。

本工事に使用するスリーブは、下記による。 (2.2.27)

- ◎ つば付き鋼管製スリーブ (◎ 防水壁 ・ 防水床) (つば付き鋼管製は第2編表 2.2.11 による。)
- ◎ 紙製スリーブ (◎ 壁 ◎ 床)
  - ・ 管とスリーブとの隙間のシーリング材は、ホルムアルデヒド、トルエン、エチルベンゼン等を放散しないか、放散が少ないものとする。
  - ・ 配管が防火区画を貫通する場合は、建築基準法に適合する工法又は、国土交通大臣認定を受けた工法とし、貫通部に適用するものとする。(認定書を提出し、標識を適当な位置に貼り付けること。)

## 21 はつり

既製コンクリートの床、壁の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。

## 22 他工事との取り合い

- |  |         |       |        |
|--|---------|-------|--------|
| (1) 鉄筋コンクリートの梁、床、壁貫通のスリーブ補強  | ・ 箱入れ補強 | ・ 本工事 | ◎ 建築工事 |
| (2) 天井、壁のボード類 (軽量鉄骨も含む) の補強及び切込み   |         | ・ 本工事 | ◎ 建築工事 |
| (3) 天井改め口  |         | ・ 本工事 | ◎ 建築工事 |
| (4) 外壁に取り付けるガラリ、換気扇枠   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (5) 機器のコンクリート基礎  | 内設置のもの  | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
|  | 屋外設置のもの | ・ 本工事 | ◎ 建築工事 |
| (6) 防煙ダンパーと連動制御器までの電気工事  |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (機器付属電線と電気工事電源電線及び電気工事電源開閉器との連続は、別途工事とする。ただし、接続については、電気工事受注者と十分に協議のうえ実施すること。なお、コンセントへの接続は、本工事とする。) |         |       |        |
| (7) 地震感知器の配管配線   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (8) 排煙濃度計の指示計までの配管配線   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (9) 天井吊形及び隠ぺい形エアコンと操作スイッチ間の渡り配管配線  |         | ◎ 本工事 | ・ 別途工事 |

## 23 機器等の耐震施工

設備機器設備の固定は標準仕様書によるほか、建設大臣官房官庁営繕部監修「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説 (平成8年版)」及び一般財団法人日本建築センター発行「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。

## 24 工事中電力・用水・その他

本工事に必要な工事中電力、用水、その他の費用は全て受注者の負担とする。

## 25 揮発性有機化合物 (VOC) を使用した材料の対応

- (1) 揮発性有機化合物 (以下VOCという。) 対策については、極力含有量の少ない材料を使用することとする。
- (2) 屋内清掃を行うときは、VOCを含む材料を使用しないこと。やむを得ず使用するとき、監督員の承諾を得ること。
- (3) VOCを含む材料を使用して施工した場合は十分に換気すること。

## 26 埋蔵文化財の調査

文化財保護法に基づく「周知の埋蔵文化財包蔵地内」

- (1) 掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。  
 施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、市教育委員会文化振興課担当と協議すること。
- (2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

## 27 あと施工アンカー

- (1) 配管、ダクト、機器等の天井吊り下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しないこと。
- (2) あと施工アンカーの施工に際しては、品質管理上、施工についての指導を行う施工技術管理者を配置や、十分

な経験と技能を有する技能者により施工すること。

### 第3章 衛生器具設備工事

#### 1 衛生器具の接続

衛生器具と排水配管との接続には、塩ビ管に代えて排水用フレキシブル継手を使用してもよい。

#### 2 衛生陶器の隙間調整

衛生陶器を据え付ける際の隙間調整は、ゴムシートなどの耐久性に優れた材料を使用すること。

### 第4章 給水設備工事

#### 1 水道加入金 ・ 別途 ・ 本工事

#### 2 保温

※ 標準仕様書による。

- ・ 屋外露出管（弁、フランジ類を含む）の保温材の厚さは、呼び径 25 mm以下は 30 mm，呼び径 32 mm以上のものは、40 mm以上とする。

### 第5章 排水設備工事

#### 1 流し接続管 床上露出部分は、硬質ポリ塩化ビニル管（VP）でもよい。

#### 2 鋳鉄製ふたの文字

◎ 汚水 ・ 雑排水 ◎ 雨水 ・ 実験排水 ・ その他

#### 3 鋳鉄製ふたの破壊荷重

・ 中荷重 60 kN以上（丸枠） ◎ 重荷重 200 kN以上（丸枠）

#### 4 屋外排水管理設要領

根切り底から 100 mm 碎石敷き込みを行い、管を布設して管頂から 100 mm までを山砂にて埋め戻す。

残りの部分は ・ 根切り土 ・ 山砂 で埋め戻す

#### 5 小口径柵 下水道管理者等と協議・承諾のうえ使用する。

#### 6 エア抜き用排水 自動エア抜きの排水は、専用配管で排水処理をする。

### 第6章 給湯設備工事

#### 1 ガス湯沸器排気筒

・ 本工事（厚さ 0.5 mm 以上のステンレス鋼板製） ・ 別途工事

#### 2 排気筒の保温 ・ 行う ・ 行わない

### 第7章 消火設備工事

#### 1 保温

- ・ 消火配管（・ 屋内露出・ 屋外露出）は保温し、標準仕様書表 2.3.5（区分給水管）を適用する。
- ・ 屋外露出管の保温材の厚さは、呼び径 25 mm以下は 30 mm，呼び径 32 mm以上のものは、40 mm以上とする。

## 第8章 ガス設備工事

- 1 ガスメーター ・ 本工事 ※ 別途工事
- 2 ガスの種類 (1) 種類 LPG (2) 発熱量 50.2 MJ/kg
- 3 ガス栓 ※ ヒューズコック
- 4 ガス漏れ警報機 外部出力端子を ・ 設ける ・ 設けない
- 5 ガス漏れ警報設備 ・ 設置する ・ 設置しない

## 第9章 浄化槽設備工事

- 1 装置強度  
装置（槽、ふた）の強度は、次の条件による。  
○ 製造者標準形 ・ 中荷重形（乗用車の走行駐車可） ・ 重荷重形
- 2 山留め ・ オープンカット ○ 鋼矢板 ・ H鋼+鋼矢板
- 3 埋め戻し土 ○ 山砂 ・ 発生土
- 4 マンホールふた等 ※錠又は安全ロック等付き
- 5 消毒剤 ※30日分納入

## 第10章 空気調和設備工事

### 1 温湿度調整目標値

	屋外条件		屋内条件					
			一般系統					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
冬期	-1.2℃	47.5%	19℃	成行	℃	%	℃	%
夏期	33.9℃	57.9%	28℃	成行	℃	%	℃	%

- 2 ダクト 鋼板厚 ・ 3.2mm ・ 4.5mm ・ 図示による  
排気測定口 ・ 取り付ける
- 3 風量測定口 取付箇所は図示による。
- 4 吹出口及び吸込口 ・ アルミ製（ヘアライン加工） ・ 鋼板製
- 5 防煙ダンパー  
標準仕様書第3編 1.15.8 によるほか次による。  
(1) 復帰方式 ・ 遠隔復帰式（電気式） ・ 手動式  
(2) 操作式 ・ 電気式 ・ 空気式  
自動閉鎖機構は、定格入力 DC-24V, 0.6A 以下、自動復帰機構が電動式の場合は、入力 DC-24V, 25A 以下とする。  
(3) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。
- 6 防火ダンパー  
(1) 上記の5に準じたものとする。  
(2) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。
- 7 ピストンダンパー 復帰方式 ・ 自動式 ・ 手動式

## 8 チャンバー等

- (1) 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバーには、排水を設ける。
- (2) シーリングディフューザー（アネモ型）、線状吹出口（ブリーズライン）のチャンバーは、図示による。

## 9 温度計

標準仕様書及び標準図によるほか、次の箇所及び図示の位置に温度計を設ける。

- (1) 主要な機器類の出入口の配管

## 10 圧力計及び連成計

ポンプ等の吸込み管に取り付ける場合は、連成計とする。

## 11 瞬間流量計及び流量測定口

標準仕様書及び標準図によるほか次による。

- |                |        |           |       |        |
|----------------|--------|-----------|-------|--------|
| 冷温水管寄せの各送り管    | ・瞬間流量計 | ・測定用タッピング | （・設ける | ・設けない） |
| ボイラ又は熱交換器の温水出口 | ・瞬間流量計 | ・測定用タッピング | （・設ける | ・設けない） |

## 12 オイルサービスタンク

- (1) 油面制御装置      ・国土交通省型      ・市販品（防爆型）
- (2) 防油提              ・本工事              ・別途工事

## 13 オイルタンク

槽形式、容量等は主要機器表によるほか、次による。

- (1) 油タンクふた      ・本工事（・国土交通省型      ・市販品）      ・別途工事
- (2) 遠隔油量指示計      ・抵抗変化式      ・磁歪式  
形式      ・国土交通省型      ・製造者規格品（・電気式      ・空気式）
- (3) 計量尺      ・本工事（計量口は施錠付き）      ・別途  
計量尺は、青銅製又は黄銅製及びアルミ製とし、100L 実測目盛り刻印とする
- (4) 地下オイルタンク外面の保護方法は「危険物の規制に関する政令」及び「危険物の規制に関する規則」による方法とする。また、事前に関係機関と打ち合わせを行うこと。
- (5) 危険物標識板      鋼板製メラミン焼付け仕上げとし、槽最寄の適切な位置に自立型のものを取り付ける。

## 14 消音内貼り

消音板厚さ

- (1) ダクト保温厚さ 50mm とする箇所は、消音板 50mm とし、25mm とする箇所は 25mm とする。
- (2) 内貼りチャンバー類の寸法表示は、外法寸法とする。

## 15 保温及び塗装

- (1) 保温
  - ・標準仕様書による。
  - ・屋外露出管（温水管、給水管）の保温材の厚さは、呼び径 25 mm 以下は 30 mm，呼び径 32 mm 以上のものは、40 mm 以上とする。
- (2) 外気取り入れダクトの保温      ・行う      ・行わない
- (3) 油配管の土中埋設部は、消防署の指示によるか又は標準仕様書による。

## 第 11 章 排煙設備工事

- 1 排煙ダクト      ・垂鉛鉄板製      ・鋼板製(1.6mm)
- 2 排煙口の開放装置      ・手動開放装置      ・煙感知器と連動する自動開放装置      ・遠隔操作方式による開放装置

### 3 排煙風量の測定方法

排煙風量を測定する場合は、JIS-A-4303「排煙設備の検査標準」4.2.1(2)(C)による。

## 第12章 換気設備工事

1 準用事項 第10章空気調和設備工事の当該事項に準じる。

2 一般湯沸器の天蓋 ・別途 ・本工事

### 3 厨房用天蓋

(1) 材種 ※ステンレス製(SUS304, 厚さ1.0mm以上とする。)

(2) 帯板(フードから天井まで) ・別途 ・本工事

(3) グリスフィルターは予備品として100%納入する。

### 4 保温

(1) 多湿箇所(・浴室 ・厨房)の外気取り入れ風道は保温する。ただし、送風、排風機は除く。  
施工範囲は、図示による。

(2) 全熱交換ユニット用のダクト(◎外気取り入れ ・排気)は保温する。  
施工範囲は、図示による。

## 第13章 自動制御設備工事

1 システム構成及び機能 図示による

2 制御方式 ・電気式 ・電子式 ・デジタル式

3 中央監視装置 ・中央処理装置 ・補助記憶装置 ・表示装置 ・グラフィックパネル ・操作器  
・伝送制御装置 ・電源装置

4 周辺装置 ・印字装置 ・アナンシエータ ・インターホン ・ハードコピー装置

5 端末装置 ・リモートステーション(RS) ・ダイレクトデジタルコントローラ(DDC)  
・ユーザーターミナル(UT)

### 6 表示及び警報

室内外の温湿度表示、冷温水の温度表示、運転・故障・警報の表示のほか、細目は図示による。

### 7 自動制御装置

(1) 図示されていない配線配管等の本数及び寸法は、製造者の仕様としてよい。

(2) 自動制御回路には、サージ防止装置を ・取り付ける ・取り付けない

### 8 その他

(1) 室内形の温度検出器、湿度検出器はケース付きとし、取付け位置は標準仕様書による。

(2) 地震感知器の取付位置は標準仕様書による。

(3) 地震感知器の作動により、バーナー及び給油用電磁弁等を作動させ、速やかに燃焼を停止、消火させる。

機械設備図示記号一覧(1)

図示記号	名称	備考	図示記号	名称	備考
給水管 —— VLP —— —— VLDP —— —— VW —— —— HI ——	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 耐衝撃性塩化ビニル管	一般配管 土中埋設 一般配管 土中埋設	排水管 —— —— VP —— —— LP —— —— D-VA —— —— —— ) —— —— = TMP —— —— REP-VU —— —— RF-VP ——	配管用炭素鋼鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管 排水・通気用鉛管 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管(内面) 排水用鋳鉄管 遠心力鉄筋コンクリート管 耐火二層管 再生硬質塩化ビニル管 (排水用リサイクル硬質塩化ビニル管) 再生硬質塩化ビニル管 (建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管)	一般配管 土中埋設 一般配管 一般配管 一般配管 一般配管 一般配管 土中埋設 土中埋設
給湯管 ——   HTLP —— ——    HTLP —— ——   SUS —— ——    SUS ——	水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 ステンレス鋼鋼管 ステンレス鋼鋼管	一般配管 一般配管 一般配管 一般配管	冷水管 —— C —— —— CR ——	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
消火管 —— X —— —— X <sup>VS(PS)</sup> ——	配管用炭素鋼鋼管 硬質塩化ビニル(ポリエチレン)外面被覆鋼管 (白管に被覆)	一般配管 土中埋設	温水管 —— H —— —— HR ——	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
通気管 ----- ----- V.P. -----	配管用炭素鋼鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管		冷温水管 —— CH —— —— CHR ——	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
冷却水管 —— CD —— —— CDR ——	水道用塩化ビニルライニング鋼管 水道用塩化ビニルライニング鋼管				

機械設備図示記号一覧(2)

図示記号	名称	備考	図示記号	名称	備考
膨張管 —— E ——	配管用炭素鋼鋼管				
冷媒管 —— R —— —— RR —— —— R —— —— R1 ——	銅管 銅管 銅管(被覆) 銅管(被覆)				
油管 —— O —— —— OR ——	配管用炭素鋼鋼管(黒管) 配管用炭素鋼鋼管(黒管)				
油用通気管 —— OV ——	配管用炭素鋼鋼管				
低圧蒸気管 —— / —— - - - - / - - - -	配管用炭素鋼鋼管(黒管) 配管用炭素鋼鋼管(黒管)				
ガス管 —— G <sup>PLS</sup> ——	ポリエチレン被覆鋼管又は 塩化ビニル被覆鋼管				

# 特記仕様書（造成工事）

## （総則）

- 第1条 本特記仕様書は、次の工事に適用する。
- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 工事名  | 石岡消防署愛郷橋出張所新築工事                 |
| 工事場所 | 石岡市三村字坂井戸 6920 番 3, 6921 番 1 地内 |

## （工事数量）

- 第2条 工事数量は、別紙「本工事内訳書」のとおりとする。

## （建設資材）

- 第3条 使用する材料について、共通仕様書に定める条件を満たすものが、県産材で、確保できる場合には、その優先使用に努めること。なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、または加工し製品化されたもの」をいう。

## （過積載の防止）

- 第4条 本工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。
- (1) 積載重量制限を超過して工食用資材等を積み込まず、また積み込ませないこと。
  - (2) 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。
  - (3) 資材等の過積載を防止するため、建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
  - (4) さし柵装着車、物品積載装置の不正改造をしたダンプカー及び不正表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。また、これらの車両を工事現場に出入りさせないこと。
  - (5) 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長するような行為をしないこと。
  - (6) 取引関係のあるダンプカー事業者が不正行為（過積載、さし柵装着車や不正表示車等の使用）を行っている場合には、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
  - (7) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
  - (8) 下請契約の相手方や資材納入業者の選定にあたっては、交通安全に対する配慮に欠ける者やダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。

## （不正軽油の使用防止）

- 第5条 本工事の施工にあたっては、下記の事項を遵守すること。
- (1) 現場で不正軽油を使用しないこと。
  - (2) 現場で不正軽油を使用させないこと。
  - (3) 不正軽油を購入しないこと。
  - (4) 取引関係にある運送事業者等が不正軽油を使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
  - (5) 下請契約の相手方、または燃料納入業者を選定するにあたっては、不正軽油を使用する者、または不正軽油を販売する者を排除すること。
  - (6) 県税事務所職員による使用燃料の抜き取り調査に協力すること。また、調査の際には、現場代理人が立ち会うこと。
  - (7) 当該工事に関して、法令（地方税法等）に違反していることが判明した場合は、直ちに監督員に報告すること。

(留意事項)

第6条 工事履行に必要な関係官庁への打合せ、確認及び届出等については遅滞なくこれを行うこと。

(疑義)

第7条 本工事の施工及び設計図書等に疑義が生じた場合には、監督員と協議のうえ、その指示に従うこと。

## 付記事項

### 1 適用

- (1) 本付記事項は、標準仕様書及び特記仕様書を補足するものである。
- (2) 本付記事項、標準仕様書及び特記仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合除き、受注者の責任において履行すべきものとする。
- (3) 本工事における工事数量は、別紙「本工事費内訳書（科目別内訳書まで）」のとおりとする。

### 2 CORINS への登録

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が 500 万円以上の全ての工事について、工事実績情報サービス（CORINS）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、訂正時は適宜、登録機関※に登録申請しなければならない。（ただし、工事請負代金額が 500 万円以上 1,000 万円未満の工事については、受注・訂正時のみ登録するものとする。）

なお、変更登録は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。

また、登録機関発行の「登録内容確認書」が請負人に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。なお、変更時と工事完成時の間が土日・祝日・年末年始を除き 10 日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。

※ 登録機関：（一財）日本建設情報総合センター TEL 03-3505-0463

### 3 本工事の発生土をストックヤードに搬出する場合

#### (1) 受入れできる土砂

##### ① 第 3 種建設発生土以上の土砂

搬入土砂の受入管理規定（土質試験の評価について）

利用区分	発生土区分	土質試験（コーン指数）qc	摘要
搬入	第 3 種建設発生土以上	400kN/m <sup>2</sup> 以上	湿地ブルドーザが走行可能な状態の土質性状以上

##### ② 第 3 種建設発生土未満の土砂の場合

土質の性状を改良（天日乾燥・固化材混合等）することで、第 3 種建設発生土の基準値（qc400kN/m<sup>2</sup>以上）をクリアできれば搬出できるが、固化剤混合改良土については、受入れできないストックヤードがあるため事前協議が必要。

#### (2) 受入れできない土砂

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| ① 異物等が混入した土砂 | ⑤ 土砂汚染された場所からの土砂      |
| ② 有機質土・粘土    | ⑥ 降雨等で土質性状が悪化し、目視により明 |

らかに

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| ③ 固化材等が混入された土砂 | 第 3 種建設発生土未満と判断した場合や、 |
|----------------|-----------------------|

申請時の

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| ④ 建設汚泥 | 土質と大幅に違うことが確認された場合 |
|--------|--------------------|

#### (3) 利用時間

- ① 利用日 月曜日～土曜日 8:00～17:00（ただし、12:00～13:00 は除く。）
- ② 休日 日曜日、祝日（振替休日を含む。）、GW、旧盆、年始年末

#### (4) 利用料金

(一財)茨城県建設技術管理センターが指定する料金とする。

(5) 利用規程について

「ストックヤード等利用案内」を参照し、利用手続きに従って所定の手続きを行う。

(6) その他

質疑が生じた場合には、監督員と別途協議すること。

(7) 問い合わせ先

本所	県南支所
〒310-0004 水戸市青柳町 4195 番 (一財)茨城県建設技術管理センター 建設副産物リサイクル事業部 TEL 029-227-5222 FAX 029-227-8558	〒300-0331 稲敷郡阿見町阿見 4815 番 3 (一財)茨城県建設技術管理センター 県南支所 TEL 029-887-5762 FAX 029-887-5769

(8) 土質区分基準

発生土の土質区分は、原則として、コーン指数と日本統一土質分類を指標として、表 3-1 に示す土質基準によるものとする。なお、土質改良を行った場合には、改良後の性状で判定するものとする。

表 3-1 土質区分基準

区 分 (国土交通省令) ※1	細区分 ※2※3※4	コーン 指 数 qc※5 (kN/m <sup>2</sup> )	土質材料の工学的分類 ※6※7		備 考※6	
			大分類	中分類 土質{記号}	含水比(地 山) Wn (%)	掘削方 法
第1種建設発生土 (砂、礫及びこれら に準ずるもの)	第1種	-	礫質土	礫{G}, 砂礫{GS}	-	※排水に 考慮する が、降水、 浸出地下 水等によ り含水比 が増加す ると予想 される場 合は、1ラ ンク下の 区分とす る。
	第1種改良土※8		砂質土	砂{S}, 礫質砂{SG}		
			人工材料	改良土{I}	-	
第2種建設発生土 (砂質土、礫質土及 びこれらに準ずるもの)	第2a種	800以上	礫質土	細粒分まじり礫{GF}	-	
	第2b種		砂質土	細粒分まじり砂{SF}	-	
	第2種改良土		人工材料	改良土{I}	-	
第3種建設発生土 (通常の施工性が確 保される粘性土及び これに準ずるもの)	第3a種	400以上	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	-	
	第3b種		粘性土	シルト{M}, 粘土{C}	40%程度以下	
	第3種改良土		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	-	
			人工材料	改良土{I}	-	
第4種建設発生土 (粘性土及びこれに 準ずるもの(第3種 発生土を除く))	第4a種	200以上	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	-	※水中掘 削等によ る場合は、 2ランク 下の区分 とする。
	第4b種		粘性土	シルト{M}, 粘土{C}	40~80%程度	
			火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	-	
	第4種改良土		有機質土	有機質土{O}	40~80%程度	
			人工材料	改良土{I}	-	
(泥土)※1※9	泥土a	200未満	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	-	
	泥土b		粘性土	シルト{M}, 粘土{C}	80%程度以上	
			火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	-	
	泥土c		有機質土	有機質土{O}	80%程度以上	
			高有機質土	高有機質土{Pt}	-	

※1 国土交通省令(建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令 平成13年3月29日 国交令59, 建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令 平成13年3月29日 国交令60)においては区分として第1種~第4種建設発生土が規定されている。

※2 この土質区分基準は工学的判断に基づく基準であり、発生土が産業廃棄物であるか否かを定めるものではない。

※3 表中の第1種~第4種改良土は、土(泥土を含む)にセメントや石灰を混合し化学的安定処理したものである。例えば第3種改良土は、第4種建設発生土または泥土を安定処理し、コーン指数400kN/m<sup>2</sup>以上の性状に改良したものである。

※4 含水比低下、粒度調整などの物理的な処理や高分子系や無機材料による水分の土中への固定を主目的とした改良材による土質改良を行った場合は、改良土に分類されないため、処理後の性状に応じて改良土以外の細区分に分類する。

※5 所定の方法でモールドに締め固めた試料に対し、コーンペネトロメーターで測定したコーン指数(JIS A 1288 一層ごとの突き固め回数25回)。

※6 計画段階(掘削前)において発生土の区分を行う必要があり、コーン指数を求めするために必要な試料を得られない場合には、土質材料の工学的分類体系((社)地盤工学会)と備考欄の含水比(地山)、掘削方法から概略の区分を選定し、掘削後所定の方法でコーン指数を測定して区分を決定する。

※7 土質材料の工学的分類体系における最大粒径は75mmと定められているが、それ以上の粒径を含むものについても本基準を参照して区分し、適切に利用する。

※8 砂及び礫と同等の品質が確保できているもの。

※9 ・港湾、河川等のしゅんせつに伴って生ずる土砂その他これに類するものは廃棄物処理法の対象となる廃棄物ではない。(廃棄物の処理及び清掃に関する法律の施行について 昭和46年10月16日 環整43厚生省通知)  
・地山の掘削により生じる掘削物は土砂であり、土砂は廃棄物処理法の対象外である。(建設工事等から生ずる廃棄物の適正処理について 平成13年6月1日 環廃産276環境省通知)  
・建設汚泥に該当するものについては、廃棄物処理法に定められた手続きにより利用が可能となり、その場合「建設汚泥処理土利用技術基準」(国官技第50号, 国官総第137号, 国営計第41号, 平成18年6月12日)を適用するものとする。

#### 4 排出ガス対策型建設機械使用の原則化

下記の建設機械は排出ガス対策型を使用することとする。

- ① ブルドーザ，バックホウ，トラクタショベル
- ② ホイルクレーン，マカダムローラ，タイヤローラ，振動ローラ搭載されているエンジンから排出されるガス成分及び黒煙の量は下表の値以下のものであること。

対象物質 出力区分	H C (g/kW・h)	NO <sub>x</sub> (g/kW・h)	CO (g/kW・h)	黒煙 (%)
7.5～15kW未満	2.4	12.4	5.7	50
15～30kW未満	1.9	10.5	5.7	50
30～272kW以下	1.3	9.2	5.0	50

なお、地域条件などにより調達が困難である場合は、監督員と協議を行うこととする。

#### 5 建設副産物

##### (1) 再生資源利用計画

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく対象建設工事を請け負った場合は、事前説明（法第12条）、請負契約書への記載（法第13条）、分別解体等及び再資源化等の実施（法第9条及び16条）、完了報告（法第18条）等により、分別解体等及び再資源化等を実施しなければならない。

##### (2) 再生資源利用促進計画

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく対象建設工事、土砂（100m<sup>3</sup>以上）、砕石（50t以上）、加熱アスファルト混合物（20t以上）を工事現場に搬入する場合には「再生資源利用計画書」を所定の様式に基づき作成し、施工計画書に含め監督員に提出しなければならない。

##### (3) 実施書の提出

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく対象建設工事、建設発生土（100m<sup>3</sup>以上）、建設廃棄物（20t以上）を工事現場から搬出する場合には、「再生資源利用促進計画書」を所定の様式に基づき作成し、施工計画書に含め監督員に提出しなければならない。

##### (4) 建設廃棄物処理計画書

受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、「建設廃棄物処理計画書」を所定の様式に基づき作成し、施工計画書に含め監督員に提出しなければならない。

##### (5) 実施状況の提出

受注者は、工事完了後速やかに実施状況を「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「建設廃棄物処理実施書」に記録し監督員に提出しなければならない。

##### (6) 建設副産物実態調査

「建設副産物情報交換システム（COBRIS）」によりデータを入力・作成後、出力した調査票1部を監督員に提出すること。なお、提出する調査票は、(5)に基づく再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の提出に代わるものとする。

#### 6 VOC（揮発性有機化合物）の室内濃度の測定

設計図書等に室内濃度の測定を明記した室の、VOC（揮発性有機化合物）の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認すること。

ただし、指針値を超えた場合は、監督員と協議し所要の対策を講じること。

揮発性有機化合物	室内濃度指針値
ホルムアルデヒド	100 μg/m <sup>3</sup> (0.08 ppm)
トルエン	260 μg/m <sup>3</sup> (0.07 ppm)
キシレン	870 μg/m <sup>3</sup> (0.20 ppm)
エチルベンゼン	3800 μg/m <sup>3</sup> (0.88 ppm)

(参考)

パラジクロロベンゼン	240 μg/m <sup>3</sup> (0.04 ppm)
------------	----------------------------------

注) ppm : 100万分の1

スチレン	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05 ppm)
------	---

#### 7 セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する措置

普通ポルトランドセメント、高炉セメント、セメント系固化材、石灰系固化材を使用した改良土から条件によっては、六価クロムが土壤環境基準を超える濃度で溶出する恐れがあるため、施工にあたっては下記のとおり取り扱う。

- ① セメント及びセメント系固化材を地盤改良に使用する場合、監督員の承諾した方法により、現地土壌と使用予定の固化材による六価クロム溶出試験を実施し、土壤環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じる。
- ② セメント及びセメント系固化材を使用した改良土を再利用する場合、監督員の承諾した方法により、六価クロム溶出試験を実施し、六価クロム溶出量が土壤環境基準以下であること確認する。

#### 8 不正軽油の使用禁止

工事の施工にあたっては、下記の事項を遵守すること。

- ① 現場で不正軽油を使用しないこと。
- ② 現場で不正軽油を使用させないこと。
- ③ 不正軽油を購入しないこと。
- ④ 取引関係にある運送事業者等が不正軽油を使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講じること。
- ⑤ 下請契約の相手方又は燃料購入業者を選定するにあたっては、不正軽油を使用する者、または不正軽油を販売する者を排除すること。
- ⑥ 県税事務所職員による使用燃料の抜き取り調査に協力すること。また、調査の際には現場代理人が立ち会うこと。
- ⑦ 当該工事に関して、法令（地方税法等）に違反していることが判明した場合は、直ちに監督員に報告すること。

※ 不正軽油とは、地方税法第144条の32の規定による知事の承認を得ないで行われた次のものをいう。

- 1 軽油と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和したもの
- 2 軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和して製造された軽油
- 3 自動車の燃料として譲渡・消費される燃料炭化水素油（重油、灯油等）

#### 9 低入札価格調査制度における適用対象工事の監督体制等の強化

- ① 受注者は、調査基準価格を下回る価格で落札した場合においては、茨城県建設工事施工適正化指針及び建設工事標準請負契約約款に定める下請負人通知書、施工体制台帳、再下請負通知書及び施工体系図の提出に際し、発注者からその内容についてヒアリングを求められた場合は、応じなければならない。
- ② 受注者は、共通仕様書に基づく施工計画書の提出に際し、発注者からその内容についてヒアリングを求められた場合は、応じなければならない。
- ③ 受注者は、監督員が当該工事の監督業務を行う際は、主任技術者又は監理技術者を立ち合わせなければならない。

#### 10 工事成績評定

本工事は工事成績評定対象工事とする。

#### 1.1 公共事業労務費調査に対する協力

受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。

- ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
- ② 調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
- ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行われなければならない。
- ④ 対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請負工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

#### 1.2 過積載の防止

工事の施工にあたっては、下記の事項を遵守すること。

- ① 積載重量制限を超過して工事用資材等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- ② 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。
- ③ 資材等の過積載を防止するため、建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- ④ さし枠装着車、物品積載装置の不正改造をしたダンプカー及び不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。また、これらの車両を工事現場に出入りさせないこと。
- ⑤ 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長するような行為をしないこと。
- ⑥ 取引関係のあるダンプカー事業者が不正行為（過積載、さし枠装着車や不正表示車等の使用）を行っている場合には、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- ⑦ 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
- ⑧ 下請契約の相手方や資材納入業者の選定にあたっては、交通安全に対する配慮に欠ける者やダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。

#### ~~1.3 隣接工事との共通仮設費の調整~~

~~本工事を\_\_\_\_\_工事（隣接工事の工事番号及び工事名称）の受注者と同じの者が落札した場合には、施工計画の内容により、共通仮設費（共通仮設費率に含まれる部分を除く。）について調整する場合がある。~~

#### 1.4 暴力団関係者等の排除について

市が発注する建設工事等の契約を履行するに当たっての注意事項

- ① 暴力団又は暴力団関係者等が経営又は運営に実質的に関与していると認められる会社等（以下、「暴力団等」という。）と下請契約をしてはならない。
- ② 暴力団等から資材、原材料等を購入したり、暴力団等が関与する廃棄物処理施設を使用してはならない。
- ③ 暴力団等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否するとともに、その旨直ちに監督員等に報告し、併せて所轄の警察署に届け出ること。

15 成果品の電子納品について

- (1) 完成図（JWW 形式）、完成写真（JPEG 形式）を収録した CD-R については、必ずウイルスチェックを行うこと。
- (2) ウィルス対策ソフトは特に指定はしないが、新しいウィルスに対応できるものを導入し、常に最新の状態を保ち、最新のウィルスパターンファイルの更新を行うものとする。
- (3) ウィルスチェックは、ウィルス存在の有無の確認、駆除を確実にを行うために、電子媒体に格納前のハードディスク上の電子成果品、電子成果品格納後の電子媒体で、計 2 回行うようにすること。
- (4) CD-R のレーベル面には下記の項目を直接印字すること（油性ペンによる手書きも可とする）。

記載項目	記載例
工事番号	第〇〇-〇〇-〇〇〇-〇-〇〇〇号
工事名	〇〇高校〇〇改修工事
作成年月	令和〇〇年〇〇月
発注者名	石岡市長 〇〇 〇〇
受注者名	(株)〇〇建設
ウイルスチェックに関する情報	ウイルス対策ソフト名：〇〇〇 ウイルスパターンファイル：令和〇〇年〇〇月〇〇日版 チェック年月日：令和〇〇年〇〇月〇〇日
フォーマット形式	フォーマット形式：IS09660（レベル1）

# 石岡消防署愛郷橋出張所新築工事

設計内訳書(金抜き)

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	石岡消防署愛郷橋出張所新築工事						
I	直接工事費		1.0				
II	共通費		1.0				
	合計						
	改め計						
	消費税相当額		1.0				
	請負に付する額						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
Ⅱ	共通費						
1	共通仮設費		1.0				
2	現場管理費		1.0				
3	一般管理費		1.0				
	Ⅱ.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	共通仮設費						
1)	共通仮設費	(率)	1.0				
2)	共通仮設費	(積上げ分)	1.0				
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	現場管理費						
	現場管理費		1.0				
	計						
3	一般管理費						
	一般管理費		1.0				
	契約保証費		1.0				
	計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	石岡消防署 愛郷橋出張所新築工事						
I	建築工事		1.0	式			
II	電気設備工事		1.0	式			
III	機械設備工事		1.0	式			
IV	外構工事		1.0	式			
V	造成工事		1.0	式			
	合計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
I	建築工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
7	鉄骨工事		1.0	式			
8	防水工事		1.0	式			
9	タイル工事		1.0	式			
10	木工事		1.0	式			
11	屋根及びとい工事		1.0	式			
12	金属工事		1.0	式			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
13	左官工事		1.0	式			
14	木製建具工事		1.0	式			
15	金属製建具工事		1.0	式			
16	ガラス工事		1.0	式			
17	塗装工事		1.0	式			
18	内外装工事		1.0	式			
19	ユニット及びその他工事		1.0	式			
	I.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	水盛りかた	一般	571.0	m <sup>2</sup>			
	墨出し	一般	544.0	m <sup>2</sup>			
	手摺先行型足場	12m未満 W900	598.0	m <sup>2</sup>			
	安全手摺	枠組本足場用	115.0	m			
	脚立足場		544.0	m <sup>2</sup>			
	鉄骨足場		571.0	m <sup>2</sup>			
	地足場		571.0	m <sup>2</sup>			
	水平安全ネット		571.0	m <sup>2</sup>			
	ネット状養生シート	災害防止I類	598.0	m <sup>2</sup>			
	養生	一般	544.0	m <sup>2</sup>			
	整理清掃片付	一般	544.0	m <sup>2</sup>			
	仮設材運搬費	手摺先行足場	598.0	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	仮設材運搬費	安全手摺	115.0	m			
	仮設材運搬費	脚立足場	544.0	m <sup>2</sup>			
	仮設材運搬費	鉄骨足場	571.0	m <sup>2</sup>			
	仮設材運搬費	地足場	544.0	m <sup>2</sup>			
	仮設材運搬費	水平安全ネット	571.0	m <sup>2</sup>			
	仮設材運搬費	ネット状養生シート	598.0	m <sup>2</sup>			
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 壺布併用堀	640.0	m3			
	鋤取		41.0	m3			
	床付		317.0	m <sup>2</sup>			
	埋戻し土	根切土流用	274.0	m3			
	不用土処分		417.0	m3			
	基礎 砕石地業	T 50	10.1	m3			
	土間 砕石地業	T 150	92.1	m3			
	立上り 防湿シート	T 0.15 ポリエチレンフィルム	128.0	m <sup>2</sup>			
	土間 防湿シート	T 0.15 ポリエチレンフィルム	498.0	m <sup>2</sup>			
	立上り 断熱材	T 25 発泡ポリエチレンフォーム	128.0	m <sup>2</sup>			
	土間 断熱材	T 25 発泡ポリエチレンフォーム	498.0	m <sup>2</sup>			
	杭間ざらい		31.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	土工機械運搬費		2.0	往復			
	2.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	地業工事						
	GPRC杭	I種105N 450Φ×11.0m	5.0	本			
	GPRC杭	I種105N 400Φ×11.0m	6.0	本			
	GPRC杭	I種105N 350Φ×11.0m	20.0	本			
	施工費	杭打機、試験掘り	1.0	式			
	杭下ろし費		1.0	式			
	その他材料費	セメント、回転埋設用金具	1.0	式			
	固化材費		1.0	式			
	運搬・組立・解体費	機械運搬費、他	1.0	式			
	労務費	管理費	1.0	式			
	その他経費	セメントミルク圧縮試験費、諸経費	1.0	式			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	杭頭補強	パイルスタッド <sup>°</sup> 450Φ	5.0	本			
	杭頭補強	パイルスタッド <sup>°</sup> 400Φ	6.0	本			
	杭頭補強	パイルスタッド <sup>°</sup> 350Φ	20.0	本			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A D10	7.3	t			
	異形鉄筋	SD295A D13	16.9	t			
	異形鉄筋	SD295A D16	1.3	t			
	異形鉄筋	SD345 D19	0.6	t			
	異形鉄筋	SD345 D22	1.4	t			
	異形鉄筋	SD345 D25 37.6	10.1	t			
	鉄筋加工組立		36.2	t			
	運搬費		36.2	t			
	スクラップ控除	(37.6-36.2)×0.7	0.98	t			
	ガス圧接	SD345 D19-D19	7.0	ヶ所			
	ガス圧接	SD345 D22-D22	36.0	ヶ所			
	ガス圧接	SD345 D25-D25	242.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	スリーブ補強		1.0	式			
	4.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	コンクリート工事						
	均しコンクリート	FC-18(N/m <sup>2</sup> ・m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	15.9	m <sup>3</sup>			
	基礎、立上り部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ・m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 18	166.0	m <sup>3</sup>			
	土間、耐圧部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ・m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	83.2	m <sup>3</sup>			
	打設手間	均しコンクリート	15.9	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎、立上り部	166.0	m <sup>3</sup>			
	打設手間	土間、耐圧部	83.2	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	均しコンクリート	15.9	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎、立上り部	166.0	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	土間、耐圧部	83.2	m <sup>3</sup>			
	ポンプ車基本料金	100m <sup>3</sup> 以上	1.0	台			
	ポンプ車基本料金	50m <sup>3</sup> 以上100m <sup>3</sup> 未満	1.0	台			
	ポンプ車基本料金	30m <sup>3</sup> 以上50m <sup>3</sup> 未満	1.0	台			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	型枠工事						
	基礎部 普通型枠		799.0	m <sup>2</sup>			
	打放し型枠	B種	28.4	m <sup>2</sup>			
	運搬費		827.0	m <sup>2</sup>			
	打放面補修	B種	28.4	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	普通合板型枠	799.0	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	打放合板型枠	28.4	m <sup>2</sup>			
	6.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	鉄骨工事						
(1)	工場制作費		1.0	式			
(2)	現場建方		1.0	式			
	7.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(1)	工場制作費						
	H形鋼	SS400 H-100*100*6*8	0.8	t			
	H形鋼	SS400 H-150*150*7*10	0.3	t			
	H形鋼	SS400 H-175*90*5*8	5.7	t			
	H形鋼	SS400 H-200*100*5.5*8	3.4	t			
	H形鋼	SS400 H-250*125*6*9	23.0	t			
	H形鋼	SS400 H-300*150*6.5*9	5.9	t			
	H形鋼	SS400 H-340*250*9*14	4.6	t			
	H形鋼	SS400 H-350*175*7*11	3.2	t			
	H形鋼	SS400 H-396*199*7*11	2.2	t			
	H形鋼	SS400 H-440*300*11*18	7.1	t			
	H形鋼	SN400B H-200*100*5.5*8	0.4	t			
	H形鋼	SN400B H-250*125*6*9	0.2	t			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	H形鋼	SN400B H-340*250*9*14	1.1	t			
	H形鋼	SN400B H-440*300*11*18	1.2	t			
	等辺山形鋼	SS400 L-100*100*7	1.6	t			
	軽量リップ溝形鋼	SSC400 LC-100*50*20*2.3	12.4	t			
	軽量リップ溝形鋼	SSC400 LC-100*50*20*3.2	0.5	t			
	鋼板	SS400 PL-4.5	0.04	t			
	鋼板	SS400 PL-6	2.2	t			
	鋼板	SS400 PL-9	2.6	t			
	鋼板	SS400 PL-12	1.5	t			
	鋼板	SN490C PL-16	0.2	t			
	鋼板	SN490C PL-19	0.4	t			
	角形鋼管	STKR400 □-100*50*3.2	0.02	t			
	角形鋼管	STKR400 □-100*100*6.0	1.1	t			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	角形鋼管	STKR400 □-175*175*9.0	1.6	t			
	角形鋼管	BCR295 □-350*350*12.0	6.3	t			
	棒鋼	SNR400B M-12	0.1	t			
	棒鋼	SNR400B M-16	0.8	t			
	棒鋼	SNR400B M-20	0.8	t			
	ターンバックル	M12用	42.0	ヶ所			
	ターンバックル	M16用	104.0	ヶ所			
	ターンバックル	M20用	72.0	ヶ所			
	NDコア	M350用	10.0	ヶ所			
	鉄骨工場加工組立費	溶接費含む	74.6	t			
	軽量鉄骨加工組立費		12.3	t			
	運搬費		86.9	t			
	防錆塗装		86.9	t			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	スクラップ控除		2.9	t			
	超音波探傷試験費		332.0	ヶ所			
	(1).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	現場建方						
	アンカーボルト	SNR490B M12x300	50.0	本			
	アンカーボルト	SNR490B M12x400	20.0	本			
	アンカーボルト	SNR490B M20x600	4.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M16x35	1,102.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M16x40	410.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M16x45	87.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M16x60	349.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M20x45	383.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M20x50	4.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M20x55	200.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M20x60	135.0	本			
	トルシア形高力ボルト	S10T M20x70	965.0	本			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	普通ボルト	M12x40	2,929.0	本			
	普通ボルト	M16x40	42.0	本			
	ベース下均しモルタル	400x400	2.0	ヶ所			
	アンカーボルト据付費	主柱用	4.0	ヶ所			
	アンカーボルト据付費	間柱用	70.0	ヶ所			
	ベースパック	M1712用	6.0	ヶ所			
	ベースパック	M3516用	10.0	ヶ所			
	建方費		1.0	式			
	高力ボルト締付費		74.6	t			
	(2).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
8	防水工事						
	( 外部 )						
	金属製建具用 建具廻りシーリング	MS-2 W10×D10	283.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	甲板 仕上見切シーリング	SR-2 5角	4.2	m			
	8.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
9	タイル工事						
	( 外部 )						
	床 磁器質タイル	モルタル面 300角	4.3	m <sup>2</sup>			
	段鼻 磁器質タイル	モルタル面 W300	3.4	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	床 磁器質タイル	モルタル面 300角	5.9	m <sup>2</sup>			
	巾木 磁器質タイル	モルタル面 300角×H100	4.0	m			
	9.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
10	木工事						
(1)	木材費		1.0	式			
(2)	大工手間		1.0	式			
	10.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(1)	木材費						
	構造材	米梅 特1等 平割	0.13	m3			
	造作材	杉 上小節 正割	0.05	m3			
	造作材	杉 上小節 平割	0.95	m3			
	造作材	杉 上小節 板材	0.52	m3			
	造作材	タモ集成材	0.26	m3			
	造作材	桧 上小節 正割	0.09	m3			
	(1).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	大工手間						
	上り框		13.1	m			
	腰壁 縦横胴縁		25.1	m <sup>2</sup>			
	腰壁 見切縁		37.1	m			
	腰壁 縦羽目板板	杉板	25.1	m <sup>2</sup>			
	天井 格子組		2.0	m <sup>2</sup>			
	甲板	W120XT21	7.1	m			
	額縁	25X98	260.0	m			
	カウンター	T30	2.9	m <sup>2</sup>			
	カーテンBOX	135X100	2.6	m			
	ハンガー受板	100X25XL1000	6.0	ヶ所			
	WW1用 木製建具用枠	W 1405×H 1000	1.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	(2).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
11	屋根及びとい工事						
	勾配屋根 横葺	ガルバリウム鋼板 T0.35	631.0	m <sup>2</sup>			
	勾配屋根 ゴムアスファルトルーフィング <sup>※</sup>	23Kg巻	631.0	m <sup>2</sup>			
	勾配屋根 耐水構造用合板	T12	631.0	m <sup>2</sup>			
	換気棟		23.5	m			
	軒先水切	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	109.0	m			
	下り棟	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	44.8	m			
	破風、鼻隠し	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	109.0	m			
	下屋 立ハゼ葺	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	106.0	m <sup>2</sup>			
	下屋 ゴムアスファルトルーフィング <sup>※</sup>	23Kg巻	106.0	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	下屋 耐水構造用合板	T12	106.0	m <sup>2</sup>			
	下屋 軒先水切	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	65.0	m			
	下屋 トップライト部立上り雨押え	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	2.0	ヶ所			
	下屋 破風、鼻隠し	カラーガルバリウム鋼板 T0.35	65.0	m			
	庇 立ハゼ葺	ガルバリウム鋼板 T0.35	29.3	m <sup>2</sup>			
	庇 軒先水切	ガルバリウム鋼板 T0.35	31.8	m			
	庇 ケラバ水切	ガルバリウム鋼板 T0.35	1.9	m			
	庇 立上り雨押え	ガルバリウム鋼板 T0.35	29.7	m			
	庇 ゴムアスファルトルーフィング	23Kg巻	29.3	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	庇 破風、鼻隠し	ガルバリウム鋼板 T0.35	33.7	m			
	庇 耐水構造用合板	T12	29.3	m <sup>2</sup>			
	落し口	75φ	27.0	ヶ所			
	軒樋	ガルバリウム鋼板 H6号	109.0	m			
	縦樋	ガルバリウム鋼板 75φ	140.0	m			
	運搬費等		1.0	式			
	11.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
12	金属工事						
	( 外部 )						
	天井 軽鉄下地(底目地)	25型@225	160.0	m <sup>2</sup>			
	玄関 沓拭きマット	ステンレス製 450X1750	1.0	ヶ所			
	救急消毒室 沓拭きマット	ステンレス製 300X1500	1.0	ヶ所			
	排水溝 グレーチング蓋	ステンレス製 W200	16.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	タラップ	ステンレス製	28.0	ヶ所			
	床下点検口	ステンレス製 600角	7.0	ヶ所			
	天井点検口	アルミ製 450角	19.0	ヶ所			
	壁 軽鉄間仕切	W100	614.0	m <sup>2</sup>			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1800xH2100	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1000xH2100	7.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W908xH2115	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W900xH2100	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W900xH2000	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W900xH1983	4.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W810xH1983	13.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W750xH2000	2.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1584xH1983	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W713xH2000	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W599xH1995	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W5375xH2700	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1225xH1982	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1405xH1000	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W920xH2100	1.0	ヶ所			
	軽鉄間仕切用開口補強	W100型用 W1100xH2000	1.0	ヶ所			
	外周壁、柱型 軽鉄胴縁	W50	193.0	m <sup>2</sup>			
	ライニング 軽鉄間仕切	W65	14.7	m <sup>2</sup>			
	天井 軽鉄下地(直貼)	19型@225 H1500未満	483.0	m <sup>2</sup>			
	曲面天井 軽鉄下地(直貼)	19型@225	24.2	m <sup>2</sup>			
	下り壁 軽鉄下地(直貼)	19型@225	1.8	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	トップライ卜部 下り壁 軽鉄下地(下り壁)	19型@225	31.2	m <sup>2</sup>			
	天井 軽鉄下地開口補強		1.0	式			
	グレーチング蓋	ステンレス製、細目、ノンスリップ仕様 W200XT20	3.0	m			
	グレーチング蓋	ステンレス製、細目、ノンスリップ仕様 350角	1.0	ヶ所			
	12.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
13	左官工事						
	( 外部 )						
	床 コンクリート直押え		49.6	m <sup>2</sup>			
	床 コンクリート直押え	塗床下地	63.0	m <sup>2</sup>			
	床 モルタル	タイル下	4.3	m <sup>2</sup>			
	マット床 防水モルタル		0.7	m <sup>2</sup>			
	スロープ床 コンクリート直押え	刷毛引	1.7	m <sup>2</sup>			
	排水溝 防水モルタル		4.6	m <sup>2</sup>			
	金属製建具用 充填モルタル		10.7	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	床 コンクリート直押え		1.7	m <sup>2</sup>			
	床 コンクリート直押え	塗装下	270.0	m <sup>2</sup>			
	床 コンクリート直押え	置物下	205.0	m <sup>2</sup>			
	床 モルタル		8.0	m <sup>2</sup>			
	床 モルタル	タイル下	5.9	m <sup>2</sup>			
	床 モルタル	貼物下	1.9	m <sup>2</sup>			
	ピット 床 防水モルタル		112.0	m <sup>2</sup>			
	ピット 立上り 防水モルタル		122.0	m <sup>2</sup>			
	巾木 モルタル	タイル下	0.4	m <sup>2</sup>			
	排水溝 防水モルタル		1.8	m <sup>2</sup>			
	13.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
14	木製建具工事						
	WD1 片引き額入ハンガー戸	W 900×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD2 片引き額入ハンガー戸	W 1225×H 1982 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD3 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD4 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD5 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD6 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD7 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD8 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD9 片引き額入ハンガー戸	W 900×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD10 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD11 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD12 引違い戸	W 1584×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	WD13 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD14 UB枠	W 750×H 2000 既製品	1.0	ヶ所			
	WD15 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD16 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD17 三方枠	W 750×H 2000 既製品	1.0	ヶ所			
	WD18 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD19 片引き額入ハンガー戸	W 900×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD20 片引き額入ハンガー戸	W 900×H 1983 既製品、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD21 片引き額入ハンガー戸	W 713×H 2000 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD22 片開き額入フラッシュ戸	W 599×H 1995 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WD23 片引き額入ハンガー戸	W 810×H 1983 既製品、ガラス、枠材、附属金物共	1.0	ヶ所			
	WW1 引違いガラス戸	W 1405×H 1000	1.0	ヶ所			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
15	金属製建具工事						
(1)	アルミ製建具		1.0	式			
(2)	可動間仕切		1.0	式			
(3)	シャッター		1.0	式			
(4)	鋼製建具		1.0	式			
	15.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(1)	アルミ製建具(ビル用)						
	AD1 ランマ付両開き框戸	W 1690×H 2310	1.0	ヶ所			
	AD2 片引き自動ドア	W 1171×H 2450 焼付塗装、小窓ガラス共	1.0	ヶ所			
	AD3 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	W 1800×H 2400 アルミ製額縁付、ガラス共	1.0	ヶ所			
	AD4 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	W 1800×H 2400 アルミ製額縁付、ガラス共	1.0	ヶ所			
	AD5 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	W 1800×H 2400 アルミ製額縁付、ガラス共	1.0	ヶ所			
	AD6 ランマハメ殺付片開き額ガラリ付フラッシュ戸	W 800×H 2400 アルミ製額縁付	1.0	ヶ所			
	AD7 ランマハメ殺付片開き額ガラリ付フラッシュ戸	W 800×H 2400 アルミ製額縁付	1.0	ヶ所			
	AD8 ランマハメ殺付片開きフラッシュ戸	W 868×H 2330	1.0	ヶ所			
	AW22 突出し窓	W 690×H 300	5.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬費、諸経費		1.0	式			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	アルミ製建具(住宅用)						
AW1	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW2	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW3	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW4	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW5	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW6	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW7	すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
AW8	タテすべり出し窓	W 600×H 1300	1.0	ヶ所			
AW9	2枚引違い窓	W 2510×H 1300	1.0	ヶ所			
AW10	タテすべり出し窓	W 600×H 1300	1.0	ヶ所			
AW11	タテすべり出し窓	W 600×H 1300	1.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	AW12 ハメ殺し付2枚引違い窓	W 2300×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW13 ハメ殺し付2枚引違い窓	W 2300×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW14 4枚引違い窓	W 2560×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW15 ハメ殺し窓	W 600×H 1300 防火設備	1.0	ヶ所			
	AW16 2枚引違い窓	W 1650×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW17 2枚引違い窓	W 1650×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW18 2枚引違い窓	W 1650×H 1300	1.0	ヶ所			
	AW19 固定ガラリ	W 700×H 1000	1.0	ヶ所			
	AW20 すべり出し窓	W 690×H 500	1.0	ヶ所			
	AW21 天窗	W 780×H 978	2.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	取付調整費		1.0	式			
	運搬費		1.0	式			
	(1).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	可動間仕切						
	KAD1 可動間仕切	W 5375×H 2700 亜鉛メッキ鋼板、焼付塗装	1.0	ヶ所			
		附属金物共					
	取付調整費		1.0	式			
	運搬費		1.0	式			
	(2).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(3)	シャッター						
	OD1 電動オーバースライドイングドア	W 8850×H 4000 アルミ合金塗装板、化粧枠、附属共	1.0	ヶ所			
	SS1 電動シャッター	W 7000×H 4000 溶融亜鉛メッキ鋼板、化粧枠	1.0	ヶ所			
	SS2 手動シャッター	W 3500×H 4000 溶融亜鉛メッキ鋼板、化粧枠	1.0	ヶ所			
	SS3 手動シャッター	W 3205×H 4000 溶融亜鉛メッキ鋼板、化粧枠	1.0	ヶ所			
	SS4 手動シャッター	W 1850×H 2200 溶融亜鉛メッキ鋼板、化粧枠	1.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬費		1.0	式			
	(3).計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(4)	鋼製建具						
	AD9 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD10 片引き額入フラッシュ戸	W 920×H 2100 化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD11 片引き額入フラッシュ戸	W 900×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD12 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD13 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD14 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD15 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD16 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD17 片引き額入フラッシュ戸	W 1000×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD18 片引き額入フラッシュ戸	W 908×H 2115 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD19 引分けフラッシュ戸	W 1800×H 2100 防火設備、化粧鋼板	1.0	ヶ所			
	AD20 両開きフラッシュ戸	W 900×H 2000	1.0	ヶ所			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
16	ガラス工事						
	( 外部 )						
	AD1 ランマ付両開き框戸	複層ガラス 1710×287 Low-e5+A12+FL3	1.0	枚			
		複層ガラス 845×2098 Low-e5+A12+FL3	2.0	枚			
	AD3 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	透明FL6 1820×320	1.0	枚			
	AD4 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	透明FL6 1820×320	1.0	枚			
	AD5 ランマハメ殺し付両開きガラリ付フラッシュ戸	透明FL6 1820×320	1.0	枚			
	AD6 ランマハメ殺付片開き額ガラリ付フラッシュ戸	透明FL6 820×320	1.0	枚			
		透明FL6 300×450	1.0	枚			
	AD7 ランマハメ殺付片開き額ガラリ付フラッシュ戸	透明FL6 820×320	1.0	枚			
		透明FL6 300×450	1.0	枚			
	AD8 ランマハメ殺付片開きフラッシュ戸	型板ガラス F4 888×332	1.0	枚			
		型板ガラス F4 868×2018	1.0	枚			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	AW22 突出し窓	複層ガラス Low-e4+A12+FL4	5.0	枚			
	金属製建具用 ガラス廻りシーリング	149×3	299.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	AD9 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD10 片引き額入フラッシュ戸	透明FL5 500×800	1.0	m <sup>2</sup>			
	AD11 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD12 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD13 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD14 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD15 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD16 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD17 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD18 片引き額入フラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			
	AD19 引分けフラッシュ戸	網入りF4 200×800	1.0	枚			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	金属製建具用 ガラス廻りシーリング	17.6×2	35.2	m			
	16.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
17	塗装工事						
	( 外部 )						
	天井 EP塗	素地B種 ケイ酸カルシウム板面	160.0	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	上り框 木材保護塗装	B種 90X65	13.1	m			
	腰壁 木材保護塗装	B種 木面	25.1	m <sup>2</sup>			
	腰見切 木材保護塗装	B種 木面	37.1	m			
	壁 EP塗	素地B種 ケイ酸カルシウム板面	149.0	m <sup>2</sup>			
	壁 EP塗	素地B種 ボード面	210.0	m <sup>2</sup>			
	天井 EP塗	素地B種 ケイ酸カルシウム面	239.0	m <sup>2</sup>			
	天井格子 木材保護塗装	素地B種 木面	2.2	m <sup>2</sup>			
	額縁 木材保護塗装	B種 木面	260.0	m			
	甲板 木材保護塗装	木面 W120	7.1	m			
	カーテンBOX 木材保護塗装	B種 木面	1.2	m <sup>2</sup>			
	ハンガー板 木材保護塗装	木面 H100	6.0	m			
	カウンター 木材保護塗装	B種 集成材面	2.9	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	家具 木材保護塗装	B種 木面	22.9	m <sup>2</sup>			
	木製建具用 木材保護塗装	B種 B種	2.1	m <sup>2</sup>			
	17.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
18	内外装工事						
	( 外部 )						
	床 無機系撥水防滑塗装	コンクリート面	63.0	m <sup>2</sup>			
	立上り 土台水切	ガルバリウム鋼板 T0.35	85.3	m			
	壁 窯業系サイディング(1)	役物共 T16.0	311.0	m <sup>2</sup>			
	壁 窯業系サイディング(2)木目調	役物共 T16.0	25.4	m <sup>2</sup>			
	壁 透湿防水シート		336.0	m <sup>2</sup>			
	壁 高性能グラスウール充填	14K T105	336.0	m <sup>2</sup>			
	天井 ケイ酸カルシウム板	塗装下 T5.0 目透かし	160.0	m <sup>2</sup>			
	天井見切 通気水切	アルミ製	120.0	m			
	廻縁	硬質塩ビ製	351.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 内部 )						
	床 塩ビシート	合板面 T2.0	155.0	m <sup>2</sup>			
	床 塩ビシート	モルタル面 T2.0	1.9	m <sup>2</sup>			
	床 ネットワークフロア	帯電防止ビニル床タイル含 H40 (50.1m <sup>2</sup> )	1.0	式			
	床 無機系撥水防滑塗装	コンクリート面	270.0	m <sup>2</sup>			
	床 プラ束		155.0	m <sup>2</sup>			
	床 構造用合板	貼物下 T12.0	146.0	m <sup>2</sup>			
	床 構造用合板	合板下 T24.0	155.0	m <sup>2</sup>			
	床 耐水合板	貼物下 T12.0	8.4	m <sup>2</sup>			
	巾木 無機系撥水防滑塗装	コンクリート面	7.1	m <sup>2</sup>			
	巾木 MDF巾木	H60	222.0	m			
	腰壁 石膏ボード	ケイ酸カルシウム板下 T12.5	19.5	m <sup>2</sup>			
	腰壁 化粧ケイ酸カルシウム板	ボード面 T4.0	19.5	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	壁 石膏ボード	T12.5	13.3	m <sup>2</sup>			
	壁 石膏ボード	クロス下 T12.5	522.0	m <sup>2</sup>			
	壁 石膏ボード	キッチンパネル下 T12.5	2.0	m <sup>2</sup>			
	壁 石膏ボード	化粧ケイ酸カルシウム板下 T12.5	35.5	m <sup>2</sup>			
	壁 石膏ボード	T15.0	548.0	m <sup>2</sup>			
	壁 キッチンパネル	ボード面	2.0	m <sup>2</sup>			
	壁 ケイ酸カルシウム板	塗装下 T5.0 目透かし	149.0	m <sup>2</sup>			
	壁 化粧ケイ酸カルシウム板	T5.0 ボード面	66.8	m <sup>2</sup>			
	壁 ビニールクロス	ボード面	522.0	m <sup>2</sup>			
	壁 窯業系サイディング	T14.0	94.7	m <sup>2</sup>			
	壁 構造用合板	T12.0	22.8	m <sup>2</sup>			
	天井 石膏ボード	クロス下、化粧ケイ酸カルシウム板下 T9.5	235.0	m <sup>2</sup>			
	天井 化粧ケイ酸カルシウム板	塗装下 T5.0 目透かし	18.2	m <sup>2</sup>			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	天井 ビニールクロス	ボード面	222.0	m <sup>2</sup>			
	天井 高性能グラスウール充填	14K T105	483.0	m <sup>2</sup>			
	天井 構造用合板	T12.0	3.5	m <sup>2</sup>			
	曲面天井 石膏ボード	クロス下 T9.5	24.2	m <sup>2</sup>			
	曲面天井 ビニールクロス	ボード面	24.2	m <sup>2</sup>			
	曲面天井 高性能グラスウール充填	14K T105	24.2	m <sup>2</sup>			
	下り壁 石膏ボード	クロス下 T9.5	1.8	m <sup>2</sup>			
	下り壁 ビニールクロス	ボード面	1.8	m <sup>2</sup>			
	下り壁 高性能グラスウール充填	14K T105	1.8	m <sup>2</sup>			
	廻縁	硬質塩ビ製	496.0	m			
	トップライト部 下り壁 化粧石膏ボード	T9.5	31.2	m <sup>2</sup>			
	下り壁 見切縁	硬質塩ビ製	8.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	18.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
19	ユニット及びその他工事						
	( 外部 )						
	消防紋章	ステンレス製 H300	1.0	ヶ所			
	箱文字	ステンレス製 石岡消防署 愛郷橋出張所	1.0	組			
	郵便受	ステンレス製 縦型ポスト、前入	1.0	ヶ所			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	( 雑 )						
	食堂兼待機室 システムキッチン	流し台・吊戸棚、レンジフード W2700 TOTOクラッソ同等	1.0	組			
	食堂兼待機室 システムカウンター	W2700	1.0	組			
	便所 吊り戸棚	W700	3.0	ヶ所			
	便所 化粧鏡	350X450	3.0	ヶ所			
	トイレブース	扉共 T40 メラミン化粧合板	9.5	m <sup>2</sup>			
	玄関 下駄箱	タモ集成材、ランバーコア合板 1600X1200	1.0	ヶ所			
	事務室 可動棚カウンター	タモ集成材、ランバーコア合板 3700X1000	1.0	ヶ所			
	浴室 ユニットバス	既製品 TOTOシンラ同等	2.0	ヶ所			
	トイレ ペーパーホルダー	YKT300MN	3.0	ヶ所			
	甲板	ポストフォーム W120×T21	4.2	m			
	洋服掛フック		12.0	ヶ所			
	救急消毒室 SUS2槽シンク	バックガード無し W1200×D450×H800	1.0	台			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価		備 考
	電気設備工事						
1	幹線設備工事		1.0	式			
2	屋外弱電設備工事		1.0	式			
3	自家発電装置設備工事		1.0	式			
4	動力設備工事		1.0	式			
5	電灯コンセント設備工事		1.0	式			
6	照明器具設備工事		1.0	式			
7	非常用照明設備工事		1.0	式			
8	誘導標識設備工事		1.0	式			
9	放送設備工事		1.0	式			
10	テレビ共聴設備工事		1.0	式			
11	構内交換設備工事		1.0	式			
12	情報配線設備工事		1.0	式			
13	電気錠・インターホン設備工事		1.0	式			



本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	幹線設備工事						
	ケーブル	EM-CET100sq (FEP内)	2.0	m			
	ケーブル	EM-CET 60sq (FEP内)	28.0	m			
	ケーブル	EM-CET 60sq (管内)	1.0	m			
	ケーブル	EM-CET 60sq (天井内)	26.0	m			
	ケーブル	EM-CET 38sq (FEP内)	28.0	m			
	ケーブル	EM-CET 38sq (管内)	1.0	m			
	ケーブル	EM-CET 38sq (天井内)	26.0	m			
	ケーブル	EM-CE 5.5sq-4C (FEP内)	43.0	m			
	ケーブル	EM-CE 5.5sq-3C (FEP内)	29.0	m			
	ケーブル	EM-CE 5.5sq-3C (天井内)	26.0	m			
	電線	IV14sq (FEP内)	9.0	m			
	電線	IV14sq (管内)	22.0	m			
	電線	IV14sq (天井内)	52.0	m			

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
	電線管	(FEP80) (地中)	2.0	m			
	電線管	(FEP65) (地中)	28.0	m			
	電線管	(FEP50) (地中)	28.0	m			
	電線管	(FEP30) (地中)	67.0	m			
	電線管	ZG(54) (露出)	2.0	m			
	電線管	(VE22) (地中)	20.0	m			
	異種管路接続材料	(50)-(54)	2.0	組			
	鋼板製フルボックス	300×300×200 (0.42m <sup>2</sup> )	1.0	個			
	引込盤	LP-M	1.0	面			
	電灯動力盤	LP-1	1.0	面			
	切替盤		1.0	面			
	ハンドホール	900×900×900 重耐蓋	2.0	基			
	同上用セパレーター		2.0	個			
	ハンドホール	800×800×900 重耐蓋	2.0	基			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	自立型コンセント	Dポール フラットタイプ 防水コンセント共	1.0	基			
	コンクリート柱	10m-19cm-350KN	1.0	本			
	ポール運搬費		1.0	式			
	コンクリート根枷	B型	1.0	組			
	支線	38mm <sup>2</sup>	1.0	組			
	足場ボルト		10.0	本			
	アームタイ		12.0	本			
	接地工事	14φ×1.5m～2連	4.0	箇所			
	接地埋設標	金属製	4.0	個			
	区画貫通処理		4.0	箇所			
	根切り埋め戻し		1.0	式			
	埋設シート	2倍折込 幅150mm	104.0	m			
	埋設標	金属製	9.0	個			



本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	屋外弱電設備工事						
	電線管	(FEP30) (地中)	57.0	m			
	電線管	ZG(28) (露出)	36.0	m			
	呼び線		36.0	m			
	異種管路接続材料	(30)-(28)	4.0	組			
	コンクリート柱	12m-19cm-350KN	1.0	m			
	ポール運搬費		1.0	m			
	コンクリート根柵	B型	1.0	m			
	支線	38mm <sup>2</sup>	1.0	m			
	足場ボルト		10.0	m			
	アームタイ		12.0	m			
	根切り埋め戻し		1.0	式			
	埋設シート	2倍折込 幅150mm	10.0	m			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	自家発電装置設備工事						
	防災設備用ディーゼル発電装置	キュービクル型 60kVA	1.0	式			
		低騒音型 85dB(A) 機側1m平均 低騒音型85dB 搭載型					
		発電機自動始動制御盤 搭載型 自動充電装置・直流電源盤 搭載型					
		国交省仕様					
	輸送費・試運転調整費・消防検査立会費		1.0	式			
	小計						

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
4	動力設備工事						
	ケーブル	EM-CE5.5sq-4C (天井内)	31.0	m			
	ケーブル	EM-CE5.5sq-4C (PF内)	8.0	m			
	ケーブル	EM-CE5.5sq-4C (管内)	5.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-4C (天井内)	72.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-4C (PF内)	16.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-4C (管内)	10.0	m			
	ケーブル	EM-CE2sq-4C (天井内)	16.0	m			
	ケーブル	EM-CE2sq-4C (PF内)	3.0	m			
	電線管	(PF22) (隠蔽)	33.0	m			
	電線管	ZG(22) (露出)	8.0	m			
	金属可とう電線管	F(24)WP (露出)	6.0	箇所			
	防水型ステンレス製プルボックス	200×200×100(0.16m <sup>2</sup> )	3.0	個			
	樹脂製アウレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	2.0	個			



本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
5	電灯コンセント設備工事						
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C (管内)	3.0	m			
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C (天井内)	117.0	m			
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C (PF内)	56.0	m			
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C (管内)	4.0	m			
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C (天井内)	483.0	m			
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C (PF内)	98.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C (天井内)	580.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C (PF内)	204.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C (OAフロア)	67.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	294.0	m			
	電線管	(PF22) (隠蔽)	32.0	m			
	電線管	(PF28) (隠蔽)	8.0	m			
	電線管	G(22) (露出)	6.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	167.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1(金属プレート共)	10.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×2(金属プレート共)	3.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×3(金属プレート共)	2.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×4(金属プレート共)	1.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×5(金属プレート共)	1.0	個			
	埋込スイッチ	1PL15A×1(金属プレート共)	11.0	個			
	埋込スイッチ	3W15A×1(金属プレート共)	11.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1+3W15A×1 (金属プレート共)	1.0	個			
	換気扇スイッチ取付費		6.0	箇所			
	人感センサー	親器	7.0	個			
	人感センサー	子器 広角検知形	5.0	個			
	人感センサー	切替スイッチ	6.0	個			
	埋込コンセント	2PE15A×2(金属プレート共)	64.0	個			

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
	埋込コンセント	2PE15A×1(金属プレート共)	7.0	個			
	埋込コンセント	2P15A×1+ET×1(金属プレート共)	9.0	個			
	埋込コンセント	2P15A×2+ET×1(金属プレート共)	1.0	個			
	埋込コンセント	3P20A×1(金属プレート共)	1.0	個			
	抜止コンセント	2PE15A×1(金属プレート共)	2.0	個			
	リーレーコンセント	2PE15A×1(金属プレート共)	2.0	個			
	防水コンセント	2PE15A×1(金属プレート共)	2.0	個			
	防水コンセント	2PE15A×2(金属プレート共)	5.0	個			
	ハーネスジョイントボックス	2P20A 4分岐	4.0	個			
	ハーネス用OAコンセント	2P15A×4 接地極付 ケーブル3.0m 抜止	8.0	個			
	防火区画貫通処理		7.0	箇所			
	鋼板製フルボックス	200×200×100(0.16m <sup>2</sup> )	2.0	個			
	VV-Fジャンクションボックス		5.0	個			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
6	照明器具設備工事						
	照明器具	図示記号A	24.0	台			
	照明器具	図示記号B	6.0	台			
	照明器具	図示記号C	6.0	台			
	照明器具	図示記号D	43.0	台			
	照明器具	図示記号E	9.0	台			
	照明器具	図示記号F	5.0	台			
	照明器具	図示記号G	6.0	台			
	照明器具	図示記号H	6.0	台			
	照明器具	図示記号I	10.0	台			
	照明器具	図示記号J	2.0	台			
	照明器具	図示記号K	6.0	台			
	照明器具	図示記号L	3.0	台			
	照明器具	図示記号M	3.0	台			

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
	照明器具	図示記号O	3.0	台			
	照明器具	図示記号P1	1.0	台			
	照明器具	図示記号P2	2.0	台			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	非常用照明設備工事						
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C (天井内)	60.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-2C (天井内)	3.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-2C (PF内)	2.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	2.0	m			
	非常用照明	図示記号a	3.0	台			
	非常用照明	図示記号b	7.0	台			
	非常用照明	図示記号c	2.0	台			
	防火区画貫通処理		1.0	箇所			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
8	誘導標識設備工事						
	誘導標識		9.0	枚			
	小計						

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
9	放送設備工事						
	ケーブル	EM-AE1.2-2C (天井内)	49.0	m			
	ケーブル	EM-AE1.2-2C (PF内)	6.0	m			
	ケーブル	EM-AE1.2-3C (天井内)	137.0	m			
	ケーブル	EM-AE1.2-3C (PF内)	19.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	25.0	m			
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	13.0	個			
	防雨入線プレート		2.0	個			
	卓上型アンプ	60W ラジオ付	1.0	式			
	卓上型マイク		1.0	個			
	天井埋込型スピーカー	3W	9.0	個			
	天井埋込型スピーカー	3W ATT付	12.0	個			
	ワイヤホンスピーカー	15W	3.0	個			
	埋込アッテネーター	3W (金属プレート)	9.0	個			

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	防火区画貫通処理		4.0	箇所			
	端子盤	TB-1	1.0	面			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
10	テレビ共聴設備工事						
	ケーブル	EM-S-5C-FB (天井内)	38.0	m			
	ケーブル	EM-S-5C-FB (PF内)	12.0	m			
	ケーブル	EM-S-7C-FB (天井内)	50.0	m			
	ケーブル	EM-S-7C-FB (PF内)	5.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	12.0	m			
	電線管	(PF22) (隠蔽)	5.0	m			
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	4.0	個			
	防雨入線プレート		1.0	個			
	直列ユニット	2端子端末用	3.0	個			
	増幅器	UF・CS・BS用	1.0	台			
	分配器	4分配	1.0	台			
	アンテナ	BCS用 50A	1.0	組			
	アンテナ	UHF用 AU-2 20素子(全帯域用)	1.0	組			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	アンテナmast	側壁付 H=4.0m 溶融亜鉛メッキ製	1.0	基			
	小計						

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
11	構内交換設備工事						
	ケーブル	EM-EBT0.4-2P (天井内)	34.0	m			
	ケーブル	EM-EBT0.4-2P (PF内)	29.0	m			
	ケーブル	EM-EBT0.4-2P (OAフロア)	22.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	8.0	m			
	電線管	(PF28) (隠蔽)	113.0	m			
	呼び線	PF内	113.0	m			
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	5.0	個			
	鋼板製フルボックス	300×300×200(0.42m2)	1.0	個			
	通報装置用ボックス		1.0	個			
	電話用アウトレット	6極4心 フロア用	3.0	個			
	プレート	金属製 6極4心	4.0	個			
	プレート	金属製 角ノズル	1.0	個			
	電話主装置		1.0	式			

本工事費内訳書

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
	多機能電話機		1.0	台			
	多機能電話機	停電対応	1.0	台			
	一般電話機		3.0	台			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
12	情報配線設備工事						
	ケーブル	EM-UTP-CAT5E-4P (天井内)	28.0	m			
	ケーブル	EM-UTP-CAT5E-4P (PF内)	33.0	m			
	ケーブル	EM-UTP-CAT5E-4P (OAフロア)	32.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	8.0	m			
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	4.0	個			
	情報用アウトレット	フロア用	4.0	個			
	プレート	金属製 CAT5E用	4.0	個			
	スイッチングHUB	12ポート	1.0	台			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
13	電気錠・インターホン設備工事						
	ケーブル	EM-AE1.2-2C (天井内)	94.0	m			
	ケーブル	EM-AE1.2-2C (PF内)	19.0	m			
	電線管	(PF16) (隠蔽)	19.0	m			
	樹脂製アウトレットボックス	中四角 浅型 D44 (カバー付)	8.0	個			
	電気錠操作器	1回路 埋込型	1.0	台			
	シーケレットスイッチ	埋込型 取付プレート共	1.0	個			
	電気錠押釦	開戸・開錠表示ランプ付	2.0	個			
	モニター付親機	2・4タイプ カメラ付玄関子機	1.0	台			
	モニター付増設親機		2.0	台			
	小計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	機械設備工事						
A	給排水衛生設備工事		1.0	式			
B	冷暖房換気設備工事		1.0	式			
	Ⅲ計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
A	給排水衛生設備工事						
1	衛生器具設備工事		1.0	式			
2	給水設備工事		1.0	式			
3	給湯設備工事		1.0	式			
4	排水設備工事		1.0	式			
5	ガス設備工事		1.0	式			
6	さく井工事		1.0	式			
7	浄化槽設備工事		1.0	式			
	A. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	衛生器具設備工事						
	洋風便器	フラッシュタンク式、防露便器、防露タンク、 トルネード洗浄、止水栓、 温水洗浄便座	3.0	組			
		棚付二連紙巻器、他一式共					
	壁掛小便器	自動洗浄、低リップ、節水タイプ、 ブラケット、他一式共	2.0	組			
	洗面器	カウンター一体形壁掛洗面器、 自動水栓、排水金具(P)、 ブラケット、他一式共	3.0	組			
	シングルレバー混合水栓	台付シングルレバー混合水栓、 ソフトシャワー	1.0	ヶ			
	洗面化粧台	人工大理石ボール、間口750mm、 エコシングル、止水栓(床)、 排水トラップ(床)、化粧鏡	2.0	組			
	ユニットバス	～建築工事 (シャワー水栓、排水トラップ等一式共)	2.0	基			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	汚物流し	掃除口付床置床排水汚物流し、	1.0	組			
		フラッシュバルブ、レバー式自在水栓、 床排水フランジ、他一式共					
	シャワー水栓	サーモスタット混合水栓、吐水口付、	1.0	ヶ			
		ハンガー、ホース、他一式共					
	洗濯機用水栓	洗濯機用水栓(緊急止水付)	1.0	ヶ			
	シングルレバー混合水栓	ゲースネックタイプ、サーモ付自動水栓	2.0	ヶ			
	化粧鏡	アーチ形耐食鏡、300×450	2.0	面			
	研ぎ出し流し	レジンコンクリート製、埋込形、	2.0	台			
		550W×470D×160H、オーバーフロー付 くさり付共栓共					
	不凍水栓柱	1,200H	2.0	ヶ			
	横水栓	ホース接続型、13-F12、13φ、不凍コマ	2.0	ヶ			
	散水栓	13φ、伸縮式(400H)、	3.0	組			
		ホースアダプター付吐水口、固定板付 SUS製散水栓ボックス共					

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	1. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	給水設備工事						
(1)	屋外給水設備						
	耐衝撃性塩ビ管	75HIVP(地中配管)	7.0	m			
	〃	30HIVP(地中配管)	33.0	〃			
	〃	25HIVP(地中配管)	29.0	〃			
	〃	20HIVP(地中配管)	87.0	〃			
	仕切弁	ライニング弁 GV-80(10K)	1.0	ヶ			
	〃	GV-32(10K)(コア付)	2.0	〃			
	KRバルブ	KRV-30	2.0	ヶ			
	〃	KRV-20	7.0	〃			
	バルブBOX	VC-5	1.0	ヶ所			
	〃	VC-P	10.0	〃			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	埋設表示杭及びピン		1.0	式			
	埋設表示テープ		1.0	式			
	量水器取付費	30A (貸与品)	1.0	ヶ所			
	量水器ボックス	30A用	1.0	〃			
	分水栓割T	100DIP×75	1.0	〃			
	土工事		1.0	式			
	既設道路アスファルト 解体復旧工事	仮復旧、本復旧、処分共	1.0	式			
	2.(1) 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	屋内給水設備						
	ステンレス鋼管	30SUS (機械室・便所) (圧縮・プレス接合)	27.0	m			
	〃	25SUS (機械室・便所) (圧縮・プレス接合)	12.0	〃			
	〃	20SUS (機械室・便所) (圧縮・プレス接合)	55.0	〃			
	KRバルブ	KRV-20	3.0	ヶ			
	フレキシブル継手	20A×300L	3.0	ヶ			
	フレキシブルチューブ	20A SUS製	2.0	本			
	保温工事		1.0	式			
	根伐埋戻し		1.0	〃			
	2.(2) 小 計						
	2. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	給湯設備工事						
	ガスふろ給湯器	屋外壁掛型、20号、エコジョーズ	2.0	台			
		能力(給湯36.7kW、ふろ11.6kW)、 AC100V 85W(ヒーター作動時147W)					
		壁掛金具、他一式共					
	ガス給湯器	屋外壁掛型、20号、エコジョーズ	1.0	台			
		能力(給湯37.5kW)、 AC100V 40W(ヒーター作動時133W)					
		リモコン、リモコンコード、 屋外カバー(1200)、壁掛金具、					
		他一式共					
	電気温水器	元止め式、据置型、貯湯量12L、	1.0	台			
		AC100V(1.1KW)、ウォーグリータイマー 飲料用立水栓、排水ホッパー、					
		アングル止水栓、耐震用脚、他一式共					
	ステンレス鋼管	20 SUS (機械室・便所) (圧縮・プレス接合)	33.0	m			
	システムチューブ	12.9φ×2、保温付	19.0	m			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	保温工事		1.0	式			
	根伐埋戻し		1.0	式			
	3. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	排水設備工事						
(1)	屋外排水設備						
	塩化ビニル管	125VP(地中配管)	21.0	m			
	〃	75VP(地中配管)	28.0	〃			
	〃	50VP(地中配管)	6.0	〃			
	〃	30VP(地中配管)	3.0	〃			
	小口径汚水桝	125-200、ST 501~800H 防護ハット(T-14)	3.0	ヶ所			
	〃	125-200、L 501~800H 防護ハット(T-14)	1.0	〃			
	〃	125-200、Y 501~800H 防護ハット(T-14)	1.0	〃			
	〃	75×50-200、Y 501~800H 防護ハット(T-14)	1.0	〃			
	〃	75-125、L ~500H 防護ハット(T-14)	2.0	〃			
	〃	75-125、L 501~800H 防護ハット(T-14)	1.0	〃			
	土工事		1.0	式			
	4.(1) 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	屋外雨水設備						
	塩化ビニル管	150VP(地中配管)	14.0	m			
	〃	125VP(地中配管)	75.0	〃			
	〃	100VP(地中配管)	54.0	〃			
	〃	75VP(地中配管)	13.0	〃			
	排水目皿	D-80	5.0	ヶ			
	小口径浸透枳	100-200、L 501~800H 防護ハット 下部碎石500□	1.0	ヶ所			
	〃	100-200、Y 501~800H 防護ハット 下部碎石500□	3.0	〃			
	〃	125-200、WLS 501~800H 防護ハット 下部碎石500□	1.0	〃			
	〃	125-200、L 801~1200H 防護ハット 下部碎石500□	1.0	〃			
	〃	125-200、Y 801~1200H 防護ハット 下部碎石500□	4.0	〃			
	〃	125-200、WLS 801~1200H 防護ハット 下部碎石500□	1.0	〃			
	浸透枳	RB-800、格子蓋500□ (重耐重蓋)、下部碎石800□	1.0	〃			
	〃	RB-1000、格子蓋500□ (重耐重蓋)、下部碎石800□	3.0	〃			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	浸透枳	RB-1000、防臭蓋500φ (重耐重蓋)、下部碎石800□	1.0	〃			
	〃	RB-1200、格子蓋500□ (重耐重蓋)、下部碎石800□	2.0	ヶ所			
	土工事		1.0	ヶ所			
	4.(2) 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(3)	屋内排水設備						
	塩化ビニル管	125VP(屋内一般)	23.0	m			
	塩化ビニル管	100VP(便所)	19.0	〃			
	〃	75VP(便所)	4.0	〃			
	〃	65VP(便所)	8.0	〃			
	〃	50VP(便所)	23.0	〃			
	〃	40VP(便所)	10.0	〃			
	床上掃除口	COA-65	2.0	ヶ			
	〃	COA-50	11.0	〃			
	〃	COA-40	1.0	〃			
	排水金物	D-50	1.0	〃			
	Uトラップ	U-50	2.0	〃			
	定水位通気弁	50A	5.0	〃			
	排水フレキ	125A	1.0	〃			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	根伐埋戻し		1.0	式			
	4.(3) 小 計						
	4. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	ガス設備工事						
	白ガス管	25A (屋内一般)	38.0	m			
	〃	20A (屋内一般)	27.0	〃			
	ガスコック	GC-25	1.0	ヶ			
	〃	GC-20	3.0	〃			
	フレキシブル継手	20A×300L	3.0	ヶ			
	5. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	さく井工事						
	仮設費	機械搬入準備、機械組立、 解体・撤去・発電機	1.0	式			
	掘削費	削井技士、削井助手	1.0	式			
	材料費	ケーシングパイプ硬質塩化ビニル、 スクリーン加工費、砂止めポリネット網、	1.0	式			
		充填砂利・珪砂、接着剤、 ボトム加工費					
	ケーシング挿入費	ケーシング準備費、ケーシング挿入費、 珪砂及び砂充填費、遮水工	1.0	式			
	電気検層費	孔内電気検層工	1.0	式			
	排泥工費	残土処理費、バキューム車使用	1.0	式			
	井戸仕上費	エアリフト工法、コンプレッサー、 回送費(トラック)、技術作業員	1.0	式			
	揚水試験費	仮設用試験ポンプリース、 揚水管40φリース、	1.0	式			
		ノッチタックホース・ポンプ、 仮設ポンプ据付及び撤去費、					
		発電機、回送費、技術員					
	消耗品：機械損料	粘土・さく井機・ビット・ワイヤ	1.0	式			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	報告書作成費	地層断面図、孔内電気検層図、	1.0	式			
		揚水試験測定記録表、					
		水質試験成績書、工事記録写真、					
		産業廃棄物管理表、地質標本箱					
	井戸ポンプ		1.0	台			
	揚水設備工事	揚水管(SUS)衤 <sup>レ</sup> 込み、	1.0	式			
		SUS用継手品、バルブ、					
		不凍水栓柱、横水栓、基礎工事					
		ポンプ据付工事					
	現場管理費		1.0	式			
	6. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	浄化槽設備工事						
	合併処理浄化槽	10人槽、BOD10PPM、T-N10PPM	1.0	式			
		T-P10PPM、SS10PPM、嵩上げ300H					
		ブロー、マンホール、					
		放流ポンプ槽、放流ポンプ					
	据付工事		1.0	式			
	配管設備工事		1.0	式			
	電気設備工事		1.0	式			
	試運転調整費		1.0	式			
	7. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
B	冷暖房換気設備工事						
1	冷暖房機器設備工事		1.0	式			
2	冷暖房配管設備工事		1.0	式			
3	換気機器設備工事		1.0	式			
	B. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	冷暖房機器設備工事						
	AC-1 パッケージエアコン		1.0	組			
	天カセ4方向、(R32)(4.0HP相当) 冷房能力 10.0(3.1~11.2)kW, 暖房能力 11.2(2.8~14.0)kW						
	圧縮機1.95kW、FAN(内)0.094kW,(外)(0.07+0.07)kW、 化粧パネル、ロングライフフィルター、ドレンアップメカ、 ワイヤードリモコン、他一式共						
	AC-2 パッケージエアコン		2.0	組			
	天カセ4方向、(R32)(3.0HP相当) 冷房能力 7.1(1.8~8.0)kW, 暖房能力 8.0(2.0~10.6)kW						
	圧縮機1.55kW、FAN(内)0.057kW,(外)0.05kW、 化粧パネル、ロングライフフィルター、ドレンアップメカ、 ワイヤードリモコン、他一式共						
	AC-3 パッケージエアコン		2.0	組			
	天カセ2方向、(R32)(3.0HP相当) 冷房能力 7.1(1.8~8.0)kW, 暖房能力 8.0(2.0~10.6)kW						
	圧縮機1.55kW、FAN(内)0.057kW,(外)0.05kW、 化粧パネル、ロングライフフィルター、ドレンアップメカ、 ワイヤードリモコン、他一式共						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	AC-4 パッケージエアコン		1.0	組			
		天カセ2方向、(R32)(1.5HP相当) 冷房能力 3.6(1.1~4.0)kW、暖房能力 4.0(1.0~5.4)Kw					
		圧縮機0.55kW、FAN(内)78W、(外)70W、 化粧パネル、ロングライフフィルター、ドレンアップメカ、					
		ワイヤードリモコン、分ダクトフランジ(PDF-63DC)、 フレキシブルダクト150φ(1m×2本)、吹出ユニット(BPD-7WB)、					
		他一式共					
	AC-5 ルームエアコン		6.0	組			
		壁掛型、(R32) (6畳程度) 冷房能力 2.2(0.3~2.8)kW、暖房能力 2.2(0.2~4.1)kW					
		圧縮機600W、 フィルター自動掃除、ワイヤレスリモコン、他一式共					
	エアコン室外機架台		2.0	台			
		二段置台、SUS製 下段エアコン有効寸法(1,144×437×1,475H) 最大積載質量(200kg×2台)					
	エアコン室外機架台		3.0	台			
		二段置台、SUS製 下段エアコン有効寸法(721×310×730H) 最大積載質量(60kg×2台)					

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	エアコン室外機架台		2.0	台			
	平置台(1台用)、SUS製 最大積載質量(200kg)						
	機器設置工事		1.0	式			
	1. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	冷暖房配管設備工事						
	冷媒用被覆銅管	液管6.4φ 保温厚8mm	58.0	m			
	〃	液管9.5φ 保温厚8mm	94.0	〃			
	〃	ガス管 9.5φ 保温厚20mm	28.0	〃			
	〃	ガス管12.7φ 保温厚20mm	30.0	〃			
	〃	ガス管15.9φ 保温厚20mm	94.0	〃			
	塩化ビニル管	40VP (屋内一般)	26.0	m			
	〃	30VP (屋内一般)	20.0	〃			
	〃	25VP (屋内一般)	14.0	〃			
	保温塗装工事		1.0	式			
	リモコン配線及び内外渡り操作線工事		1.0	式			
	2. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	換気機器設備工事						
	EXF-1 空調換気扇	天井カセット、 (急速)150m <sup>3</sup> /H×75Pa、 (24H)44m <sup>3</sup> /H×6Pa	1.0	台			
		インテリアパネル、 コントロールスイッチ等一式共					
	EXF-2 空調換気扇	天井カセット (急速)250m <sup>3</sup> /H×57Pa、 (24H)95m <sup>3</sup> /H×8Pa	1.0	台			
		インテリアパネル、 コントロールスイッチ等一式共					
	EXF-3 空調換気扇	壁掛型 (24H)16m <sup>3</sup> /H 給排気パイプ、専用フード(SUS製)	6.0	台			
	F-1 天井扇	低騒音形、スリットインテリアタイプ (強)700m <sup>3</sup> /H×55Pa、 (弱)550m <sup>3</sup> /H×35Pa	2.0	台			
		コントロールスイッチ共					

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	F-2 天井扇	低騒音形、スリットインテリアタイプ	1.0	台			
		(強)500m <sup>3</sup> /H×100Pa、 (弱)400m <sup>3</sup> /H×80Pa					
		コントロールスイッチ共					
	F-3 天井扇	低騒音形	1.0	台			
		スリットインテリアタイプ 350m <sup>3</sup> /H×50Pa					
	F-4 天井扇	低騒音形	3.0	台			
		250m <sup>3</sup> /H×45Pa					
	F-5 天井扇	低騒音形	1.0	台			
		(強)275m <sup>3</sup> /H×30Pa (24H)140m <sup>3</sup> /H×10Pa					
		コントロールスイッチ共					
	F-6 天井扇	低騒音形	1.0	台			
		150m <sup>3</sup> /H×55Pa					
	F-7 天井扇	低騒音形、スリットインテリアタイプ	2.0	台			
		75m <sup>3</sup> /H×23Pa					

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	F-8 天井扇	低騒音形 40m <sup>3</sup> /H×13Pa	1.0	台			
	F-9 天井扇	2部屋換気用、低騒音形 150m <sup>3</sup> /H×55Pa	2.0	台			
	F-10 ルーフファン	耐圧型防爆型ベンチレーター 200φ 540m <sup>3</sup> /h×30Pa	1.0	台			
	F-11 レンジフードファン	ブース形(深型) (強)400m <sup>3</sup> /H×35Pa、(弱)270m <sup>3</sup> /H×20Pa	1.0	台			
	深形パイプフード	100φ (SUS製、ギャラリ付) 指定色焼付	7.0	ヶ			
	〃	150φ (SUS製、ギャラリ付) 指定色焼付	13.0	〃			
	〃	200φ (SUS製、ギャラリ付) 指定色焼付	2.0	〃			
	ベントキャップ	100φ (SUS製、ギャラリ付) 指定色焼付	1.0	ヶ			
	〃	150φ (SUS製、ギャラリ付) 指定色焼付	1.0	〃			
	給排気グリル	150φ (樹脂製、フィルター付、 風量調節機構付)	5.0	ヶ			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	スパイラルダクト	200φ	17.0	m			
	〃	150φ	50.0	〃			
	〃	100φ	41.0	〃			
	保温工事		1.0	式			
	3. 小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
IV	外構工事						
1	舗装関連		1.0	式			
2	雑工作物関連		1.0	式			
	IV.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	舗装関連						
	ライン引き	溶融式 W150	85.0	m			
	ゼブラマーク ライン引き	溶融式 W300	10.0	m			
	身障者マーク ライン引き	溶融式 W150×L5.0	1.0	カ所			
	車止め	アンカー式 L600	22.0	カ所			
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	雑工作物関連						
	掲揚ポール	基礎共 H5000	1.0	カ所			
	発電機基礎	2900X1450X300	1.0	カ所			
	ブロー基礎	2次製品 360X450X60	1.0	カ所			
	井戸ポンプ基礎	2次製品 130×450×800	1.0	カ所			
	浄化槽基礎		1.0	カ所			
	ホース洗場・乾燥棟		1.0	カ所			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
I	浄化槽基礎						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
	I. 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	水盛りかた	一般	5.8	m <sup>2</sup>			
	養生	一般	5.8	m <sup>2</sup>			
	整理清掃片付	一般	5.8	m <sup>2</sup>			
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 総堀	40.3	m <sup>3</sup>			
	床付		6.8	m <sup>2</sup>			
	埋戻し土	根切土流用	18.5	m <sup>3</sup>			
	不用土処分		21.8	m <sup>3</sup>			
	砕石地業	T 50	0.3	m <sup>3</sup>			
	山留め	見付面積 40.64m <sup>2</sup> 見付高さ 2420 延 16.80m	40.6	m <sup>2</sup>			
	杭間ざらい		4.0	ヶ所			
	土工機械運搬費		1.0	往復			
	2.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	地業工事						
	羽根付鋼管杭	STK490 139.8Φ×L9.0m×T6.6	4.0	セット			
	施工費	回転圧入工法	1.0	式			
	杭頭補強		1.0	式			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A D13	0.1	t			
	鉄筋加工組立		0.1	t			
	運搬費		0.1	t			
	スクラップ控除		0.01	t			
	4.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	コンクリート工事						
	均しコンクリート	FC-18(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	0.3	m <sup>3</sup>			
	基礎部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	2.0	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎捨てコンクリート	0.3	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎	2.0	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎捨てコンクリート	0.3	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎	2.0	m <sup>3</sup>			
	ポンプ車基本料金	30m <sup>3</sup> 以上50m <sup>3</sup> 未満	2.0	台			
	5.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	型枠工事						
	基礎部 普通型枠		3.5	m <sup>2</sup>			
	運搬費		3.5	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	普通合板型枠	3.5	m <sup>2</sup>			
	6.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
I	発電機基礎						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
7	雑工事		1.0	式			
	I. 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	水盛りかた	一般	3.5	m <sup>2</sup>			
	養生	一般	3.5	m <sup>2</sup>			
	整理清掃片付	一般	3.5	m <sup>2</sup>			
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 壺布併用堀	4.3	m3			
	床付		4.3	m <sup>2</sup>			
	埋戻し土	根切土流用	2.5	m3			
	不用土処分		1.8	m3			
	基礎 砕石地業	T 50	0.2	m3			
	杭間ざらい		4.0	ヶ所			
	土工機械運搬費		1.0	往復			
	2.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	地業工事						
	羽根付鋼管杭	STK490 139.8Φ×L11.0m×T6.6	4.0	セット			
	施工費	回転圧入工法	1.0	式			
	杭頭補強		1.0	式			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A D13	0.1	t			
	鉄筋加工組立		0.1	t			
	運搬費		0.1	t			
	スクラップ控除		0.01	t			
	4.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	コンクリート工事						
	均しコンクリート	FC-18(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	0.2	m <sup>3</sup>			
	基礎部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	2.4	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎捨てコンクリート	0.2	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎	2.4	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎捨てコンクリート	0.2	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎	2.4	m <sup>3</sup>			
	ポンプ車基本料金	30m <sup>3</sup> 以上50m <sup>3</sup> 未満	2.0	台			
	5.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	型枠工事						
	基礎部 普通型枠		5.7	m <sup>2</sup>			
	運搬費		5.7	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	普通合板型枠	5.7	m <sup>2</sup>			
	6.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	雑工事						
	床 コンクリート直押え		3.5	m <sup>2</sup>			
	7.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
I	ホース洗い場・乾燥棟						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
7	雑工事		1.0	式			
	I. 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	水盛りかた	一般	10.9	m <sup>2</sup>			
	養生	一般	10.9	m <sup>2</sup>			
	整理清掃片付	一般	10.9	m <sup>2</sup>			
	I. 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 壺布併用堀	22.5	m <sup>3</sup>			
	床付		15.5	m <sup>2</sup>			
	埋戻し土	根切土流用	17.0	m <sup>3</sup>			
	不用土処分		5.4	m <sup>3</sup>			
	基礎 砕石地業	T 50-100	1.5	m <sup>3</sup>			
	砕石地業	M30	0.6	m <sup>3</sup>			
	砂敷き		0.1	m <sup>3</sup>			
	杭間ざらい		1.0	ヶ所			
	透湿シート		3.8	m <sup>2</sup>			
	土工機械運搬費		1.0	往復			
	2.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	地業工事						
	羽根付鋼管杭	STK490 216.3Φ×L10.0m×T8.2	1.0	セット			
	施工費	回転圧入工法	1.0	式			
	杭頭補強		1.0	式			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A D10	0.1	t			
	異形鉄筋	SD295A D13	0.2	t			
	鉄筋加工組立		0.3	t			
	運搬費		0.3	t			
	スクラップ控除		0.01	t			
	4.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	コンクリート工事						
	均しコンクリート	FC-18(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	0.8	m <sup>3</sup>			
	基礎部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	5.4	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎捨てコンクリート	0.8	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎	5.4	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎捨てコンクリート	0.8	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎	5.4	m <sup>3</sup>			
	ポンプ車基本料金	30m <sup>3</sup> 以上50m <sup>3</sup> 未満	2.0	台			
	5.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	型枠工事						
	基礎部 普通型枠		26.9	m <sup>2</sup>			
	運搬費		26.9	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	普通合板型枠	26.9	m <sup>2</sup>			
	6.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	雑工事						
	NAホスポール	12本吊 H14400	1.0	ヶ所			
	床 コンクリート直押え		10.9	m <sup>2</sup>			
	7.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
I	国旗掲揚ポール基礎						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	鉄筋工事		1.0	式			
4	コンクリート工事		1.0	式			
5	型枠工事		1.0	式			
6	雑工事		1.0	式			
	I. 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	水盛りかた	一般	0.5	m <sup>2</sup>			
	養生	一般	0.5	m <sup>2</sup>			
	整理清掃片付	一般	0.5	m <sup>2</sup>			
	1.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 壺布併用堀	3.5	m <sup>3</sup>			
	床付		0.8	m <sup>2</sup>			
	埋戻し土	根切土流用	2.8	m <sup>3</sup>			
	不用土処分		0.7	m <sup>3</sup>			
	基礎 碎石地業	T 150	0.1	m <sup>3</sup>			
	土工機械運搬費		1.0	往復			
	2.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A D10	0.02	t			
	異形鉄筋	SD295A D13	0.02	t			
	鉄筋加工組立		0.03	t			
	運搬費		0.03	t			
	スクラップ控除		0.01	t			
	3.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	コンクリート工事						
	均しコンクリート	FC-18(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	0.1	m <sup>3</sup>			
	基礎部 鉄筋コンクリート	FC-24(N/m <sup>2</sup> ) スランプ <sup>o</sup> 15	0.5	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎捨てコンクリート	0.1	m <sup>3</sup>			
	打設手間	基礎	0.5	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎捨てコンクリート	0.1	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送費	基礎	0.5	m <sup>3</sup>			
	ポンプ車基本料金	30m <sup>3</sup> 以上50m <sup>3</sup> 未満	2.0	台			
	4.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	型枠工事						
	基礎部 普通型枠		2.9	m <sup>2</sup>			
	運搬費		2.9	m <sup>2</sup>			
	型枠廃材処分費	普通合板型枠	2.9	m <sup>2</sup>			
	5.計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	雑工事						
	国旗掲揚ポール	運搬費、取付費共 H5000	1.0	ヶ所			
	床 コンクリート直押え		0.5	m <sup>2</sup>			
	6.計						

様式6号(建築工事用)

本 工 事 費 内 訳 書							
番 号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	共通費(積上げ分)						
	仮囲い	存置期間 294日 H1800 ペニヤ					
	シートゲート	防炎・防水シート W6000×H4500					
	VOC測定	パッシブサンプラー データ整理,報告書作成共					
	敷鉄板	建築工事用 t=22 架払い手間共					
	造成設計積上げ分	別紙参照造成設計 共通仮設費参照					
	合計						

# 本 工 事 費 内 訳 書

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
造成工事	1	式			
土工	1	式			
掘削工	1	式			
掘削 土砂 オープンカット無し 無し 5,000m3未満	120	m3			第1号 代価表
人力路床面仕上げ	170	m2			第2号 代価表
盛土工	1	式			
路床盛土 4.0m以上 10,000m3未満 無し	3,900	m3			第3号 代価表
路体(築堤)盛土 4.0m以上 10,000m3未満 無し	1,500	m3			第4号 代価表
積込(ルース) 土砂 土量50,000m3未満	5,600	m3			第5号 代価表
土砂等運搬 標準 バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3) 土砂 無し 11.5km以下	5,560	m3			第6号 代価表
残土処理工	1	式			
土砂等運搬 標準 バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3) 土砂 無し 11.5km以下	180	m3			第6号 代価表
残土等処分 ストックヤード 利用料金 発生土搬入	180	m3			第7号 代価表
地盤改良工	1	式			
安定処理工	1	式			
安定処理 スクリュー 0.6m以下 3.105t/100m2 1回	4,350	m2			第8号 代価表
法面工	1	式			
植生工	1	式			

# 本 工 事 費 内 訳 書

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
筋芝工 筋芝工 500m <sup>2</sup> 以上 (標準) 無	510	m <sup>2</sup>			第9号 代価表
張芝工 張芝工 500m <sup>2</sup> 以上 (標準) 無	520	m <sup>2</sup>			第10号 代価表
排水構造物工	1	式			
作業土工	1	式			
床掘り 土砂 平均施工幅1m以上2m未満 無し 無し	90	m <sup>3</sup>			第11号 代価表
埋戻し(最大埋戻幅 1m未満) 最大埋戻幅1m未満	30	m <sup>3</sup>			第12号 代価表
基面整正	200	m <sup>2</sup>			第13号 代価表
側溝工	1	式			
長尺U字溝(KUR300×300) 据付け L=2000mm 1000kg/個以下 車道用 再生クラッシャーランRB-40	87	m			第14号 代価表
長尺U字溝(KUR300×400) 据付け L=2000mm 1000kg/個以下 車道用 再生クラッシャーランRB-40	35	m			第15号 代価表
深溝U字溝(KDR300×500) 据付け L=2000mm 1000kg/個以下 車道用 再生クラッシャーランRB-40	29	m			第16号 代価表
深溝U字溝(KDR300×600) 据付け L=2000mm 1000kg/個以下 車道用 再生クラッシャーランRB-40	10	m			第17号 代価表
長尺U字溝(KUS250×250)[土木工事標準単価] 据付け L=2000mm 1000kg/個以下 再生クラッシャーランRB-40	200	m			第18号 代価表
長尺U字溝用コンクリート蓋版IRL-300 据付け 40を超え170kg/枚以下 現場打側溝用および長尺U字溝用蓋 横断用	145	枚			第19号 代価表
長尺U字溝用コンクリート蓋版IS-250 据付け 40を超え170kg/枚以下 現場打側溝用および長尺U字溝用蓋	377	枚			第20号 代価表
長尺U字溝用鋼製蓋版KUR300用 据付け 40を超え170kg/枚以下 (長尺U字溝用) プレーン T-25 300 用 IH0-1	16	枚			第21号 代価表
長尺U字溝用鋼製蓋版KUS250用 据付け 40kg/枚以下	10	枚			第22号 代価表
調整コンクリート(無筋・鉄筋構造物 人力打設) 無筋・鉄筋構造物 人力打設 高炉(指定無) 18 - 8 - 25 (20) 養生無し	2	m <sup>3</sup>			第23号 代価表

# 本工事費内訳書

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管渠工	1	式			
ヒューム管（遠心成形箱型） 360° 固定基礎 φ300×2400	8	m			第24号 代価表
暗渠排水管敷設 塩ビ管 φ100 据付直管 50～150mm硬質塩化ビニル管（薄肉管） VU- 100	9	m			第25号 代価表
集水柵・マンホール工	1	式			
1号集水柵	1	箇所			第26号 代価表
2号集水柵	1	箇所			第27号 代価表
3号集水柵	1	箇所			第28号 代価表
4号集水柵	1	箇所			第29号 代価表
5号集水柵	1	箇所			第30号 代価表
6号集水柵	1	箇所			第31号 代価表
7号集水柵	1	箇所			第32号 代価表
8号集水柵	1	箇所			第33号 代価表
9号集水柵	1	箇所			第34号 代価表
舗装工	1	式			
アスファルト舗装工	1	式			
下層路盤(車道・路肩部) 1層施工 150mm 再生クラッシャーラン RC-40	3,260	m <sup>2</sup>			第35号 代価表
上層路盤(車道・路肩部) 再生クラッシャーラン RC-40 2層施工 200mm	71	m <sup>2</sup>			第36号 代価表
上層路盤(車道・路肩部) 粒度調整碎石 M-30 1層施工 150mm	3,260	m <sup>2</sup>			第37号 代価表

# 本 工 事 費 内 訳 書

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
表層(車道・路肩部) 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 50mm 再生As混合物 アスファルト乳剤	71	m2			第38号 代価表
表層(車道・路肩部) 3.0m超 40mm 再生アスファルト混合物 アスファルト乳剤	3,260	m2			第39号 代価表
縁石工	1	式			
縁石工	1	式			
地先境界フックA 設置 地先境界フックRB-40 高炉(指定無) 18 - 8 - 25 (20) 無し	52	m			第40号 代価表
附帯工	1	式			
作業土工	1	式			
床掘り 土砂 上記以外(小規模)	30	m3			第41号 代価表
埋戻し(埋戻し用砂) 最大埋戻幅1m未満	4	m3			第42号 代価表
埋戻し(最大埋戻幅 1m未満) 最大埋戻幅1m未満	30	m3			第12号 代価表
附帯構造物工	1	式			
仕切弁筐設置 塩ビ管φ75用、台座付き	1	箇所			第43号 代価表
塩ビ管継手 TSキャップφ75	1	個			第44号 代価表
区画線工	1	式			
区画線設置 熔融式 破線 30cm 白	2	m			第45号 代価表
仮設工	1	式			
仮設工	1	式			
敷鉄板設置・撤去 設置・撤去 排出ガス対策型(第3次基準値)	1,289	m2			第46号 代価表

# 本 工 事 費 内 訳 書

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
敷鉄板賃料 22×1524×6096 無 16日 無 無 無	139	枚			第47号 代価表
構造物撤去工	1	式			
構造物取壊し工	1	式			
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下	11	m			第48号 代価表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 無し 不要 15cm以下 有り	7	m <sup>2</sup>			第49号 代価表
撤去工	1	式			
管布設工(据付工) 撤去(再使用しない)(0.3) Φ75mm	55	m			第50号 代価表
硬質塩化ビニル管切断工(撤去管) Φ75mm	9	口			第51号 代価表
廃材運搬処分工	1	式			
ダンプトラック(10t積級)運搬(破碎後バックホウ掘削・積込) コンクリート殻(無筋)、アスファルト殻 無 3.5km以下 良好	0.3	m <sup>3</sup>			第52号 代価表
アスファルト廃材処理費 (中間処理施設) 掘削材 40cm以下	0.8	t			
収集・運搬受託料金(建設系廃棄物) 2t・3tダンプ車 片道距離概ね25km 下限	1	1回			
廃プラ 建設系廃プラスチック類 (税別)	0.1	t			
直接工事費計	1	式			



# 本 工 事 費 内 訳 書

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
共通仮設費 積上げ	1	式			造成工事積上げ分
仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 条件から算出 10km 12m以内 0 輸送費のみ 無	223	t			第63号 代価表
仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 条件から算出 10km 12m以内 0 輸送費のみ 無	223	t			第63号 代価表
仮設材等の積込み、取卸し費 積込み、取卸し(往復分)	223	t			第64号 代価表
運搬費計	1	式			
CBR試験 室内CBR用試料採取 締め固めた土 70kg採取	1	箇所			
供試体作成 1配合6供試体	1	個			
土質試験 土の一軸圧縮試験 2供試体/試料 乱さない試料	3	試料			
土壌・底質・産業廃棄物分析 環境庁告示第46号溶出試験(前処理費・溶出液作成料含む) 六価ノム 溶出試験	1	検体			
技術管理費計	1	式			